



松本市総合計画(基本構想2030・第11次基本計画)の推進に向けた 市民意識調査 報告書

目次		ページ
第1章	調査の実施概要	2
	1. 調査の目的	2
	2. 本書の構成	2
	3. 調査実施概要	3
	4. 調査結果を見る際の留意点	3
	5. 回答者の属性	4
第2章	調査結果	7
	1. 生活満足度・充実度、定住意向、推奨度の分析	7
	2. 市民の日常生活における行動・活動の分析	13
	3. 7分野・47施策の現状評価に対する分析	22
	4. 「人口の定常化」に関する施策の現状評価に対する分析	33
第3章	資料編 属性ごとのクロス集計結果	45
	1. 市民の日常生活や行動の属性クロス集計	46
	2. 7分野・47施策の現状評価の属性クロス集計	55

第1章 調査の実施概要

1. 調査の目的

令和3年度に策定した松本市総合計画（基本構想2030・第11次基本計画）の着実な推進を図るため、政策分野や施策ごとに市民の現状意識を調査し、課題の把握・分析を行った。

調査結果は、実施計画策定など今後の政策立案に反映するとともに、次期基本計画の策定に向けた効果検証に活用するものとする。

■ 主な調査項目

① 松本市における暮らしの総合的な評価

- 生活満足度
- 生活充実度
- 定住意向(松本市で暮らし続けていくことへの意識)
- 推奨度(松本市で暮らすことを他者に勧めたい(推奨したい)度合い)

② 市民の日常生活における行動・活動の現状分析

各政策分野に関連する市民の日常生活における16項目の行動や活動状況について調査を実施

③ 第11次基本計画で掲げる基本施策の現状評価

基本計画で掲げた7分野・47の基本施策ごとのアウトカム(成果)について現状評価を実施

④ 「人口の定常化」に関する施策の現状評価

人口ビジョンで掲げた「人口の定常化」の実現に向け、出産・育児支援や移住促進に関する項目の現状評価を実施

2. 本書の構成

本書では、調査の実施概要を示したのち、第2章 調査結果については以下のとおり示している。

また、資料編では「市民の日常生活や行動」及び「7分野・47施策」について、年齢や性別など属性ごとのクロス集計結果を示している。

第1章 調査の実施概要

第2章 調査結果

1. 生活満足度・充実度、定住意向、推奨度の分析	満足度や定住意向など、暮らしに関する総合的な現状評価の結果を分析
2. 市民の日常生活における行動・活動の分析	市民の日常生活における行動・活動(16項目)について、現在の取組状況を分析
3. 7分野・47施策の現状評価に対する分析	第11次基本計画の7分野・47施策の現状を分析
4. 「人口の定常化」に関する施策の現状評価に対する分析	人口定常化に向け、「出産・育児支援」「移住施策」の現状評価を分析

第3章 資料編 属性ごとのクロス集計結果

1. 市民の日常生活や行動の属性クロス集計	市民の行動や活動について、年代・性別などでクロス集計を行った結果を示す
2. 7分野・47施策の現状評価の属性クロス集計	7分野・47施策について、年代・性別などでクロス集計を行った結果を示す

3. 調査実施概要

住民基本台帳から無作為で抽出した満18歳以上の市民2,400人を対象に、本調査を実施した。郵送で調査票等を配布し、回答は「紙の調査票」又は「インターネット」を選択可能とした。

「紙の調査票」と「インターネット」での重複回答を防ぐため、調査票にインターネット回答用の番号を記載した。

なお、調査依頼に当たっては、調査の趣旨や総合計画についての理解を深めてもらうため、総合計画のダイジェスト版を同封した。

実施概要

調査対象者	満18歳以上の市民
配布数	2,400件 ※転居等で29件が不着のため、実配布数は2,371件
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
配布方法	郵送
回答方法	郵送による紙の調査票の返送とインターネット回答を選択可能とした。
調査期間	令和3年11月30日～12月23日
回答数	1,310件 郵送:957件 インターネット回答:353件 (うち、3件が郵送による返送とインターネット回答の重複があり、インターネット回答を無効とした)
有効回答数	1,307件(うち、インターネット回答350件)
有効回答率	55.1% ※有効回答率は実配布数である2,371件に占める有効回答数

4. 調査結果を見る際の留意点

- 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合や文中に示す数値とグラフの数値が一致しない場合がある。
- 図表内のnは該当する設問の回答者数を表す。無回答を除いて集計しているため、設問ごとに回答者数が異なる。
- 1人の回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答の設問では、回答数の合計を回答者数(n)で割った比率を示しており、比率の合計は100%を超える。

単一回答の例(回答者数 20人の場合)

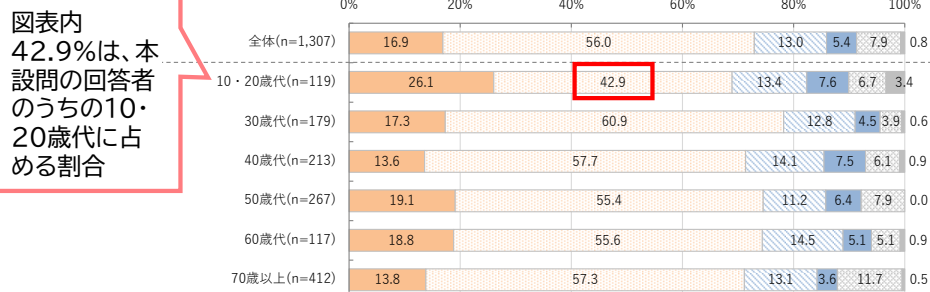
選択肢	男性	女性	計
回答数	10	10	20
単一回答割合	50%	50%	100%

複数回答の例(回答者数 20人の場合)

選択肢	A	B	計
回答数	20	10	30
複数回答割合	100%	50%	150%

- 属性ごとの違いを把握したい設問では、クロス集計を行っている。クロス集計とは設問を掛け合わせて集計することであり、図表内の割合に対する母数がどの属性に当たるのかを確認する必要がある。

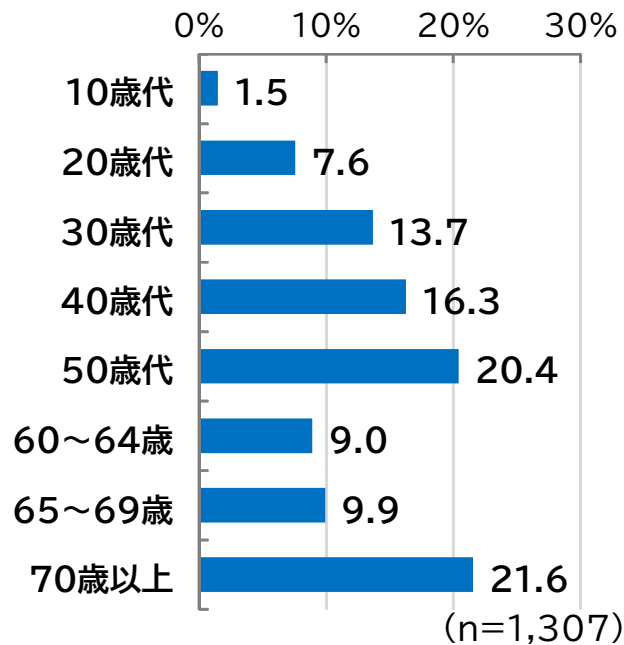
クロス集計の例



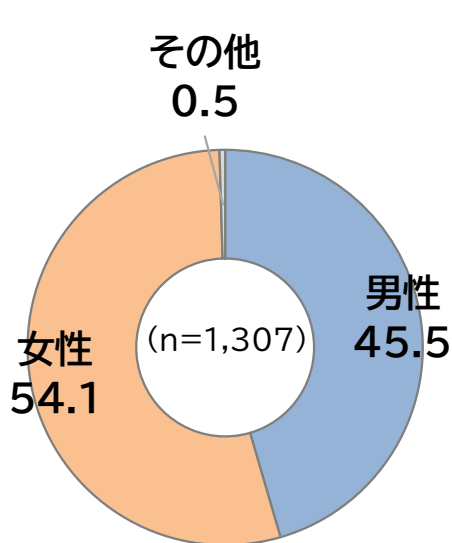
5. 回答者の属性

- 年代は、70歳以上が21.6%と最も多く、次いで50歳代で20.4%となっている。回答者の31.5%が65歳以上である。
- 性別は、女性が54.1%、男性が45.5%となっている。
- 世帯構成は、親と子（二世帯）世帯が50.6%と半数を占める。次いで夫婦のみ世帯が25.1%、ひとり暮らしが11.5%など、回答者の多くが核家族や単身世帯である。

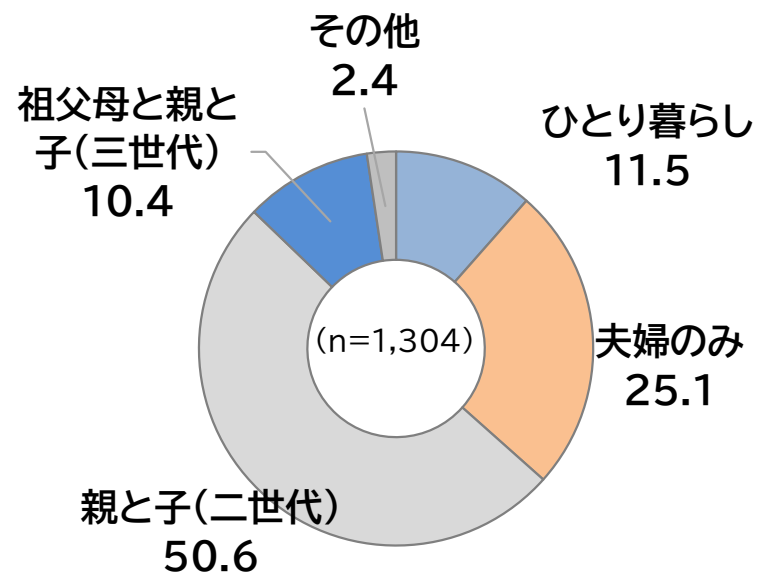
(1)年代



(2)性別



(3)世帯構成

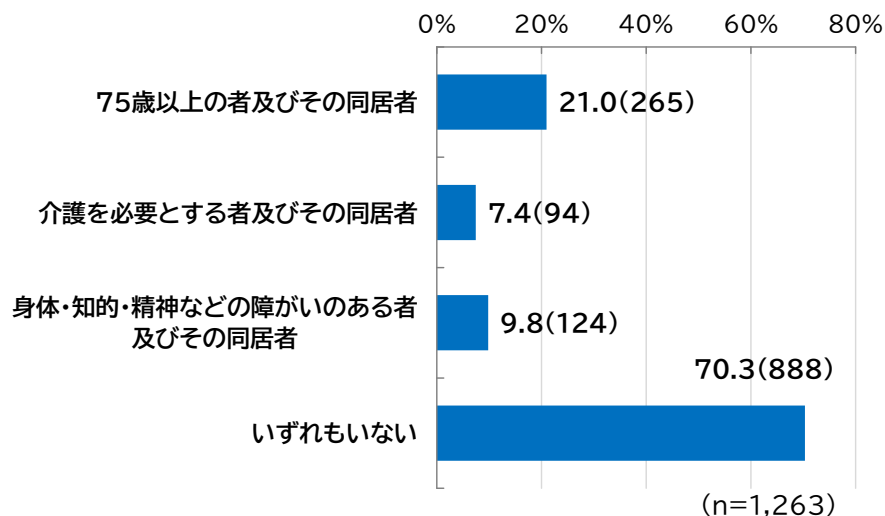


- 75歳以上の者及びその同居者は21.0%、介護を必要とする者及びその同居者は7.4%、身体・知的・精神などの障がい者及びその同居者は9.8%である。いずれもないとする割合は70.3%である。
- 高校生以下の子と同居する保護者の割合は29.2%である。

(4) 75歳以上の者、介護を必要とする者、身体・知的・精神などの障がい者との同居状況

※回答者自身も含め、回答を依頼

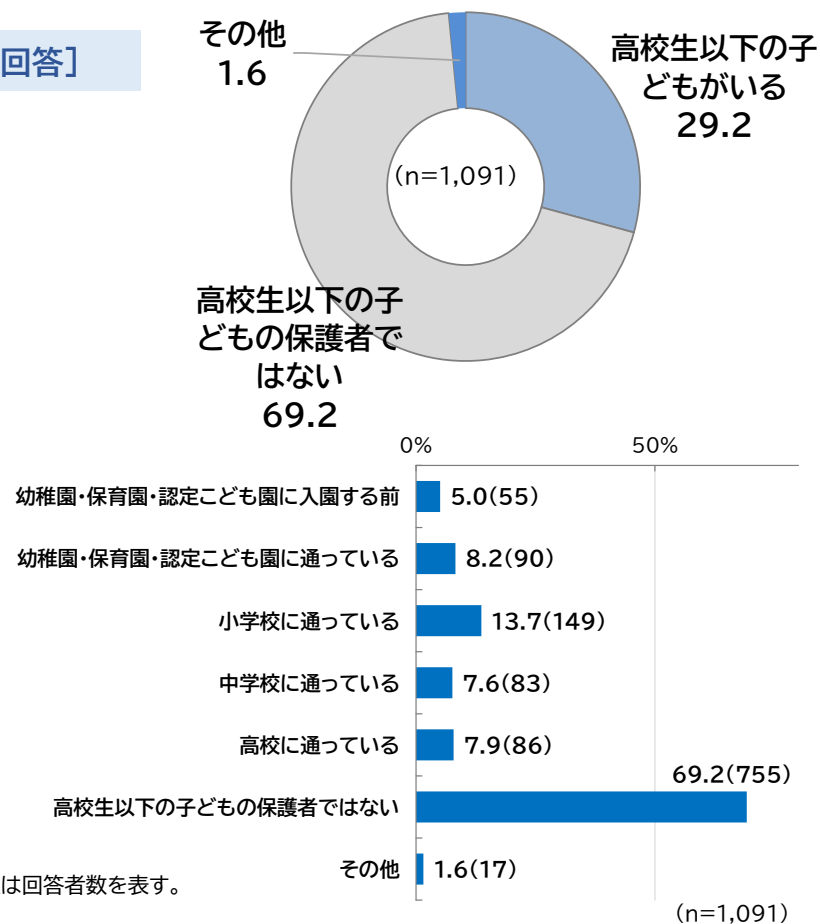
[複数回答]



※()内の数値は回答者数を表す。

(5) 高校生以下の子と同居する保護者

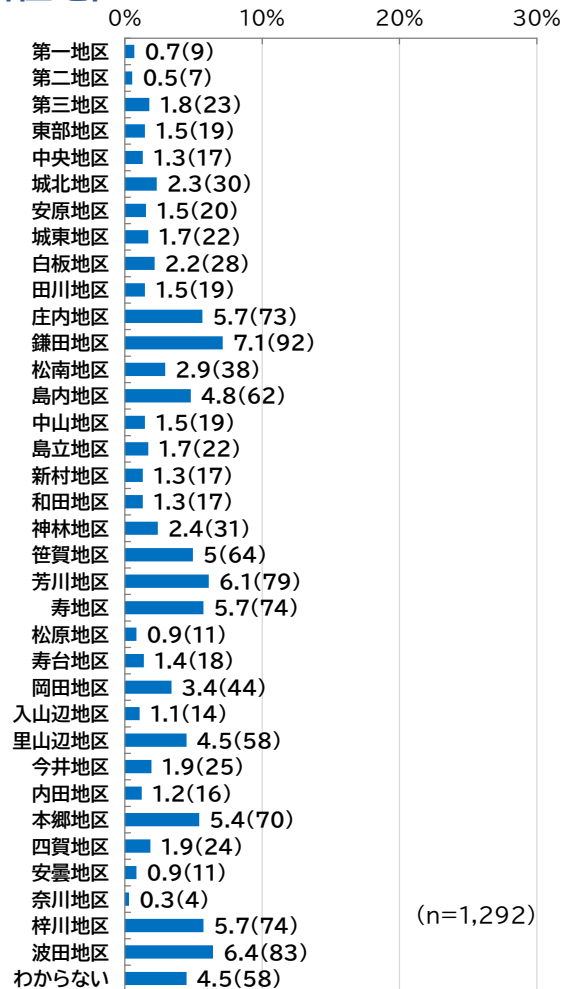
[複数回答]



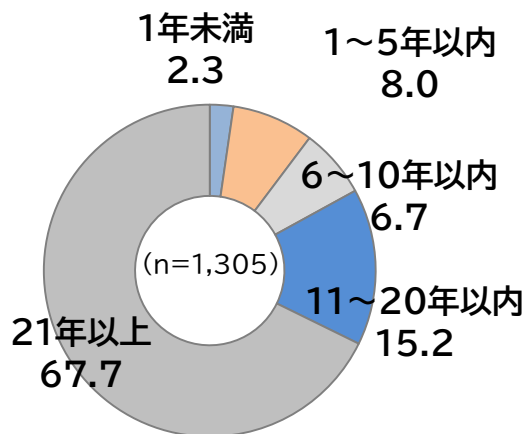
※()内の数値は回答者数を表す。

- 居住地区は、鎌田地区が最も多く、次いで波田地区、芳川地区、寿地区・梓川地区と続く。
- 居住年数は、21年以上が67.7%、次いで11～20年以内が15.2%となっている。
- 居住形態は、持ち家（一戸建て）が72.3%と最も高くなっている。
- 就業状況を見ると、正規の社員・従業員が37.7%、次いで非正規の社員・従業員が20.6%となっている。

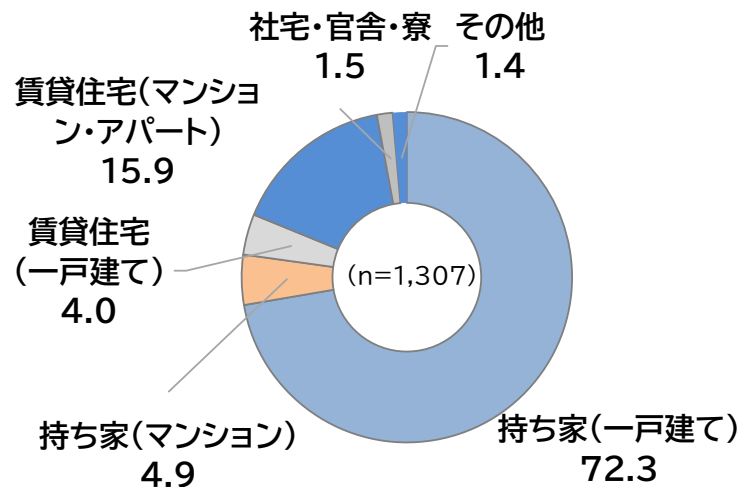
(6) 居住地区 ※()内の数値は回答者数を表す。



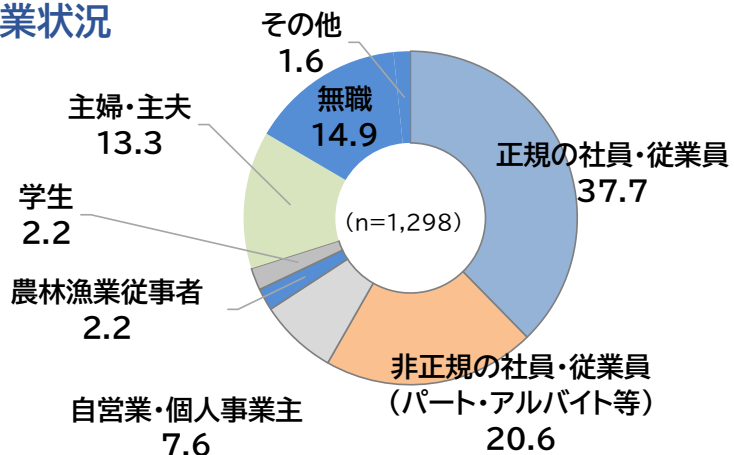
(7) 居住年数



(8) 居住形態



(9) 就業状況



掲載している分析結果

第2章	調査結果	
	1. 生活満足度・充実度、定住意向、推奨度の分析	満足度や定住意向など、暮らしに関する総合的な現状評価の結果を分析
	2. 市民の日常生活における行動・活動の分析	各政策分野に関連する市民の日常生活における16項目の行動や活動状況について、現在の取組状況を分析
	3. 7分野・47施策の現状評価に対する分析	第11次基本計画の7分野・47施策の現状を分析
	4. 「人口の定常化」に関する施策の現状評価に対する分析	人口定常化に向け、「出産・育児支援」「移住促進」に関する現状評価を分析

1. 生活満足度・充実度、定住意向、推奨度の分析

本節では、生活満足度・充実度、定住意向、推奨度についての結果を示す。生活満足度・充実度、定住意向は、松本市のこれまでの市民意識調査との経年比較分析を行う。

また、生活満足度・充実度は、右記の内閣府「国民生活に関する世論調査」（以下、「世論調査」とする。）との比較分析を行い、松本市の現状の状況の整理を行う。

国民生活に関する世論調査

令和3年度の調査概要は、以下の通りである。

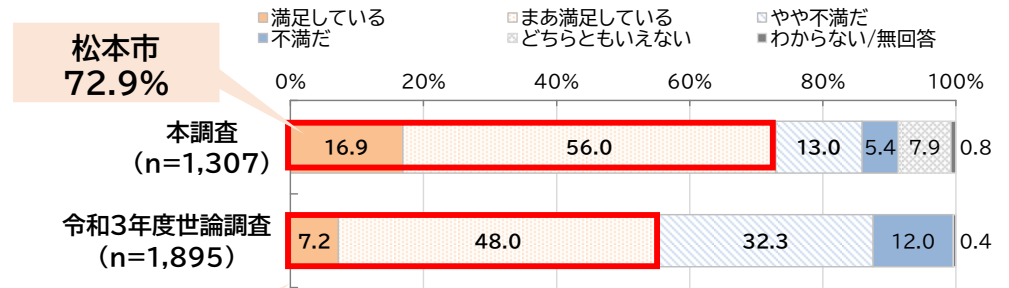
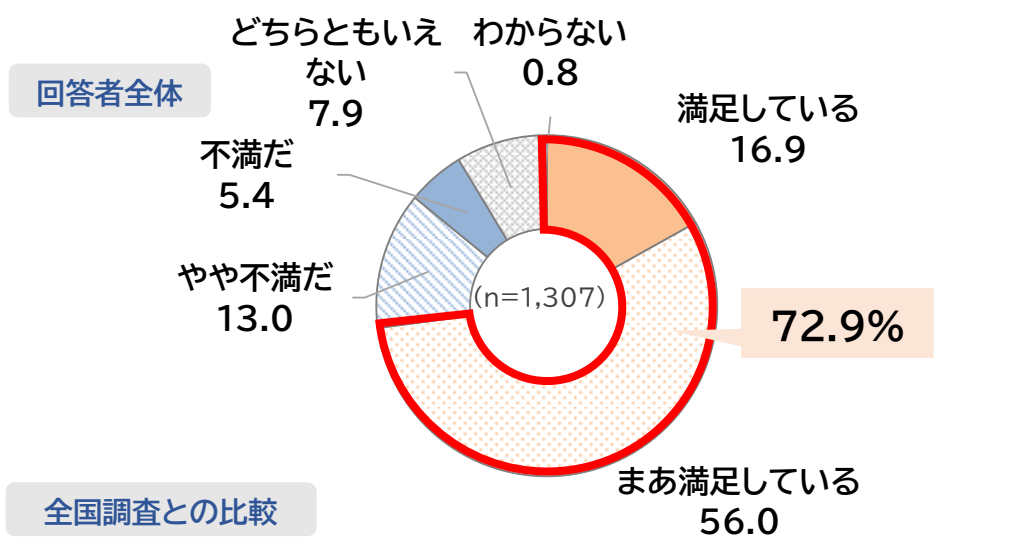
- (1) 母集団 全国18歳以上の日本国籍を有する者
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化2段無作為抽出法
- (4) 調査時期 令和3年9月16日～10月24日
- (5) 調査方法 郵送法

(1)生活満足度

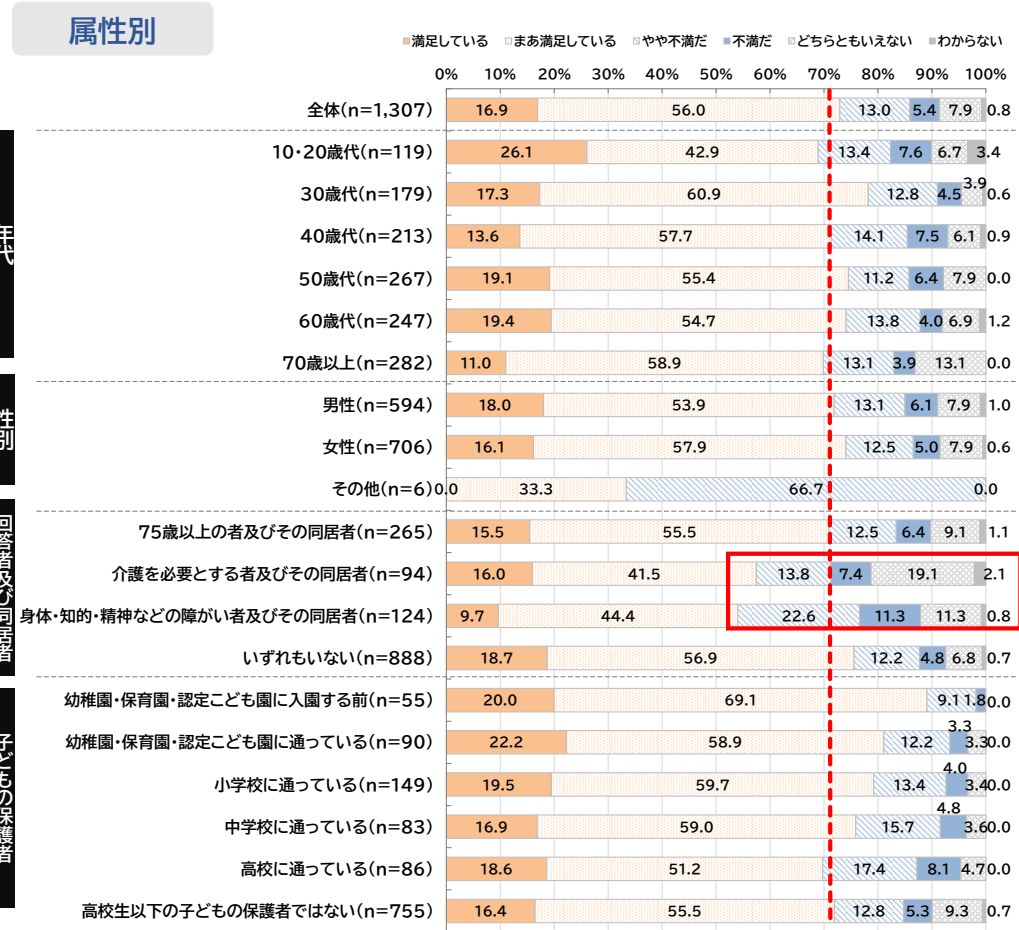
「全体として、現在の生活にどの程度、満足していますか」という設問の回答から生活満足度について全国比較や属性別の結果を示す。

松本市の生活満足度は72.9%。全国調査(55.2%)よりも高い水準

- 生活満足度は、満足しているとの回答(満足している/まあ満足している)が72.9%であり、不満だとの回答(やや不満だ/不満だ)が18.4%である。
- 令和3年度に内閣府が実施した「世論調査」と比較すると、満足しているとの回答は、本調査の方が17.7ポイント高い(世論調査55.2%)。
- 属性別にみると、年代別や性別には大きな傾向の違いは見られないが、「介護を必要とする者及びその同居者」「障がい者及びその同居者」は全体と比べ、10ポイント以上低い。身体等の不自由さや家族介護・介助などが生活満足度に影響している可能性がある。高校生以下の子供と同居している回答者は満足度が高くなる傾向にある。



※令和3年度調査は、『内閣府「世論調査」(令和3年度)』を引用。
 ※世論調査では、「わからない」の選択肢がない。集計では、無回答を含めている。



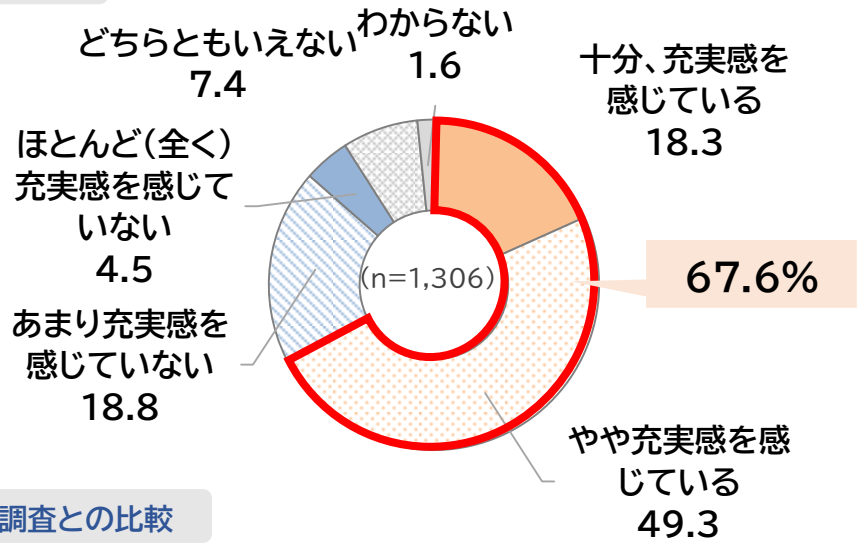
(2)生活充実度

「日頃の生活の中で、どの程度、充実感を感じていますか」という設問の回答から生活充実度について全国比較や属性別の結果を示す。

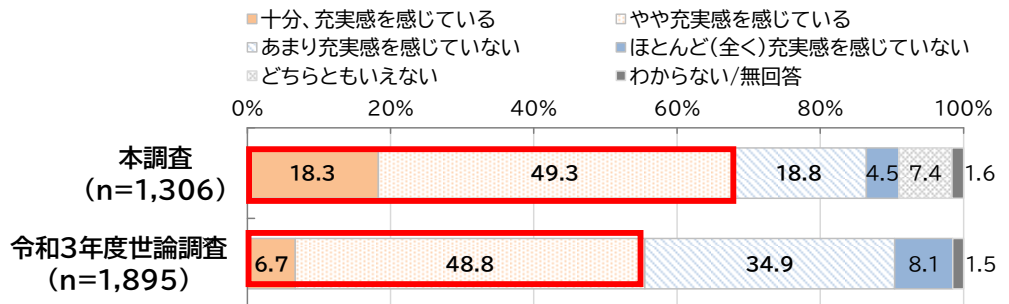
松本市の生活充実度は67.6%。全国調査(55.5%)よりも高い水準

- 生活充実度は、充実感があるとする回答(十分、充実感を感じている/やや充実感を感じている)は67.6%であり、充実感がない(ほとんど充実感を感じていない/あまり充実感を感じていない)とする回答は23.3%である。
- 令和3年度に内閣府が実施した「世論調査」と比較すると、充実しているとの回答は、本調査の方が12.1ポイント高い(世論調査55.5%)。
- 生活満足度と同様、「介護を必要とする者及びその同居者」「障がい者及びその同居者」は全体と比べ、充実感が低い傾向にある。

回答者全体

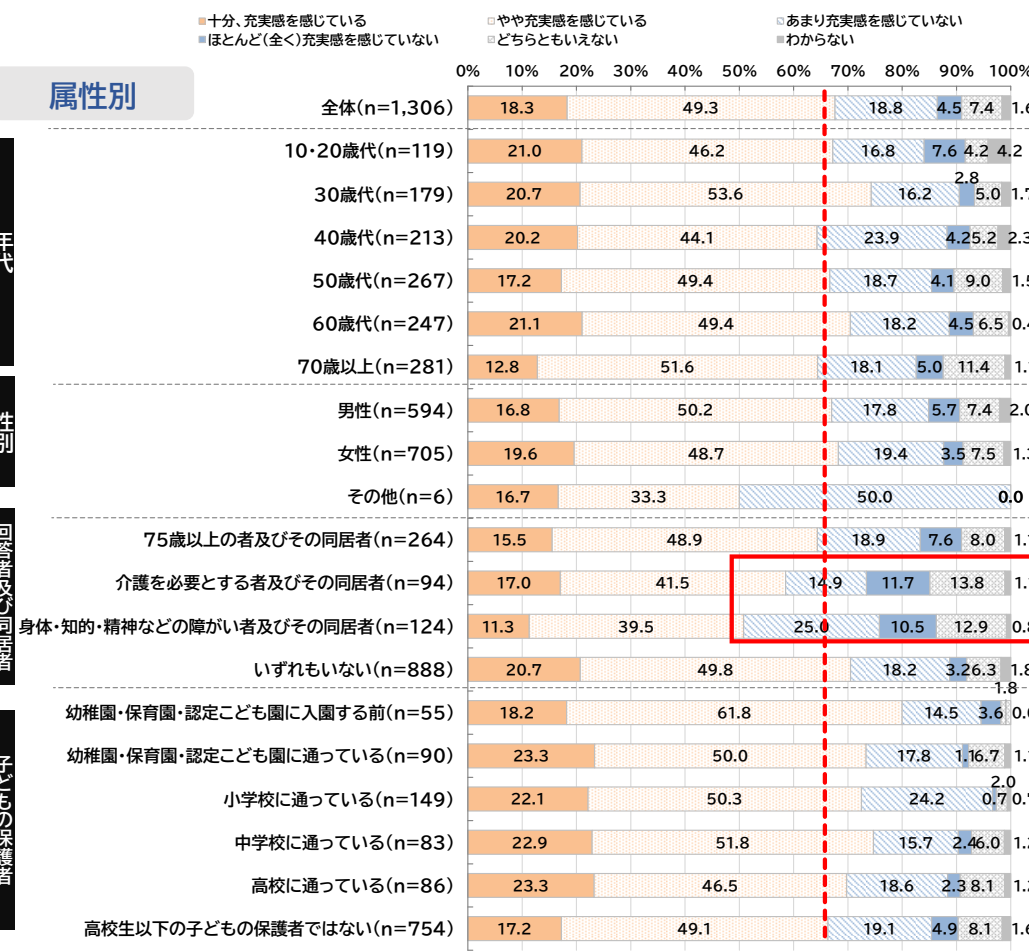


全国調査との比較



※令和3年度調査は、『内閣府「世論調査」(令和3年度)』を引用。
 ※世論調査では、「わからない」の選択肢がない。集計では、無回答を含めている。

属性別

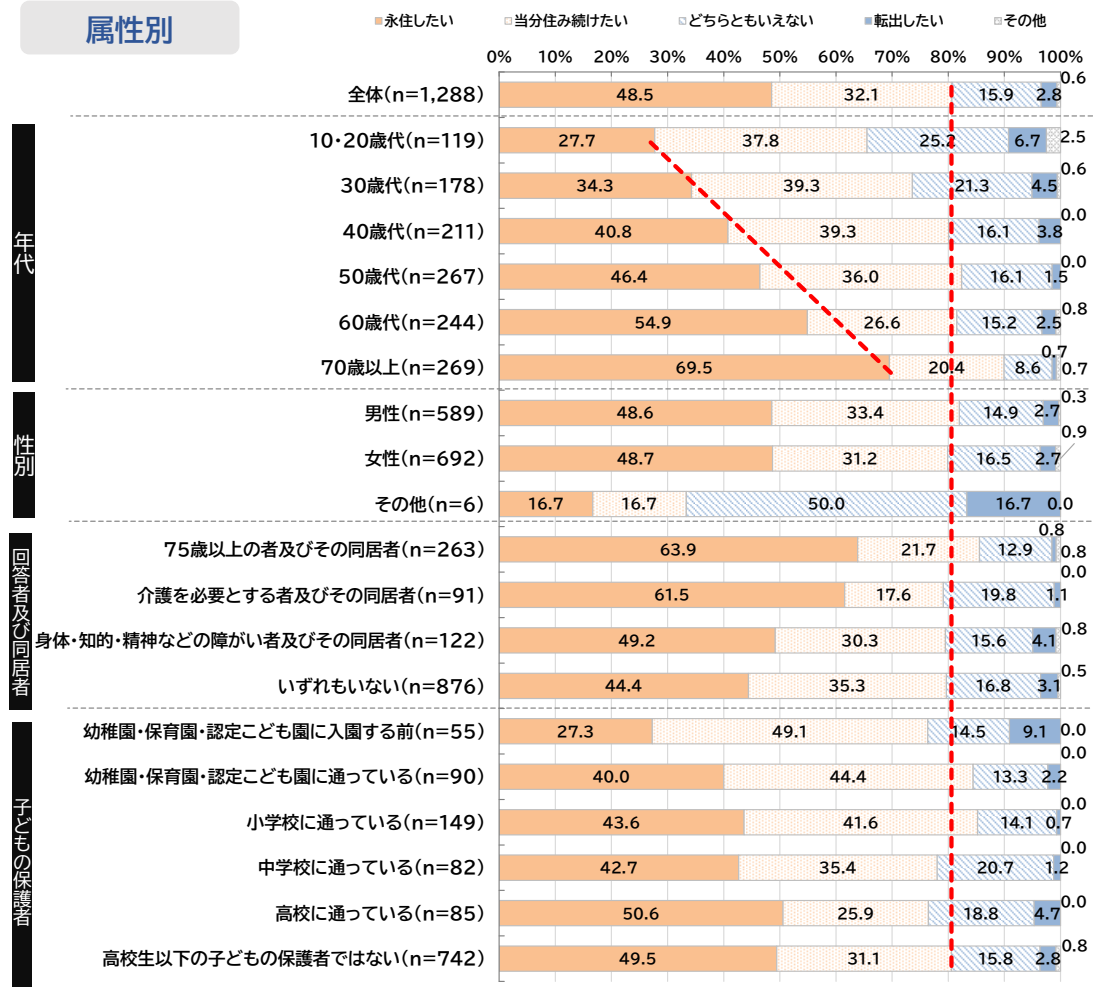
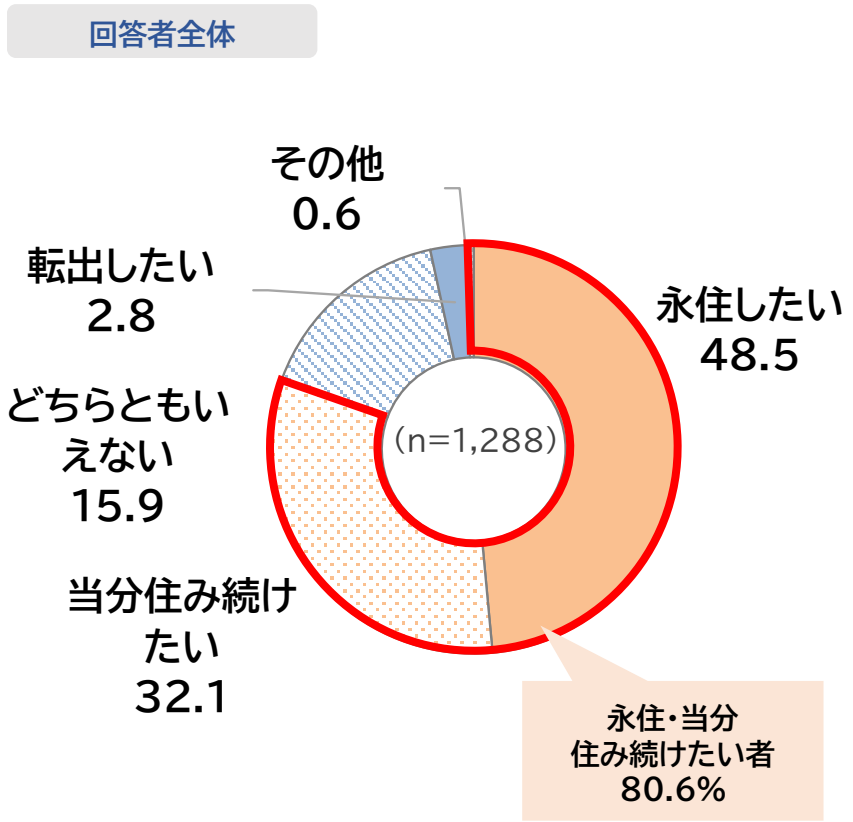


(3) 松本市への定住意向

「松本市に住み続けたいと思いますか」という設問について属性別等の結果を示す。

永住したいは48.5%。年代が上がるほど高まる。

- 定住意向をみると、松本市に「永住したい」との回答は48.5%であり半数程度を占める。「当分住み続けたい」は32.1%、「どちらともいえない」が15.9%、「転出したい」は2.8%である。
- 属性別にみると、年代が上がるほどに定住意向が強くなっている。また、同居の子どもの年齢が低いほど定住意向が弱くなっている。

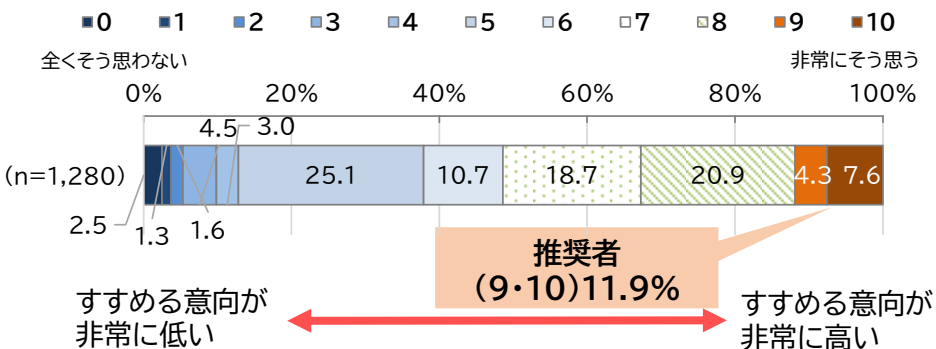


(4)松本で暮らすことを友人・知人にすすめたいか(推奨度) 推奨度について属性別等の結果を示す。

推奨者(9・10点の評価者)は約1割

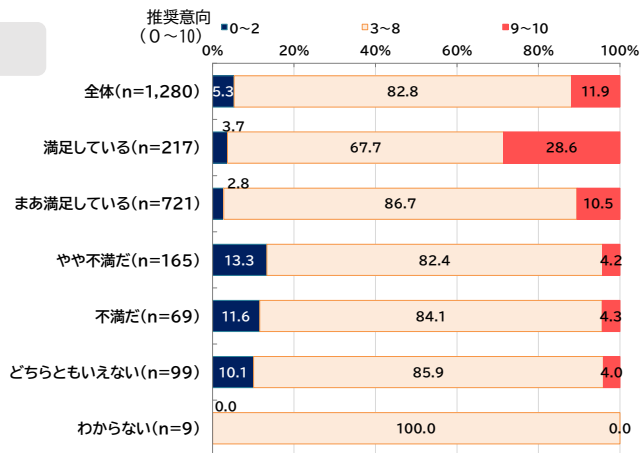
- 松本で暮らすことを友人・知人にすすめたいかについて、0～10の11段階の評価で聞いた。9・10点と推奨する意向が非常に強い「推奨者」は11.9%であった。
- 生活満足度別にみると、「満足している」と回答した者では推奨者の割合が28.6%と高いが、不満がある者では4%台と低くなっている。

回答者全体

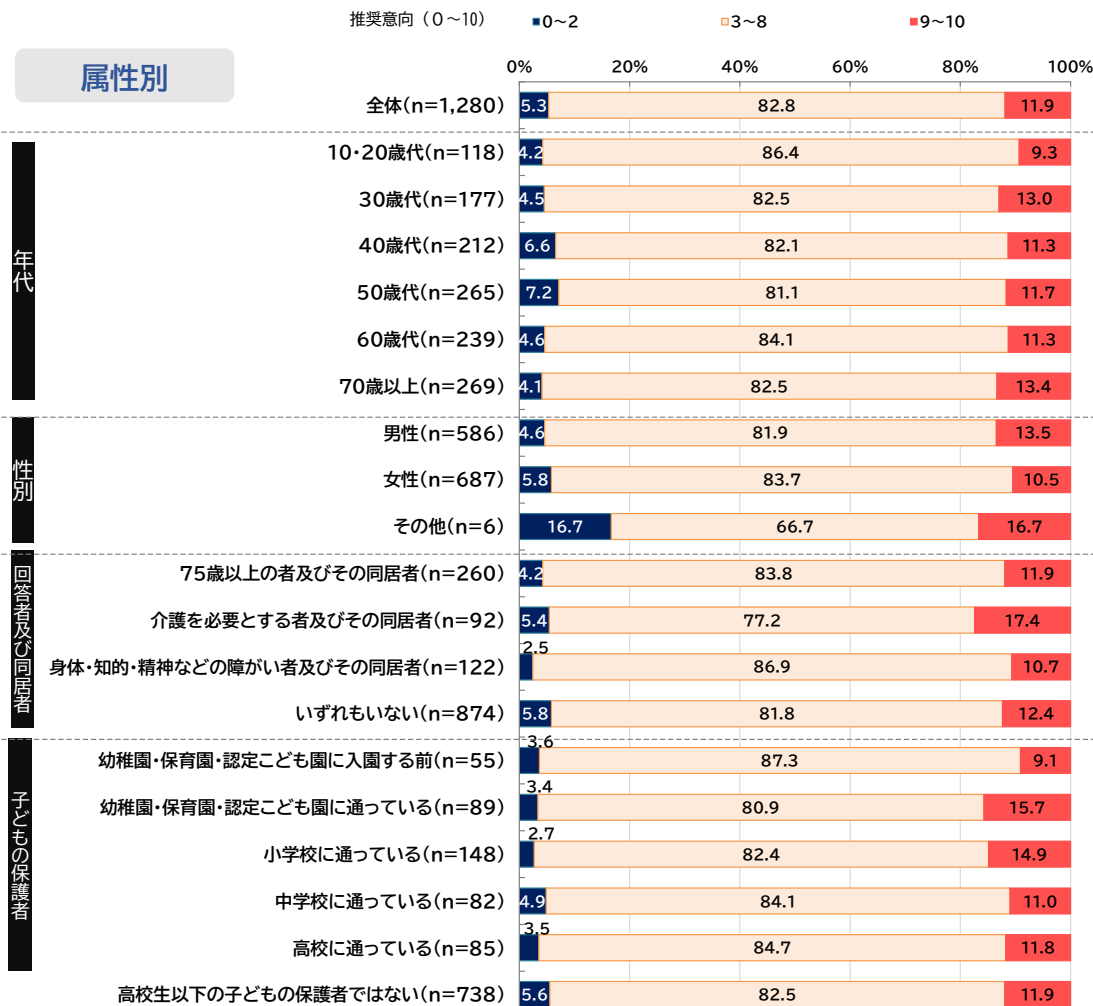


※市民の行動や47施策の分析等では、推奨度9・10を「推奨者」推奨度0・1・2を「非推奨者」とし、比較分析を行った。

生活満足度別



属性別



(5)生活満足度・充実度、定住意向、推奨度のまとめ

■新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、全国及び松本市の生活満足度は低下

生活満足度は、全国及び松本市の調査結果の推移をみると、全国調査の内閣府「国民生活に関する世論調査」において令和元年度まで7割で推移していたが、令和3年度調査では55.3%に下がった。令和元年度から3年度にかけての下落幅は18.5ポイントである。新型コロナウイルス感染症などの社会情勢の影響を受け、低下したものと考えられる。

松本市は、今年度から全国調査と合わせるため「どちらともいえない」という選択肢を追加したことから、単純に経年比較はできないが、令和元年度と比較し、生活満足度は下がっている。下落幅は13.1ポイントであり、全国調査よりも下落幅は小さく、令和元年度までの全国調査の水準にあると言える。

■定住意向は8割を維持

松本市の定住意向（「永住したい」「当分住み続けたい」を合わせた割合）は80.6%であり、8割台を維持している。

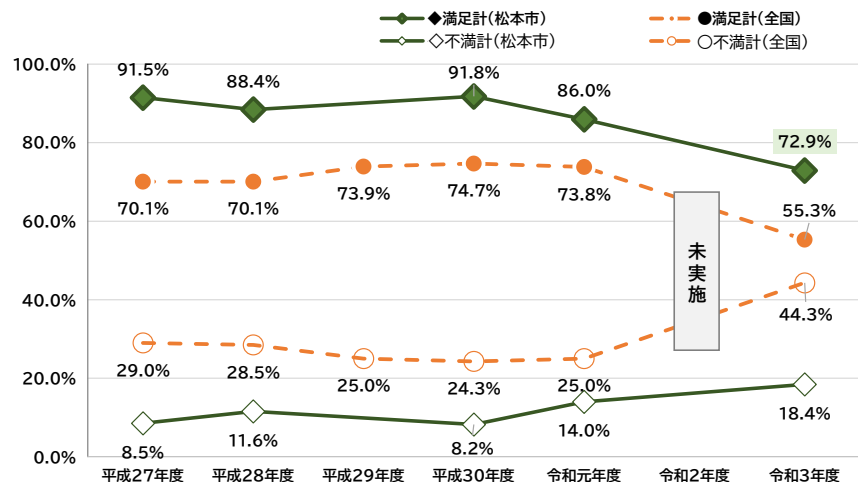
平成25年度から低下傾向であるため、引き続き、暮らし続けたい松本市を目指し、努力が必要と言える。

■生活満足度が高いほど、推奨度が高い。

生活満足度が高い人ほど、松本市の知人・友人への推奨度が高い。推奨度が高い回答者ほど、施策評価の平均点も高く、松本市の様々な魅力を実感していると言える。

なお、知人・友人からの推奨（口コミ）は、観光客の誘客などにおいて効果的な情報であるが、更なる定住促進や関係人口の創出につながるよう、各施策を効果的に推進し現状評価を高め、推奨者を増やしていくことが求められる。

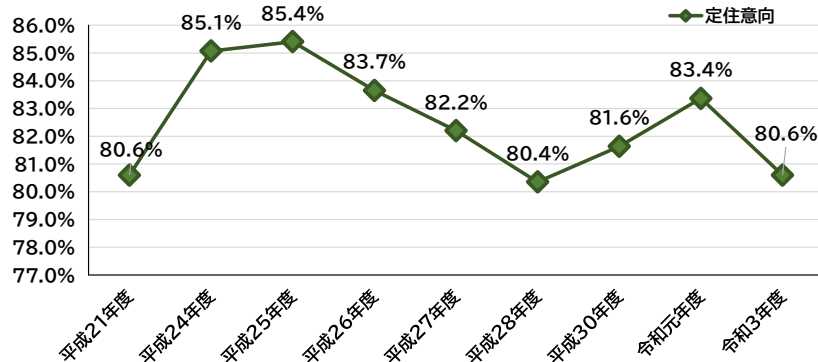
全国調査及び松本市の生活満足度の推移



出典:全国調査は内閣府「国民生活に関する世論調査」

※松本市：令和3年度調査から全国調査と合わせるため「どちらともいえない」という選択肢を追加している。そのため、令和元年度までの結果とは単純に比較はできない。

松本市の定住意向(「永住したい」「当分住み続けたい」)の推移



2. 市民の日常生活における行動・活動の分析

総合計画では、市民と行政が共に取り組む5つの行動目標の下、具体的な行動（アクション）を通じたまちづくりを進めていくこととしている。

そこで、今回の調査では、市民の日常生活における行動や活動（16項目）について、「当てはまる」「やや当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」という選択肢を設け、取組状況の把握を行った。各項目の分析においては、松本市の特徴（強みや課題となる点）を中心に記載した。

市民の日常生活における行動・活動の16項目

健康づくりに継続的に取り組んでいる	違いを認め合い、個性を大切にしている	子どもの権利について理解し、尊重している	様々なことに関心を持ち、学んでいる	生涯学習や文化活動に取り組んでいる	地域の人と積極的に関わりを持っている	地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	音楽や芸術に触れ、親しんでいる	継続的にスポーツに親しんでいる	災害に対する備えをしている	資源化や分別でごみの減量を行っている	自然や環境に配慮した暮らしをしている	地元産の農畜産物を積極的に購入している	地元の商店でできるだけ買物をしている	様々なことにチャレンジしている
-------------------	--------------------	----------------------	-------------------	-------------------	--------------------	-----------------------------	------------------------	-----------------	-----------------	---------------	--------------------	--------------------	---------------------	--------------------	-----------------

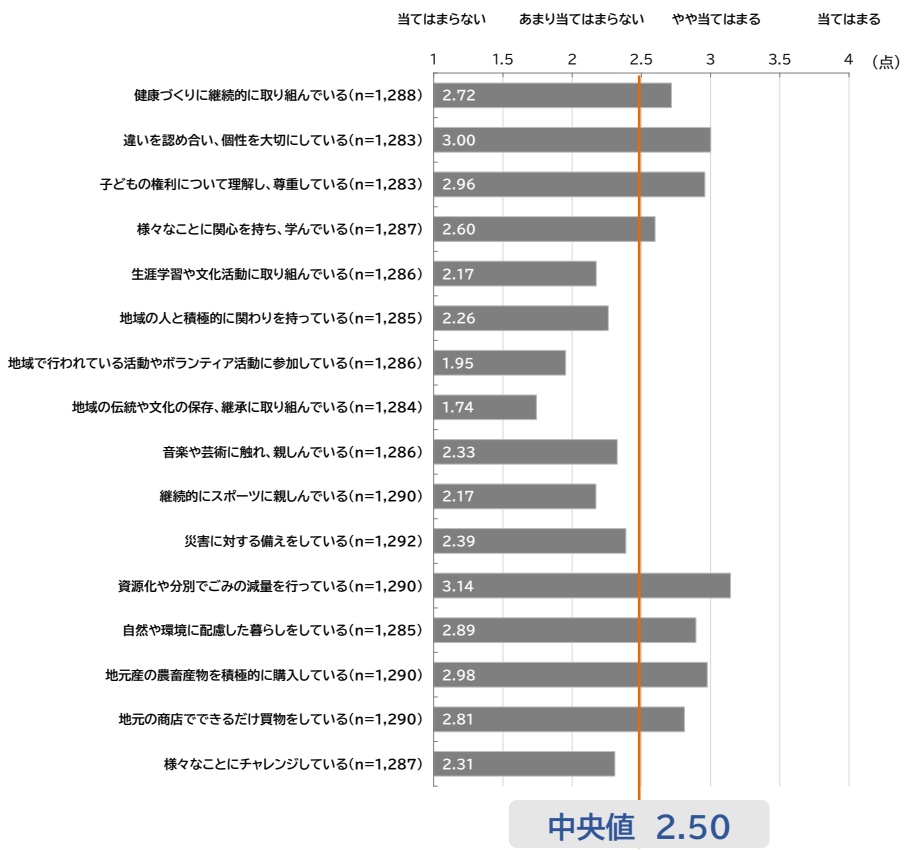
(1) 全体的な傾向

ごみの減量に取り組んでいる市民が多い。多様性や子どもの権利の尊重は更なる向上が必要

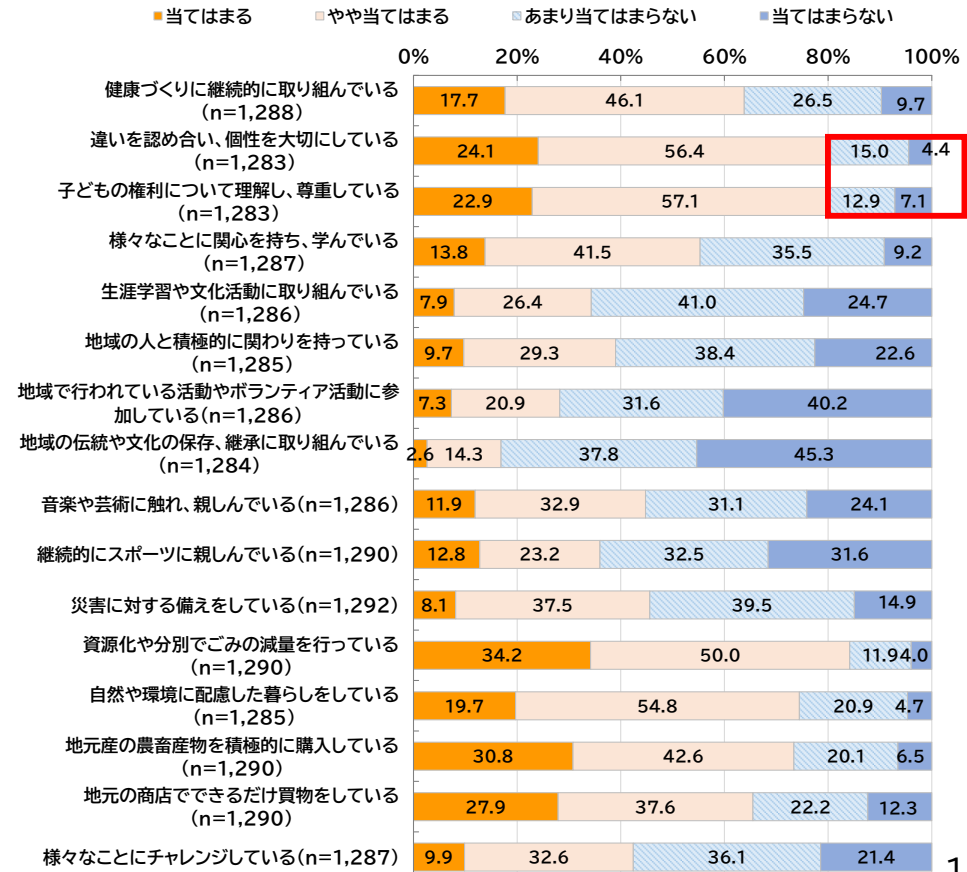
- 16項目を得点化したところ、8項目が中央値である2.50以上である。特に得点が高い項目は「資源化や分別でごみの減量を行っている」で3.14、「違いを認め合い、個性を大切にしている」で3.00となっている。
- しかし「違いを認め合い、個性を大切にしている」の回答割合をみると「あまり当てはまらない」「当てはまらない」とする回答者が2割に及ぶ。「子どもの権利について理解し、尊重している」も同じ傾向がみられる。これら2項目は、家庭・学校・職場・地域等で生活をしていく上で遵守されなければならない原則である。否定的回答者が2割を占めていることを課題と捉え、他者への多様性や子どもの権利の意識醸成に向けた啓発が必要である。

得点の比較(全体傾向)

※ 得点は「当てはまる」4点、「やや当てはまる」3点、「あまり当てはまらない」2点、「当てはまらない」1点として集計。2.5点より高い施策は半数以上の回答者が肯定的評価をしている。



回答割合(全体傾向)



(2)性別による傾向

16項目の得点を性別比較し、その差について分析を行った。

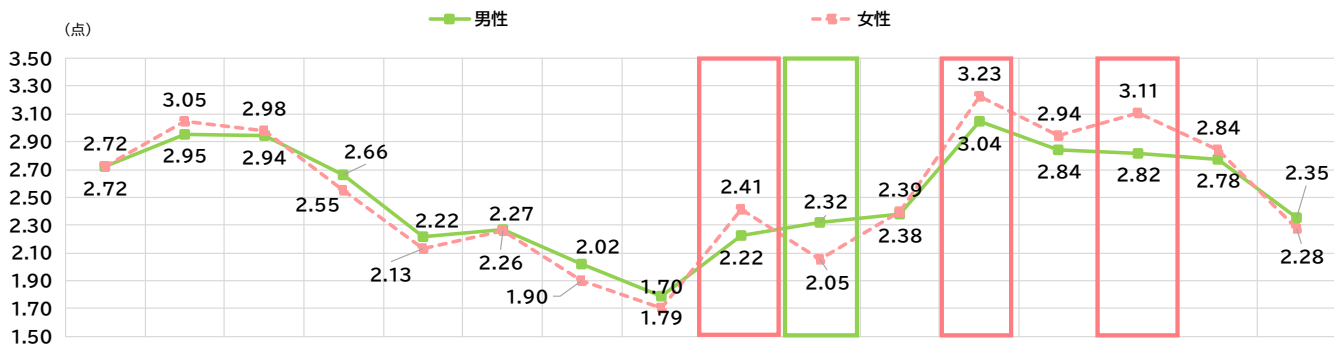
男性でスポーツ、女性で芸術活動、ごみの減量、地場産品の購入に、より取り組んでいる傾向がある。

- 男性が女性よりも比較的得点が高い項目は「継続的にスポーツに親しんでいる」となっている。
- 女性が男性よりも比較的得点が高い項目は「音楽や芸術に触れ、親しんでいる」「資源化や分別でごみの減量を行っている」「地元産の農畜産物を積極的に購入している」となっている。
- ごみの減量や、地元産食材の魅力について、男性に向けてより発信していくことが求められる。
- 顕著とはいえないが、ごみの減量や買物など家事に関わる項目で女性の方が得点が高くなっており、性別による役割分担的な傾向がみられる。

得点比較 (性別)

■ …男性が女性よりも比較的得点が高い

■ …女性が男性よりも比較的得点が高い



	健康づくりに継続的に取り組んでいる	違いを認め合い、個性を大切にしている	子どもの権利について理解し、尊重している	様々なことに関心を持ち、学んでいる	生涯学習や文化活動に取り組んでいる	地域の人と積極的に関わりを持っている	ア地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	音楽や芸術に触れ、親しんでいる	継続的にスポーツに親しんでいる	災害に対する備えをしている	資源化や分別でごみの減量を行っている	自然や環境に配慮した暮らしをしている	地元産の農畜産物を積極的に購入している	地元の商店でできるだけ買物をしている	様々なことにチャレンジしている
男性	2.72	2.95	2.94	2.66	2.22	2.27	2.02	1.79	2.22	2.32	2.38	3.04	2.84	2.82	2.78	2.35
女性	2.72	3.05	2.98	2.55	2.13	2.26	1.90	1.70	2.41	2.05	2.39	3.23	2.94	3.11	2.84	2.28
男性と女性の差分	-0.00	-0.09	-0.04	0.11	0.09	0.01	0.12	0.09	-0.19	0.27	-0.01	-0.19	-0.10	-0.29	-0.06	0.07

※±0.15以上の差がある項目に色を付けている。

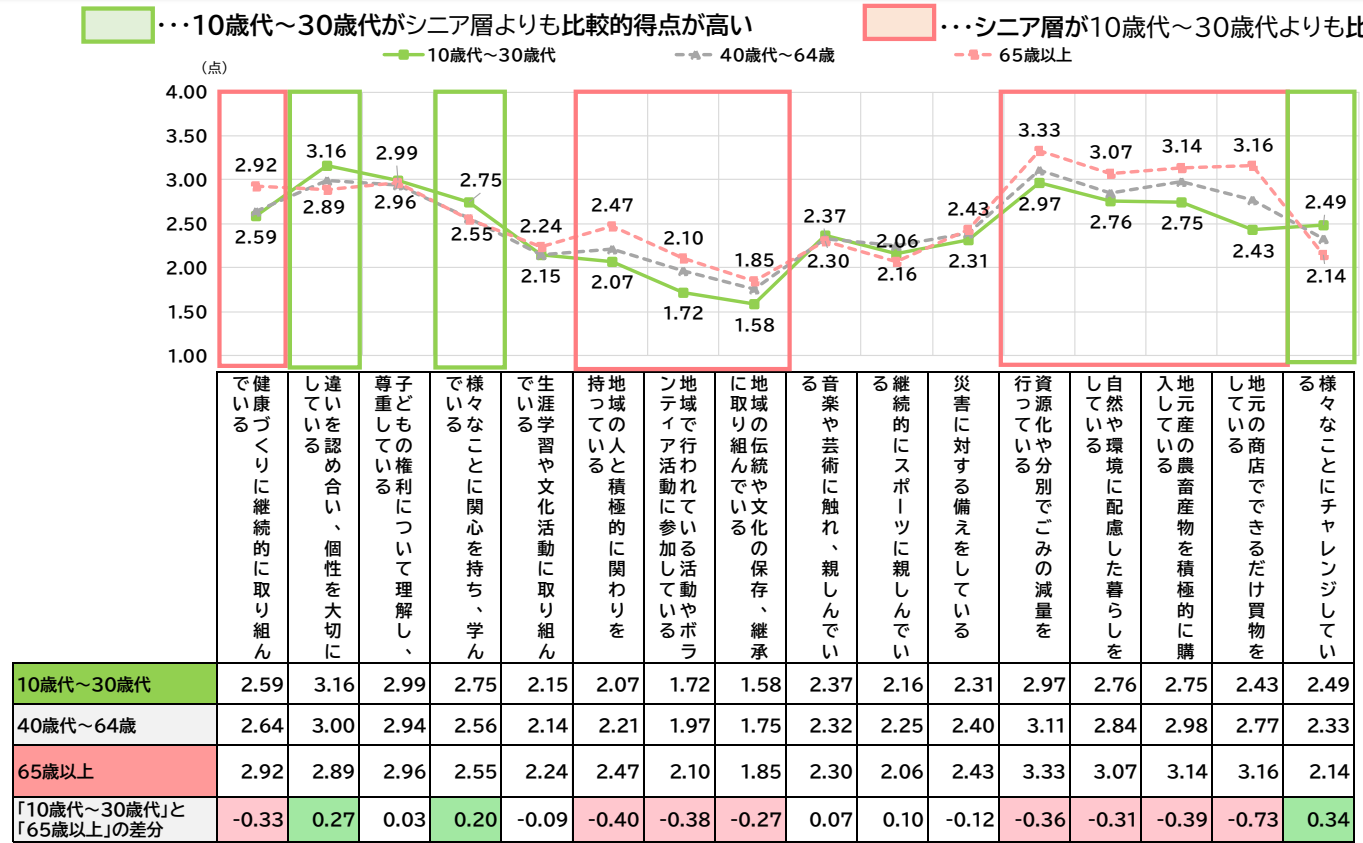
(3)年代別の傾向

16項目の得点を10歳代～30歳代の若年層と65歳以上のシニア層別に比較し、その差について分析を行った。

10歳代～30歳代は多様性について寛容である一方、地域、地元個店・製品との関わりが少ない。環境問題の意識も低い。

- 10歳代～30歳代がシニア層よりも比較的得点が高い項目は「違いを認め合い、個性を大切にしている」「様々なことに興味を持ち、学んでいる」「様々なことにチャレンジしている」となっている。
- シニア層が10歳代～30歳代よりも比較的得点が高い項目は、「健康づくりに継続的に取り組んでいる」「地域の人と積極的に関わりを持っている」「地域で行われている活動やボランティア活動に参加している」「地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる」「資源化や分別でごみの減量を行っている」「自然や環境に配慮した暮らしをしている」「地元産の農畜産物を積極的に購入している」「地元の商店でできるだけ買物をしている」となっている。
- 10歳代～30歳代はシニア層よりも、多様性について寛容である一方、地域との関わりが希薄であるとともに、地元商店の利用や地元産農産物の購入などが低く、松本市の土着の文化にふれる機会が少ないことが伺える。また、環境問題（ごみの減量や環境への配慮）についても、10歳代～30歳代はシニア層より比較的意識が薄い。

得点比較 (年代別)



※±0.15以上の差がある項目に色を付けている。

(4)定住意向別の傾向

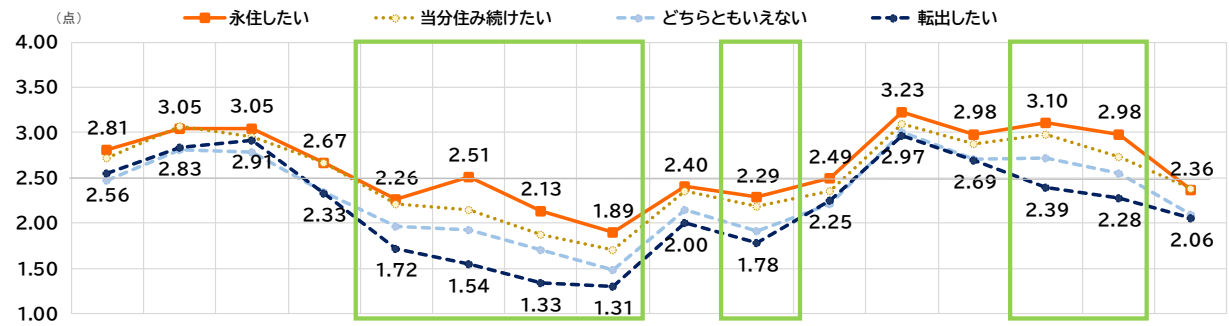
16項目の得点を回答者の定住意向別に比較し、その差について分析を行った。

定住意向が強い層ほど、地域とのつながりをつくる行動をしている。

- 「永住したい」「当分住み続けたい」など定住意向が強い層は、定住意向が弱い層と比較し、16項目すべてにおいて得点が高くなっている。
- 特に「地域の人と積極的に関わりを持っている」「地域で行われている活動やボランティア活動に参加している」「地元産の農畜産物を積極的に購入している」「地元の商店でできるだけ買物をしている」は定住意向が強い層が、顕著に得点が高くなっている。
- 定住意向が強い層ほど、地域とのつながりをつくる行動をしている傾向にあると言える。
- 健康づくりや他者や子どもの権利の尊重、ごみの減量や環境配慮など、一般的に求められる行動については、定住意向に関係なく得点が高い。

得点比較 (定住意向別)

…定住意向が高い層が顕著に得点が高い



	健康づくりに継続的に取り組んでいる	違いを認め合い、個性を大切にしている	子どもの権利について理解し、尊重している	様々なことに関心を持ち、学んでいる	生涯学習や文化活動に取り組んでいる	地域の人と積極的に関わりを持っている	地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	音楽や芸術に触れ、親しんでいる	継続的にスポーツに親しんでいる	災害に対する備えをしている	資源化や分別でごみの減量を行っている	自然や環境に配慮した暮らしをしている	地元産の農畜産物を積極的に購入している	地元の商店でできるだけ買物をしている	様々なことにチャレンジしている
永住したい	2.81	3.05	3.05	2.67	2.26	2.51	2.13	1.89	2.40	2.29	2.49	3.23	2.98	3.10	2.98	2.36
当分住み続けたい	2.72	3.07	2.96	2.66	2.21	2.14	1.88	1.70	2.35	2.18	2.35	3.10	2.88	2.98	2.73	2.37
どちらともいえない	2.47	2.81	2.78	2.34	1.96	1.93	1.70	1.49	2.14	1.92	2.22	3.00	2.71	2.72	2.54	2.09
転出したい	2.56	2.83	2.91	2.33	1.72	1.54	1.33	1.31	2.00	1.78	2.25	2.97	2.69	2.39	2.28	2.06
「永住したい」と「転出したい」の差分	0.26	0.21	0.14	0.34	0.54	0.97	0.80	0.59	0.40	0.51	0.24	0.26	0.29	0.71	0.70	0.31

※0.5以上の顕著な差がみられる項目に色を付けている。

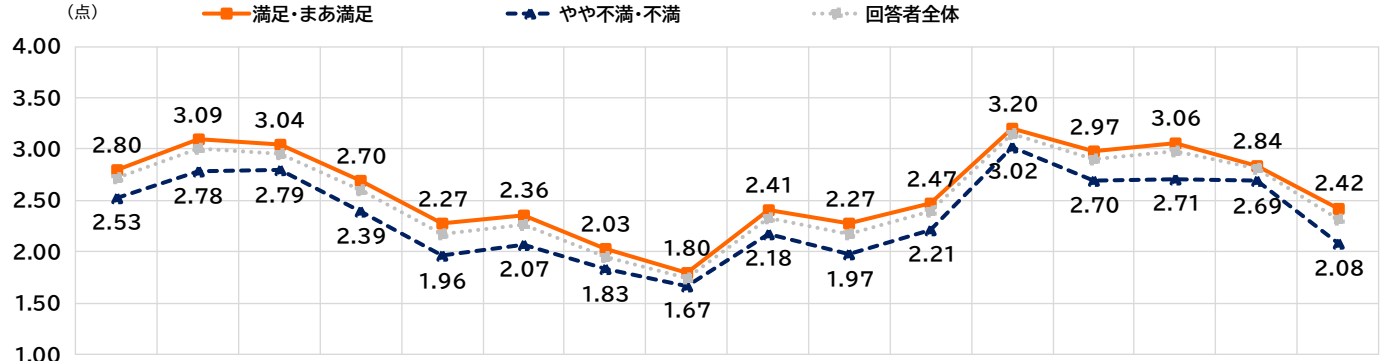
(5)生活満足度別の傾向

16項目の得点を回答者の生活満足度別に比較し、その差について分析を行った。

生活満足度の高い層の方が、様々な取り組みを実施している。

- 「満足している」「まあ、満足している」など生活満足度の高い層は、生活満足度の低い層と比較し、16項目すべてにおいて得点が高くなっている。しかし、それほど顕著な差はみられない。
- 健康づくりや他者や子どもの権利の尊重、ごみの減量や環境配慮など、一般的に求められる行動については、生活満足度に関係なく得点が高い。

得点比較
生活満足度別(全体)



	健康づくりに継続的に取り組んでいる	違いを認め合い、個性を大切にしている	子どもの権利について理解し、尊重している	様々なことに関心を持ち、学んでいる	生涯学習や文化活動に取り組んでいる	地域の人と積極的に関わりを持つている	地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	音楽や芸術に触れ、親しんでいる	継続的にスポーツに親しんでいる	災害に対する備えをしている	資源化や分別でごみの減量を行っている	自然や環境に配慮した暮らしをしている	地元産の農畜産物を積極的に購入している	地元の商店でできるだけ買物をしている	様々なことにチャレンジしている
満足・まあ満足	2.80	3.09	3.04	2.70	2.27	2.36	2.03	1.80	2.41	2.27	2.47	3.20	2.97	3.06	2.84	2.42
やや不満・不満	2.53	2.78	2.79	2.39	1.96	2.07	1.83	1.67	2.18	1.97	2.21	3.02	2.70	2.71	2.69	2.08
回答者全体	2.72	3.00	2.96	2.60	2.17	2.26	1.95	1.74	2.33	2.17	2.39	3.14	2.89	2.98	2.81	2.31
「満足・まあ満足」と「やや不満・不満」の差分	0.27	0.32	0.24	0.30	0.31	0.29	0.20	0.13	0.23	0.29	0.26	0.18	0.28	0.35	0.15	0.34

※0.15以上の差がある項目に色を付けている。

(6)「満足」/「不満」別の傾向

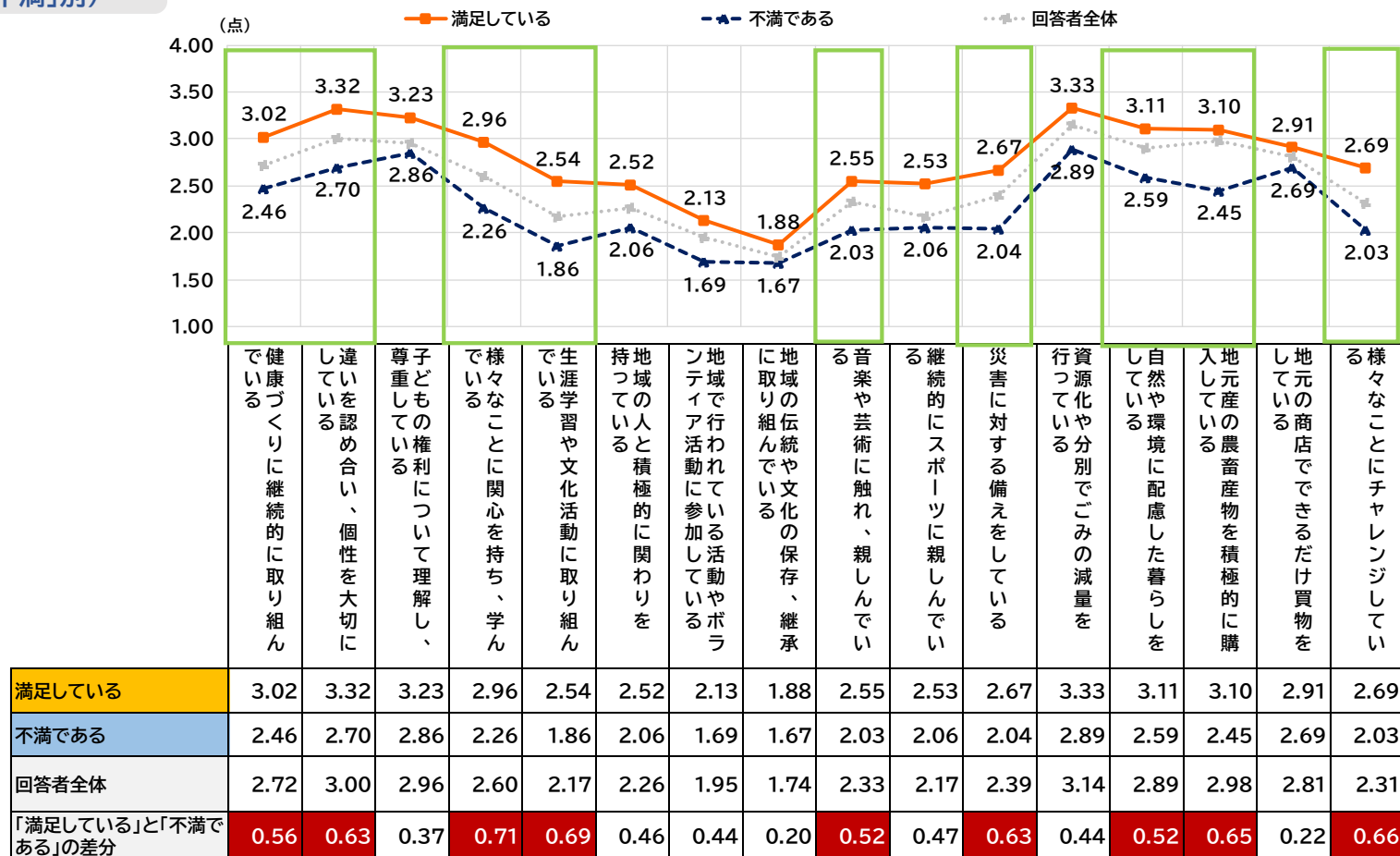
16項目の得点を回答者の生活満足度のうち、特に「満足」と「不満」別に比較し、その差について分析を行った。

生活満足度の高い層が、より取り組んでいることは“学び”や“挑戦”である。

- 生活満足度を「満足」と回答した層は、16項目すべてにおいて「不満」と回答した層よりも得点が高くなっている。また、得点の差も広がっている。
- 特に「様々なことに関心を持ち、学んでいる」「生涯学習や文化活動に取り組んでいる」「様々なことにチャレンジしている」という“学び”や“挑戦”に関する項目で、「満足」と回答した層の得点が高くなっている。

得点比較 (「満足」/「不満」別)

…「満足」と回答した層が顕著に得点が高い



※0.5以上の顕著な差がみられる項目を色を付けている。

(7) 推奨度別の傾向

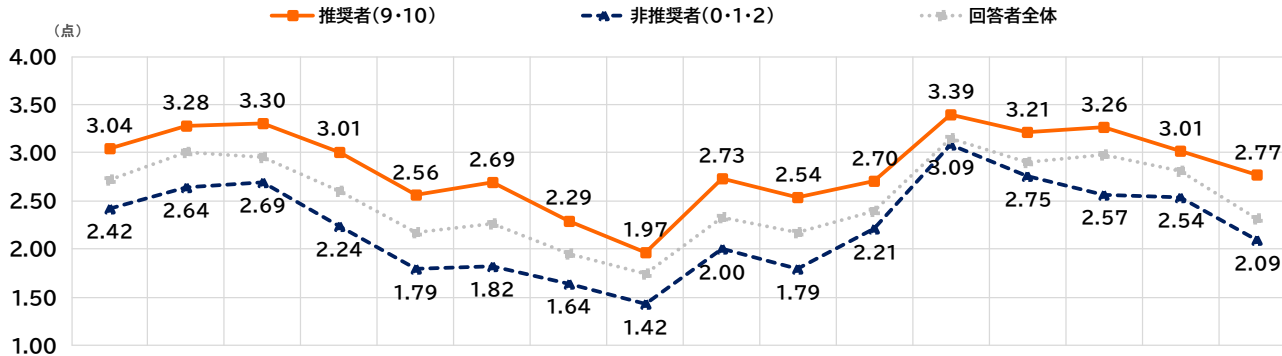
16項目の得点を回答者の松本市に対する推奨度別に比較し、その差について分析を行った。

松本市の推奨度が低い層は、“学びや文化・スポーツ活動”や“挑戦”、“地域と関わる活動”の実施が少ない。

- 推奨者（推奨度9・10）は、非推奨者（推奨度0・1・2）と比較し、16項目すべてにおいて得点が高くなっている。
- 非推奨者は「様々なことに興味を持ち、学んでいる」「生涯学習や文化活動に取り組んでいる」「音楽や芸術に触れ、親しんでいる」「継続的にスポーツに親しんでいる」「様々なことにチャレンジしている」という“学びや文化・スポーツ活動”や“挑戦”に関する項目、「地域の人と積極的に関わりを持っている」「地域で行われている活動やボランティア活動に参加している」など“地域との関わり”に関する項目において顕著に得点が低くなっている。

得点比較 （「推奨度9・10」と 「推奨度0・1・2」別）

※推奨度とは松本で暮らすことを友人・知人に勧めたいかという問いに、0～10の11段階の評価で聞いた結果である。



	健康づくりに継続的に取り組んでいる	違いを認め合い、個性を大切にしている	子どもの権利について理解し、尊重している	様々なことに興味を持ち、学んでいる	生涯学習や文化活動に取り組んでいる	地域の人と積極的に関わりを持っている	地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	音楽や芸術に触れ、親しんでいる	継続的にスポーツに親しんでいる	災害に対する備えをしている	資源化や分別でごみの減量を行っている	自然や環境に配慮した暮らしをしている	地元産の農畜産物を積極的に購入している	地元の商店でできるだけ買物をする	様々なことにチャレンジしている
推奨者(9・10)	3.04	3.28	3.30	3.01	2.56	2.69	2.29	1.97	2.73	2.54	2.70	3.39	3.21	3.26	3.01	2.77
非推奨者(0・1・2)	2.42	2.64	2.69	2.24	1.79	1.82	1.64	1.42	2.00	1.79	2.21	3.09	2.75	2.57	2.54	2.09
回答者全体	2.72	3.00	2.96	2.60	2.17	2.26	1.95	1.74	2.33	2.17	2.39	3.14	2.89	2.98	2.81	2.31
「推奨者(9・10)」-「非推奨者(0・1・2)」の差分	0.62	0.64	0.61	0.77	0.77	0.88	0.65	0.54	0.73	0.75	0.49	0.30	0.46	0.69	0.48	0.68

※0.5以上の顕著な差がみられる項目を色を付けている。

(8)市民の日常生活における行動のまとめ

■多様性や他者を認める心の醸成

「違いを認め合い、個性を大切にしている」「子どもの権利について理解し、尊重している」という行動を取っている割合は8割に達しているものの、2割が取り組んでいない状況である。

他者や多様性、子どもの権利の尊重は、家庭・学校・職場・地域等で生活をしていく上で遵守されなければならない原則であり、2割が取り組んでいないという状況を課題とし、解決していく必要がある。

■性別による役割分担的傾向の解消

女性で「スポーツに親しんでいる」が、男性で「音楽や芸術に親しんでいる」「資源化や分別でごみの減量を行っている」や「地元産の農畜産物を積極的に購入している」が低い。いわゆる性別による役割分担的な傾向がみられる。絶対的な傾向とは言えないものの、注視が必要である。

■10～30歳代の若い世代における地域との接点を増やす。

10～30歳代の若い世代は、シニア層と比較し、地域との接点が少ない結果となった。定住意向の高い層や松本市の推奨度が高い層は、日常生活において地域と関わる行動を行っている傾向が高い。このことを踏まえると「地域との関わり」が若い世代の松本市での定住に寄与する可能性が考えられ、それを促す施策の検討が求められる。

なお、10～30歳代は環境に対する意識がやや低く、啓発が必要と言える。

■市民が学び、活躍する機会の更なる創出

満足度や推奨度が高い者ほど、「地域との関わり」や「学び」や「挑戦」に関わる行動をしている傾向がみられる。一方、非推奨者は、これらの得点が低くなる傾向があるといえる。

つまり、地域とのつながりを持ち（孤立しておらず）、充実した生活を送っている者ほど、日常生活に満足し、地域に対する愛着を有する傾向があるといえる。

市民が「学び」や「挑戦」にアクセスできる間口を広げ、地域や社会と何らかの関わりをもち、孤立することのない仕組み（社会的包摂や弱い紐帯）づくりが引き続き求められる。

各行動の働き掛けを強化する層

項目	具体的取組	働きかけを強化する層			
		年代		性別	
		若者	シニア	男性	女性
1	健康づくりに継続的に取り組んでいる	●			
2	違いを認め合い、個性を大切にしている		●		
3	子どもの権利について理解し、尊重している				
4	様々なことに関心を持ち、学んでいる		●		
5	生涯学習や文化活動に取り組んでいる				
6	地域の人と積極的に関わりを持っている	●			
7	地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	●			
8	地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	●			
9	音楽や芸術に触れ、親しんでいる			●	
10	継続的にスポーツに親しんでいる				●
11	災害に対する備えをしている				
12	資源化や分別でごみの減量を行っている	●		●	
13	自然や環境に配慮した暮らしをしている	●			
14	地元産の農畜産物を積極的に購入している	●		●	
15	地元の商店でできるだけ買物をしている	●			
16	様々なことにチャレンジしている		●		

3. 第11次基本計画の7分野・47施策の現状評価に対する分析

- (1) 施策の平均点に関する分析
- (2) 回答保留の割合の分析
- (3) 施策評価と回答保留の分析

第11次基本計画で掲げた7分野・47の基本施策について、市の現状評価を行うため「(1) 施策の平均点に関する分析」「(2) 回答保留の割合の分析」「(3) 施策評価と回答保留の分析」を行った。7分野・47の施策体系にあわせて、下図のように調査項目を設定し、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」の5段階で現状評価を聞いた。なお、平均点の算出は「わからない」という回答保留者を除き、「そう思う」4点、「ややそう思う」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点とし、算出を行っている。

7分野・47施策と「アンケートにおける設問」との対応

	こども・若者・教育	健康・医療・福祉	住民自治・共生	環境・エネルギー	都市基盤・危機管理	経済・産業	文化・観光
施策体系	1-1:1-2:1-3:1-4:1-5:1-6:1-7:1-8 結婚・出産・子育て支援の充実 質の高い保育・幼児教育の実現 個性と多様性を尊重する学校教育 子どもにやさしいまちづくり 未来につながる子ども福祉の充実 若者が活躍できる環境づくり ニーズに応じた生涯学習の実現 全ての世代にわたる食育の推進	2-1:2-2:2-3:2-4:2-5:2-6 切れ目ない健康づくりの推進 保健衛生・生活衛生の充実 地域医療・救急医療の充実 個々に寄り添う障害者福祉の充実 暮らしを守る生活支援の充実 生きがいのある高齢者福祉の充実	3-1:3-2:3-3:3-4:3-5:3-6:3-7 住民自治支援の強化 地域福祉活動の推進 地域防災・防犯の推進 働き盛り世代の移住・定住推進 多様な人権・平和の尊重 ジェンダー平等社会の実現 国際化・多文化共生の推進	4-1:4-2:4-3:4-4 再生可能エネルギーの導入促進 3R徹底による環境負荷軽減 自然・生活環境の保全 森林の保全・再生・活用	5-1:5-2:5-3:5-4:5-5:5-6:5-7:5-8:5-9:5-10:5-11 松本城を核としたまちづくり 地域交通ネットワークの拡充 自転車活用先進都市の実現 交通需要に即した道路整備 広域交通網の整備推進 バランスの取れた土地利用 緑を活かした魅力あるまちづくり 防災・減災対策の推進 危機管理体制の強化 上下水道の基盤強化	6-1:6-2:6-3:6-4:6-5:6-6 新商都松本の創造 ものづくり産業の活性化 雇用対策と働き方改革の推進 持続可能な農業経営基盤の確立 異業種連携による食産業の振興 地域特性を活かした新産業の創出	7-1:7-2:7-3:7-4:7-5 豊かさや育む文化芸術の推進 歴史・文化遺産の継承 スポーツを楽しむ環境の充実 変化する時代の観光戦略 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	アンケートにおける設問	望ましい食習慣を身に付けるための取組みが行われている 様々な学びや趣味を気軽にに行える環境が充実している 若者が地域で活躍している 障害や特性を持つ子どもに対する支援が充実している 子どもの権利が尊重され、子どもにやさしいまちである 小中学校で一人ひとりに応じた学習が行われている 多様な保育サービスが提供されている 安心して出産・子育てができるまちである	健康寿命を延ばすための取組みが充実している 必要時に、必要な医療サービスを受けることができる 感染症の予防・感染拡大防止に向けた体制が整っている 障害者が安心して生活できる 高齢者が暮らしやすい 消費生活や経済面で困ったときに相談できる所がある 地域の伝統や文化の保存・継承が行われている 地域住民による自主的な防災・防犯活動が行われている 地域づくり活動が活発に行われている	外国人住民との交流が進んでいる地域である 性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である 互いの個性や立場を尊重し合える地域である 移住者や移住希望者に対するサポートが充実している 地域による自主的な防災・防犯活動が行われている 地域住民による支え合いが行われている 地域づくり活動が活発に行われている	森林の整備や保全活動が活発に行われている 自然や環境が守られている ごみの量を減らすための取組みが浸透している 温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいる 国内外に誇れる山岳リゾートである 質の高い観光資源を活かした誘客が行われている スポーツに親しむことができる環境がある 地域の伝統や文化の保存・継承が行われている 気軽に文化芸術に親しむことができる環境がある	生活する上で必要な公共交通が確保されている 城下町にふさわしいまちづくりが行われている 自転車を利用して移動しやすい道路網が整備されている 道路・空路・鉄道などの広域交通網が充実している 都市と田園環境、自然環境のバランスが保たれている 緑や水辺を活かした魅力的なまちづくりが行われている 安全でおいしい水を利用することができる 大規模な自然災害等を想定した危機管理体制が整っている 防災・減災の備えがあり、災害に強いまちである 公共施設やインフラが計画的に維持管理・更新されている 安心して持続的に働ける環境がある ものづくり産業がさかんである 農業者がさかんである 知人や友人にすめたい地元産の農畜産物が多い 新たな産業が生まれ出されている	安心して持続的に働ける環境がある ものづくり産業がさかんである 農業者がさかんである 知人や友人にすめたい地元産の農畜産物が多い 新たな産業が生まれ出されている

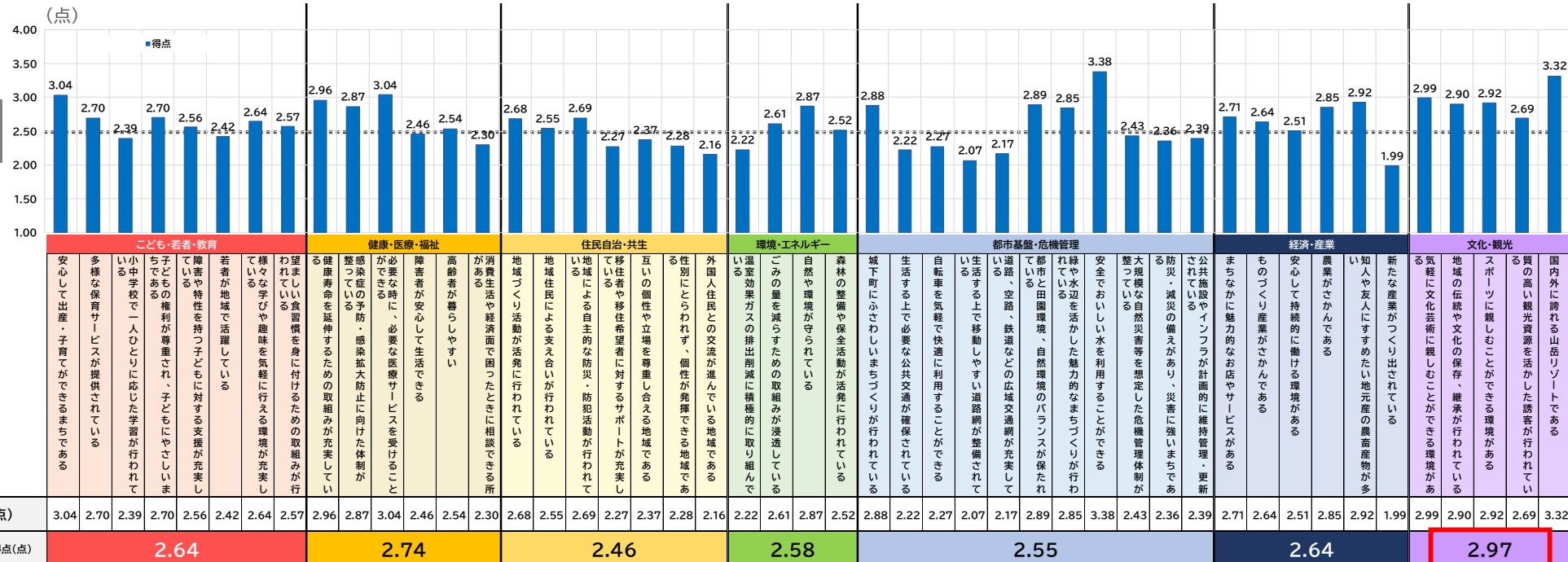
1) 7分野・47施策の平均得点の比較

7分野では「文化・観光」分野が高水準。「住民自治・共生」「都市基盤・危機管理」がやや低い。

- 7分野別にみると「文化・観光」の平均得点が2.97であり、他分野よりも高くなっており松本市の強みといえる。「住民自治・共生」「都市基盤・危機管理」分野で現状評価が低い項目があり、分野の平均得点がやや低くなっている。
- 47施策中最も得点が高いのは「安全でおいしい水を利用することができる」で3.38、次いで「国内外に誇れる山岳リゾートである」で3.32であった。一方、得点が最も低いのは「新たな産業が作り出されている」で1.99、その次が「生活する上で移動しやすい道路網が整備されている」で2.07であった。

得点比較

中央値
2.5点



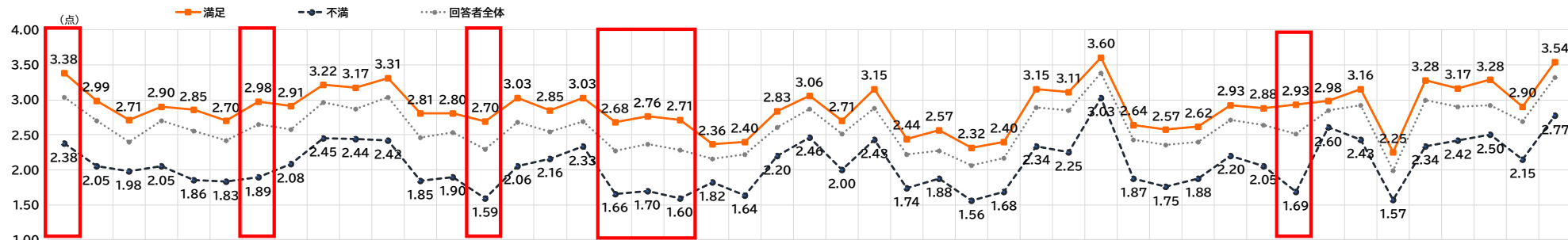
7分野の中で最も高い

2) 7分野・47施策の生活の満足度別の得点比較 4 7施策の得点を回答者の生活満足度のうち、特に「満足」と「不満」別に比較し、その差について分析を行った。

満足度が低い層は、困った時の相談先、他者や多様性の尊重、労働環境等に対する評価が低い傾向にある。

- 生活に満足している回答者（満足者）と不満足な回答者（不満者）における得点を比較すると、すべての施策において満足している者の方が高い。
- 満足者と不満者において得点差が大きい施策は「安心して持続的に働ける環境がある」「性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である」「消費生活や経済面で困ったときに相談できる所がある」「互いの個性や立場を尊重し合える地域である」の順となっている。
- 経済面で困った時の相談支援の不足、多様性が尊重されていない状況、労働への不安などが、満足度を押し下げている可能性が考えられる。

得点比較
（「満足」「不満」別）



	子ども・若者・教育							健康・医療・福祉				住民自治・共生				環境・エネルギー			都市基盤・危機管理							経済・産業				文化・観光																	
満足	3.38	2.99	2.71	2.90	2.85	2.70	2.98	2.91	3.22	3.17	3.31	2.81	2.80	2.70	3.03	2.85	3.03	2.68	2.76	2.71	2.36	2.40	2.83	3.06	2.71	3.15	2.44	2.57	2.32	2.40	3.15	3.11	3.60	2.64	2.57	2.62	2.93	2.88	2.93	2.98	3.16	2.25	3.28	3.17	3.28	2.90	3.54
不満	2.38	2.05	1.98	2.05	1.86	1.83	1.89	2.08	2.45	2.44	2.42	1.85	1.90	1.59	2.06	2.16	2.33	1.66	1.70	1.60	1.82	1.64	2.20	2.46	2.00	2.43	1.74	1.88	1.56	1.68	2.34	2.25	3.03	1.87	1.75	1.88	2.20	2.05	1.69	2.60	2.43	1.57	2.34	2.42	2.50	2.15	2.77
回答者全体	3.04	2.70	2.39	2.70	2.56	2.42	2.64	2.57	2.96	2.87	3.04	2.46	2.54	2.30	2.68	2.55	2.69	2.27	2.37	2.28	2.16	2.22	2.61	2.87	2.52	2.88	2.22	2.27	2.07	2.17	2.89	2.85	3.38	2.43	2.36	2.39	2.71	2.64	2.51	2.85	2.92	1.99	2.99	2.90	2.92	2.69	3.32
「満足」と「不満」の差分	1.00	0.94	0.73	0.85	1.00	0.86	1.09	0.83	0.76	0.73	0.89	0.96	0.90	1.10	0.97	0.69	0.69	1.02	1.07	1.11	0.54	0.76	0.64	0.60	0.71	0.72	0.71	0.69	0.75	0.71	0.81	0.85	0.57	0.77	0.82	0.74	0.72	0.83	1.25	0.38	0.73	0.68	0.94	0.75	0.78	0.75	0.77

※1.00以上差がある項目に色がついている。

3)7分野・47施策の松本市の定住意向別の得点比較

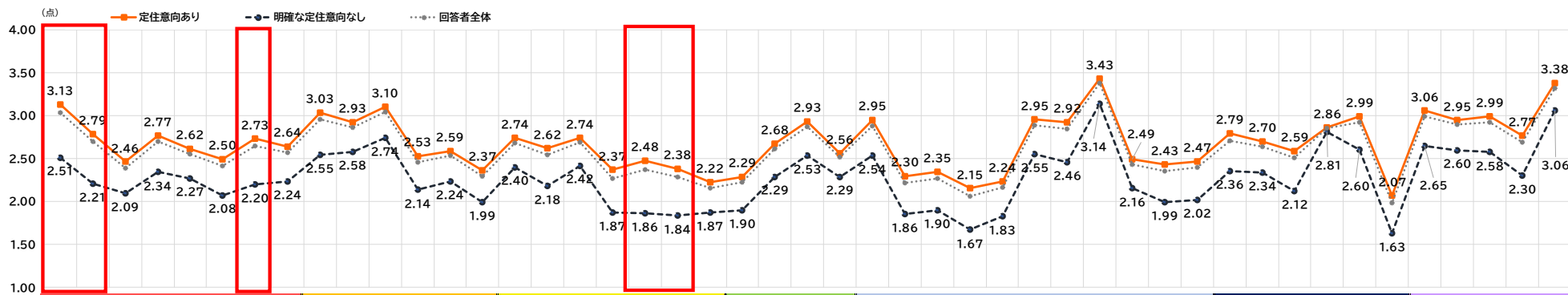
47施策の得点を回答者と定住意向の有無別に分析を行った。

非定住意向者は、子育て環境や多様性の尊重に対する評価が低い傾向にある。

- 定住意向のある回答者と明確な定住意向がない回答者の得点を比較すると、すべての施策において定住意向がある者の方が高い。
- 「安心して出産・子育てができるまちである」「多様な保育サービスが提供されている」などの子育て施策において得点差が大きい。
- また「互いの個性や立場を尊重し合える地域である」「性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である」などの多様性の尊重・ジェンダー平等などにおいても大きな差がみられる。
- これらに対する不満が非定住意向につながっていると推測される。

得点比較 (定住意向別)

※松本市に住み続けたかという設問に対し、「永住したい」「当分住み続けたい」と回答した者を定住意向ありとし、「どちらともいえない」「転出したい」と回答した者を明確な定住意向なしとした。



	子ども・若者・教育							健康・医療・福祉					住民自治・共生					環境・エネルギー				都市基盤・危機管理							経済・産業			文化・観光															
定住意向あり	3.13	2.79	2.46	2.77	2.62	2.50	2.73	2.64	3.03	2.93	3.10	2.53	2.59	2.37	2.74	2.62	2.74	2.37	2.48	2.38	2.22	2.29	2.68	2.93	2.56	2.95	2.30	2.35	2.15	2.24	2.95	2.92	3.43	2.49	2.43	2.47	2.79	2.70	2.59	2.86	2.99	2.07	3.06	2.95	2.99	2.77	3.38
明確な定住意向なし	2.51	2.21	2.09	2.34	2.27	2.08	2.20	2.24	2.55	2.58	2.74	2.14	2.24	1.99	2.40	2.18	2.42	1.87	1.86	1.84	1.87	1.90	2.29	2.53	2.29	2.54	1.86	1.90	1.67	1.83	2.55	2.46	3.14	2.16	1.99	2.02	2.79	2.70	2.12	2.81	2.60	1.63	2.65	2.60	2.58	2.30	3.06
回答者全体	3.04	2.70	2.39	2.70	2.56	2.42	2.64	2.57	2.96	2.87	3.04	2.46	2.54	2.30	2.68	2.55	2.69	2.27	2.37	2.28	2.16	2.22	2.61	2.87	2.52	2.88	2.22	2.27	2.07	2.17	2.89	2.85	3.38	2.43	2.36	2.39	2.71	2.64	2.51	2.85	2.92	1.99	2.99	2.90	2.92	2.69	3.32
「意向あり」と「意向なし」の差分	0.62	0.58	0.37	0.43	0.35	0.42	0.54	0.41	0.49	0.34	0.36	0.39	0.35	0.38	0.34	0.44	0.32	0.50	0.61	0.54	0.36	0.39	0.39	0.40	0.27	0.41	0.44	0.45	0.48	0.41	0.40	0.47	0.30	0.34	0.44	0.45	0.44	0.36	0.47	0.05	0.39	0.44	0.41	0.35	0.42	0.47	0.32

※0.50以上差がある項目に色がついている。

4) 7分野・47施策の松本市の推奨者と非推奨者の得点比較

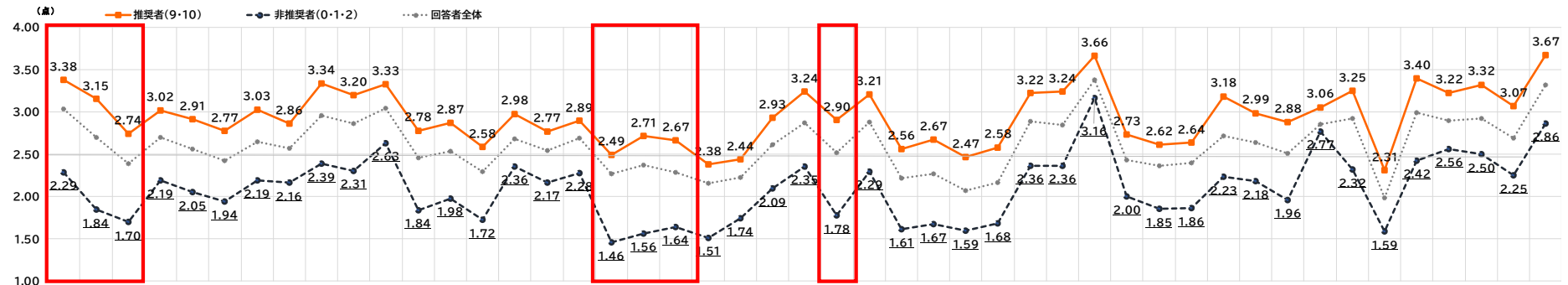
47施策の得点を回答者の松本市に対する推奨度別に比較し、その差について分析を行った。

非推奨者は、子育て・教育環境や多様性の尊重に対する評価が低い傾向にある。

- 推奨者と非推奨者における得点を比較すると、すべての施策において推奨者の方が高い。
- 「安心して出産・子育てができるまちである」「多様な保育サービスが提供されている」「小中学校で一人ひとりに応じた学習が行われている」などの子育て、教育施策において大きな得点差がみられる。
- また、「移住者や移住希望者に対するサポートが充実している」「互いの個性や立場を尊重し合える地域である」「性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である」などの多様性の尊重・ジェンダー平等などにおいても大きな差がみられる。これらに対する不満が非推奨につながっていると推測される。

得点比較(「推奨者:推奨度9・10」/「非推奨者:推奨度0・1・2」別)

※推奨度とは松本で暮らすことを友人・知人にすすめたいかという間に、0～10の11段階の評価で聞いた結果である。



	こども・若者・教育				健康・医療・福祉				住民自治・共生				環境・エネルギー			都市基盤・危機管理					経済・産業				文化・観光																						
推奨者(9・10)	3.38	3.15	2.74	3.02	2.91	2.77	3.03	2.86	3.34	3.20	3.33	2.78	2.87	2.58	2.98	2.77	2.89	2.49	2.71	2.67	2.38	2.44	2.93	3.24	2.90	3.21	2.56	2.67	2.47	2.58	3.22	3.24	3.66	2.73	2.62	2.64	3.18	2.99	2.88	3.06	3.25	2.31	3.40	3.22	3.32	3.07	3.67
非推奨者(0・1・2)	2.29	1.84	1.70	2.19	2.05	1.94	2.19	2.16	2.39	2.31	2.63	1.84	1.98	1.72	2.36	2.17	2.28	1.46	1.56	1.64	1.51	1.74	2.09	2.35	1.78	2.29	1.61	1.67	1.59	1.68	2.36	2.36	3.16	2.00	1.85	1.86	2.23	2.18	1.96	2.77	2.32	1.59	2.42	2.56	2.50	2.25	2.86
回答者全体	3.04	2.70	2.39	2.70	2.56	2.42	2.64	2.57	2.96	2.87	3.04	2.46	2.54	2.30	2.68	2.55	2.69	2.27	2.37	2.28	2.16	2.22	2.61	2.87	2.52	2.88	2.22	2.27	2.07	2.17	2.89	2.85	3.38	2.43	2.36	2.39	2.71	2.64	2.51	2.85	2.92	1.99	2.99	2.90	2.92	2.69	3.32
「推奨者(9・10)」と「非推奨者(0・1・2)」の差分	1.09	1.31	1.05	0.83	0.86	0.83	0.84	0.70	0.95	0.89	0.70	0.94	0.90	0.86	0.62	0.60	0.61	1.04	1.15	1.03	0.86	0.70	0.84	0.89	1.13	0.91	0.95	1.00	0.88	0.90	0.86	0.87	0.50	0.73	0.77	0.78	0.95	0.81	0.92	0.29	0.93	0.72	0.97	0.66	0.82	0.82	0.80

※1.0以上差がある項目に色が付いている。

5) 施策の平均点に関する分析における特筆すべき課題等

■分野別の施策評価の状況

① 「住民自治・共生」

- 「住民自治・共生」分野のみ、各施策の平均点が2.46と中央値である2.50以下で、最も評価が低くなっている。この分野の中でも「移住者や移住希望者に対するサポートが充実している」(2.27)「互いの個性や立場を尊重し合える地域である」(2.37)「性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である」(2.28)については特に低い傾向にあり、それが満足度や推奨度、定住意向にマイナスの影響を及ぼしている。
- 地域で生活する上で当然守られるべき人権などが守られていないと感じている層が一定数存在していると推測される。

② 「都市基盤・危機管理」

- 次に評価が低い分野は「都市基盤・危機管理」で分野別の平均点が2.55となっている。特に評価の低い施策は「生活する上で移動しやすい道路網が整備されている」(2.07)、「道路、空路、鉄道などの広域交通網が充実している」(2.17)、「生活する上で必要な公共交通が確保されている」(2.22)であり、移動・交通に関する都市基盤に対して市民が不満を持っていることが想像される。
- その一方で「城下町にふさわしいまちづくりが行われている」(2.88)、「都市と田園環境、自然環境のバランスが保たれている」(2.89)などの評価点が比較的高く、都市としての「つくり」には一定の評価が得られている。
- 人口減少が進む中、大規模な都市基盤（インフラ）への投資は難しい時代になる。評価の高い「都市のつくり」を壊すことなく、賢い都市の使い方（過度な自家用車利用の抑制、自転車や公共交通の活用）などを、より市民に働き掛けていくことが必要となる。

③ 「こども・若者・教育」

- 第11次基本計画で力を入れている分野の「こども・若者・教育」の平均点は2.64となっており、中央値2.50以上となっている。
- 「小中学校で一人ひとりに応じた学習が行われている」(2.39)、「若者が地域で活躍している」(2.42)の2つの施策が、中央値(2.50)より低くなっており、分野別の施策評価の平均点を押し下げている。
- 地域との関わりが強いほど定住意向が高くなる傾向を踏まえると、若者と地域との関わりを増やしていく取組みが望まれる。

■生活満足度/推奨度/定住意向と施策評価の関係

- 生活満足度、推奨度、定住意向（以下「満足度等」という。）が高い回答者は、そうでない回答者と比較するとすべての施策に対する評価が高くなっている。
- 満足度等が高い者は、各施策のアウトカム（成果）に対する評価が高い。これらは、施策の成果である「暮らしやすさ」などを日常的に実感することができることから、満足度が高くなっていると考えられる。
- 一方、満足度等が低い者は、日常生活において困ったときに相談できなと感じていたり（「消費生活や経済面で困ったときに相談できる」、「安心して持続的に働ける環境がある」など）、多様性や個人が尊重されていない、子どもの教育環境が整っていないと感じている傾向が強い。
- このことから満足度が低い者は、日常生活において何らかの我慢や不安を強いられており、かつ、その解消を助ける支援網に引っかかかっていないことが想定される。
- このような状況を解消するため、困った時の相談先の周知や、現在、行われている暮らしに課題を抱える者等への支援策がより機能するような取組みが必要と言える。

(2)回答保留の割合の分析

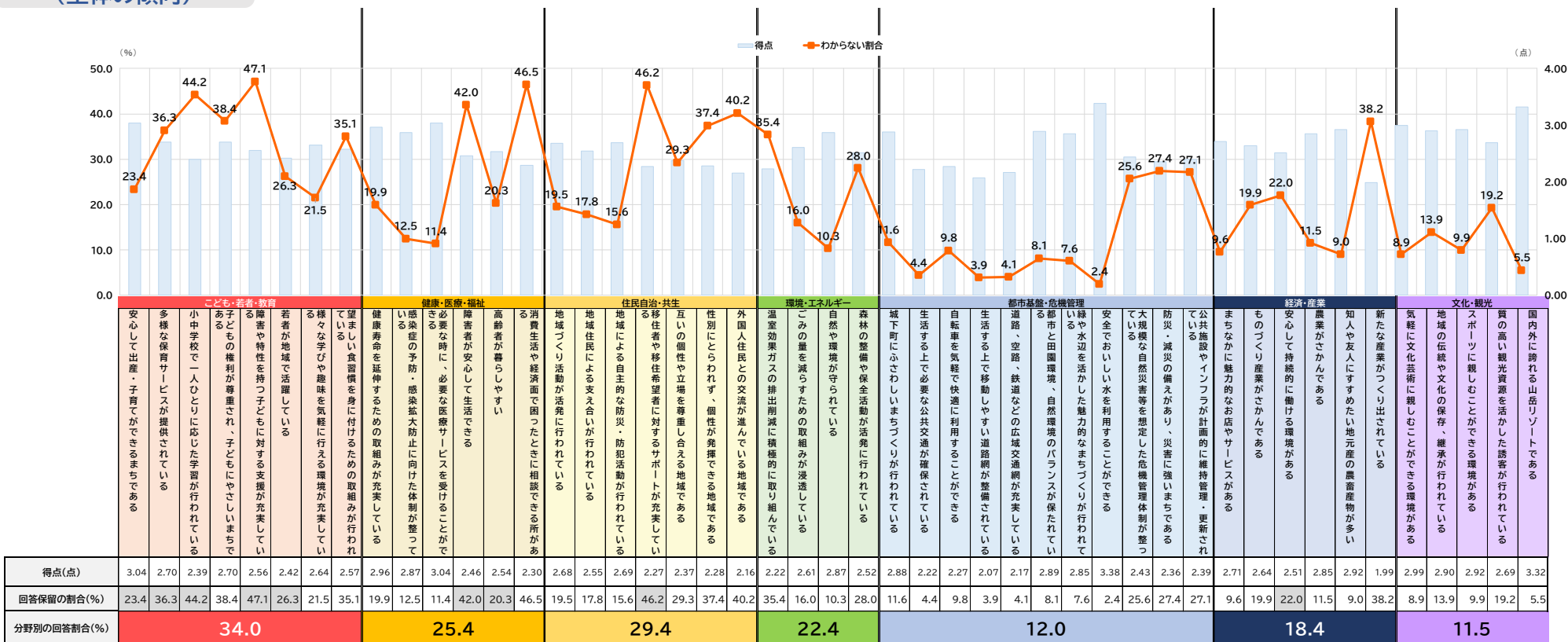
回答保留（「わからない」という回答）割合の分析結果を示す。

1)7分野・47施策の回答保留の比較

受益者が限定された施策が多い「子ども・若者・教育」で、回答保留の割合が高い。

- 下の表は、7分野・47施策の回答保留（わからない）の割合を示したものである。グレーの網掛けは、子どもや高齢者、障がい者など、受益者が限定される施策である。
- 7分野別にみると「子ども・若者・教育」分野は受益者が限定された施策が多いこともあり、回答保留の割合が34.0%と他の分野よりも高くなっている。
- 「文化・観光」は11.5%であり他の分野よりも取組み等が認知されている。「都市基盤・危機管理」も同様に回答保留の割合が12.0%と低い。

回答保留の割合比較 (全体の傾向)

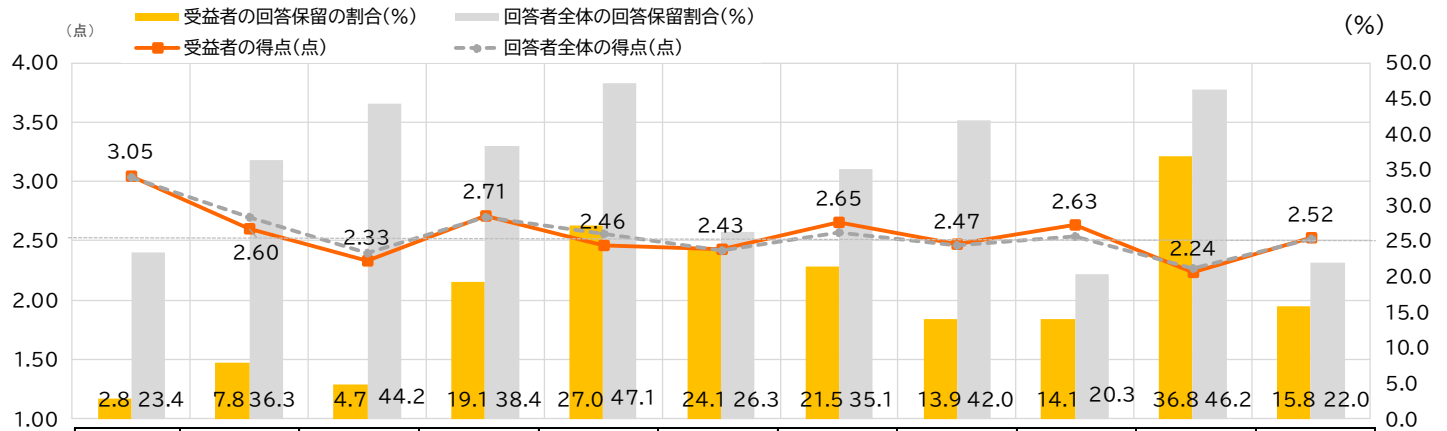


2) 受益者が限定される施策の平均点と回答保留の割合

受益者対象者で、回答保留の割合が下がる。

- 子どもや高齢者、障がい者など、受益者が限定される施策の得点と回答保留の割合を示したものである。
- 回答保留の割合は受益者対象者では、非受益者に比べ、すべての当該施策において低くなる。
- しかし、「移住者や移住希望者に対するサポートが充実している」は受益対象者に絞っても回答保留の割合が高い。
- なお、施策評価の得点の傾向は、受益者と全回答者と大きく変わらない。

得点及び回答保留の割合比較 (受益者対象者が限られる施策)



	子どもや高齢者、障がい者など、受益者が限定される施策	移住者や移住希望者に対するサポートが充実している	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	
受益者の得点(点)	3.05	2.60	2.33	2.71	2.46	2.43	2.65	2.47	2.63	2.24	2.52
受益者の回答保留の割合(%)	2.8	7.8	4.7	19.1	27.0	24.1	21.5	13.9	14.1	36.8	15.8
回答者全体の得点(点)	3.04	2.70	2.39	2.70	2.56	2.42	2.57	2.46	2.54	2.27	2.51
回答者全体の回答保留割合(%)	23.4	36.3	44.2	38.4	47.1	26.3	35.1	42.0	20.3	46.2	22.0

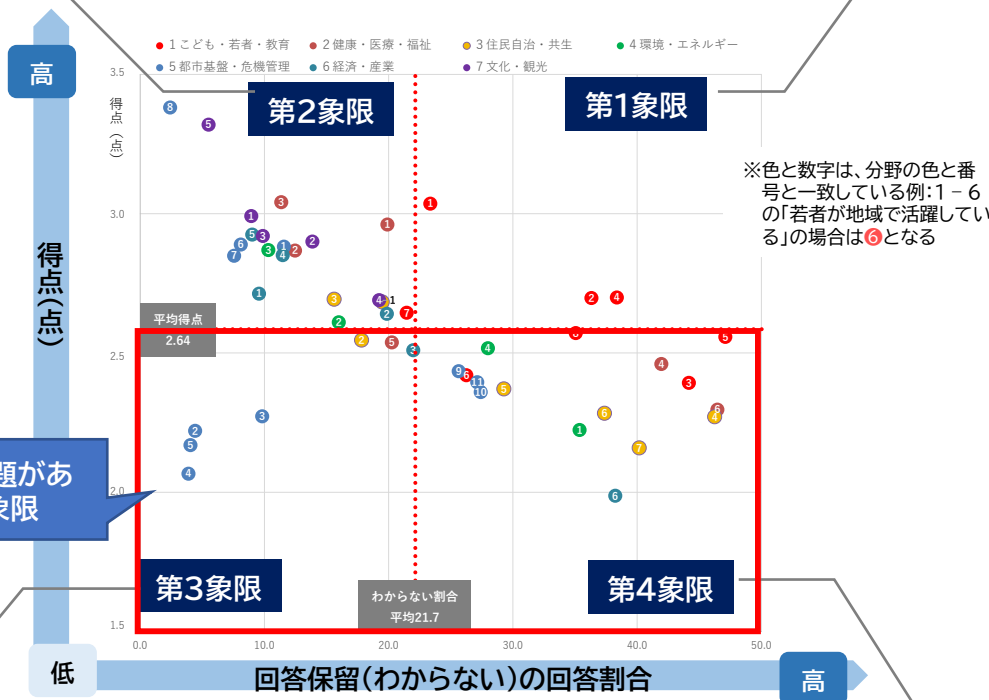
(3) 施策評価と回答保留の分析

1) 各施策の平均点と回答保留の分析の考え方

縦軸を得点、横軸を回答保留の割合とし、47施策をプロットし4象限で整理した。
右表の★は、受益対象者が限定される施策であり、回答保留の割合が高くなるため、参考として掲載している。

第2象限：得点【高】・回答保留【低】
多くの人が一定の高い評価している。
⇒現在の取組みを維持していくことが必要

第1象限：得点【高】・回答保留【高】
評価できる人が少ないが、
評価可能な人からは一定の評価を得られている。
⇒評価を維持しつつ取組み等の周知が必要



特に課題がある第3象限

第3象限：得点【低】・回答保留【低】
多くの人が低い評価をしている。
⇒不満を感じている人が多く、
取組みの早期改善が必要

第4象限：得点【低】・回答保留【高】
評価できる人が少ない上に、
評価可能な人の評価が低い。
⇒現在の取組みに課題を感じている人が多くかつ、
評価できるまでに浸透できておらず周知も必要

第3象限、第4象限に位置する施策は事業の内容について改善が求められる。次ページにおいて改善策を検討する上での考え方を示す。

調査項目と象限の対応

※ 受益者限定される施策は、回答保留の割合が高くなるため、参考として掲載

分野	調査項目	象限	得点	回答保留の割合	受益者限定
子ども・若者・教育	1-1 安心して出産・子育てができるまちである	1	3.0	23.4	★
	1-2 多様な保育サービスが提供されている	1	2.7	36.3	★
	1-3 小中学校で一人ひとりに応じた学習が行われている	4	2.4	44.2	★
	1-4 子どもの権利が尊重され、子どもにやさしいまちである	1	2.7	38.4	
	1-5 障害や特性を持つ子どもに対する支援が充実している	4	2.6	47.1	★
	1-6 若者が地域で活躍している	4	2.4	26.3	★
	1-7 様々な学びや趣味を気軽に行える環境が充実している	2	2.6	21.5	
	1-8 望ましい食習慣を身に付けるための取組みが行われている	4	2.6	35.1	
健康・医療・福祉	2-1 健康寿命を延伸するための取組みが充実している	2	3.0	19.9	
	2-2 感染症の予防・感染拡大防止に向けた体制が整っている	2	2.9	12.5	
	2-3 必要な時に、必要な医療サービスを受けることができる	2	3.0	11.4	
	2-4 障害者が安心して生活できる	4	2.5	42.0	★
	2-5 高齢者が暮らしやすい	3	2.5	20.3	★
住民自治・共生	2-6 消費生活や経済面で困ったときに相談できる所がある	4	2.3	46.5	
	3-1 地域づくり活動が活発に行われている	2	2.7	19.5	
	3-2 地域住民による支え合いが行われている	3	2.5	17.8	
	3-3 地域による自主的な防災・防犯活動が行われている	2	2.7	15.6	
	3-4 移住者や移住希望者に対するサポートが充実している	4	2.3	46.2	★
	3-5 互いの個性や立場を尊重し合える地域である	4	2.4	29.3	
	3-6 性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である	4	2.3	37.4	
環境・エネルギー	3-7 外国人住民との交流が進んでいる地域である	4	2.2	40.2	
	4-1 温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいる	4	2.2	35.4	
	4-2 ごみの量を減らすための取組みが浸透している	3	2.6	16.0	
	4-3 自然や環境が守られている	2	2.9	10.3	
都市基盤・危機管理	4-4 森林の整備や保全活動が活発に行われている	4	2.5	28.0	
	5-1 城下町にふさわしいまちづくりが行われている	2	2.9	11.6	
	5-2 生活する上で必要な公共交通が確保されている	3	2.2	4.4	
	5-3 自転車を気軽に快適に利用することができる	3	2.3	9.8	
	5-4 生活する上で移動しやすい道路網が整備されている	3	2.1	3.9	
	5-5 道路、空路、鉄道などの広域交通網が充実している	3	2.2	4.1	
	5-6 都市と田園環境、自然環境のバランスが保たれている	2	2.9	8.1	
	5-7 緑や水辺を活かした魅力的なまちづくりが行われている	2	2.8	7.6	
	5-8 安全でおいしい水を利用することができる	2	3.4	2.4	
	5-9 大規模な自然災害等を想定した危機管理体制が整っている	4	2.4	25.6	
	5-10 防災・減災の備えがあり、災害に強いまちである	4	2.4	27.4	
5-11 公共施設やインフラが計画的に維持管理・更新されている	4	2.4	27.1		
経済・産業	6-1 まちなかに魅力的なお店やサービスがある	2	2.7	9.6	
	6-2 ものづくり産業がさかんである	2	2.6	19.9	
	6-3 安心して持続的に働ける環境がある	4	2.5	22.0	★
	6-4 農業がさかんである	2	2.9	11.5	
	6-5 知人や友人にすすめたい地元産の農畜産物が多い	2	2.9	9.0	
	6-6 新たな産業が生まれ出されている	4	2.0	38.2	
文化・観光	7-1 気軽に文化芸術に親しむことができる環境がある	2	3.0	8.9	
	7-2 地域の伝統や文化の保存・継承が行われている	2	2.9	13.9	
	7-3 スポーツに親しむことができる環境がある	2	2.9	9.9	
	7-4 質の高い観光資源を活かした誘客が行われている	2	2.7	19.2	
	7-5 国内外に誇れる山岳リゾートである	2	3.3	5.5	

2) 施策の平均点と回答保留の分析結果の活用の仕方

① 第3象限に位置する施策に対する対応

- 第3象限に位置する施策は、施策評価の平均点が低く、回答保留の割合も少ない。
- つまり、多くの市民が現状を把握した上で低い評価をしている施策
- このような施策に対する事業立案の方針として、以下が考えられる。

第3象限に位置する施策一覧

		調査項目	象限	得点	回答保留の割合
3-2	地域福祉活動の推進	地域住民による支え合いが行われている	3	2.5	17.8
4-2	3R徹底による環境負荷軽減	ごみの量を減らすための取組みが浸透している	3	2.6	16.0
5-2	地域交通ネットワークの拡充	生活する上で必要な公共交通が確保されている	3	2.2	4.4
5-3	自転車活用先進都市の実現	自転車を気軽に快適に利用することができる	3	2.3	9.8
5-4	交通需要に即した道路整備	生活する上で移動しやすい道路網が整備されている	3	2.1	3.9
5-5	広域交通網の整備推進	道路、空路、鉄道などの広域交通網が充実している	3	2.2	4.1

方針1：評価を上げられる施策に対する方針

「3-2 地域福祉活動の推進」「4-2 3R徹底による環境負荷軽減」など、必要性が高く、改善の余地がある施策については、より効果の上がる事業を立案することが求められる。また、市民の自発的な行動・活動が必要なことを周知していくことも重要と言える。

方針2：評価を上げることが難しい施策

「5-2 地域交通ネットワークの拡充」や「5-4 交通需要に即した道路整備」など、一朝一夕に実現しない施策、多額の費用がかかるなど慎重に議論すべき施策に対しては、すぐに評価を上げることは難しい。現在の取組みや、現状の中で適切（スマート）な生活の送り方などの丁寧な周知が求められる。

② 第4象限に位置する施策に対する対応

- 第4象限に位置する施策は、回答保留の割合が高く、施策評価の平均点が低い。
- つまり、現状を把握していない（できない）市民が一定数存在する。
- また、現状を把握している市民の現状に対する評価は低い。
- このような施策に対する事業立案の方針として、以下が考えられる。

第4象限に位置する施策一覧

		調査項目	象限	得点	回答保留の割合
1-8	全ての世代にわたる食育の推進	望ましい食習慣を身に付けるための取組みが行われている	4	2.6	35.1
2-6	暮らしを守る生活支援の充実	消費生活や経済面で困ったときに相談できる所がある	4	2.3	46.5
3-5	多様な人権・平和の尊重	互いの個性や立場を尊重し合える地域である	4	2.4	29.3
3-6	ジェンダー平等社会の実現	性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である	4	2.3	37.4
3-7	国際化・多文化共生の推進	外国人住民との交流が進んでいる地域である	4	2.2	40.2
4-1	再生可能エネルギーの導入促進	温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいる	4	2.2	35.4
4-4	森林の保全・再生・活用	森林の整備や保全活動が活発に行われている	4	2.5	28.0
5-9	危機管理体制の強化	大規模な自然災害等を想定した危機管理体制が整っている	4	2.4	25.6
5-10	防災・減災対策の推進	防災・減災の備えがあり、災害に強いまちである	4	2.4	27.4
5-11	将来にわたる公共インフラの整備	公共施設やインフラが計画的に維持管理・更新されている	4	2.4	27.1
6-6	地域特性を活かした新産業の創出	新たな産業が作り出されている	4	2.0	38.2

方針3：回答保留に対する方針

各施策における取組内容に対する周知を徹底することが第一歩といえる。特に全市民が対象となる施策については、無関心層の存在が施策効果を弱める可能性があるため、取組内容を伝える事業が求められる。

方針4：受益者が限定される施策への対応

「2-6 暮らしを守る生活支援の充実」など受益者が限定されている施策については、受益者の評価を確認し、適切に支援が行き届いているかを判断することが重要である。受益者の評価が低いようであれば、事業を見直すことが求められる。

受益者が限定されない施策については、方針1、方針2で示した対応が求められる。

■ 特に「いかす」取組みの強化が必要

- 「みとめる」「まなぶ」「いかす」「つなぐ」「いどむ」の行動目標を代表する項目に絞り、整理を行ったものが下表である。
- 5つの行動目標では「つなぐ」「みとめる」が高く、「いかす」が低い。
- なお、「みとめる」に関しては前述したとおり、暮らしの基本となる行動であり、満点である4点に近づける必要がある。
- 「いかす」に関する項目は、「地域の伝統や文化の保存、継承」や「音楽や芸術にふれる」という文化・芸術に関係する行動であり、市民が日々の暮らしの中で楽しめるよう、すそ野を広げていく取組みが必要である。
- 行動目標を代表する項目と、7分野・47施策別との主な対応は、右表のとおりである。各施策を推進し、市民の行動につなげていく取組みが引き続き求められる。

	みとめる		まなぶ		いかす		つなぐ		いどむ
	い違いを認め合い、個性を大切にしている	子どもの権利について理解し、尊重している	様々なことに関心を持ち、学んでいる	生涯学習や文化活動に取り組んでいる	地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	音楽や芸術に触れ、親しんでいる	資源化や分別でごみの減量を行っている	自然や環境に配慮した暮らしをしている	様々なことにチャレンジしている
得点(点)	3.00	2.96	2.60	2.17	1.74	2.33	3.14	2.89	2.31
平均得点(点)	2.98		2.39		2.03		3.02		2.31

行動目標	項目	対応する主な施策
みとめる	違いを認め合い、個性を大切にしている	3-5 多様な人権・平和の尊重 3-6 ジェンダー平等社会の実現 3-7 国際化・多文化共生の推進
	子どもの権利について理解し、尊重している	1-1 結婚・出産・子育て支援の充実 1-2 質の高い保育・幼児教育の実現 1-4 子どもにやさしいまちづくり
まなぶ	様々なことに関心を持ち、学んでいる	1-2 質の高い保育・幼児教育の実現 1-3 個性と多様性を尊重する学校教育 1-7 ニーズに応じた生涯学習の実現 3-1 住民自治支援の強化
	生涯学習や文化活動に取り組んでいる	1-7 ニーズに応じた生涯学習の実現 7-2 歴史・文化遺産の継承
いかす	地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	7-2 歴史・文化遺産の継承 3-1 住民自治支援の強化
	音楽や芸術に触れ、親しんでいる	7-2 歴史・文化遺産の継承
つなぐ	資源化や分別でごみの減量を行っている	4-1 再生可能エネルギーの導入促進 4-2 3R徹底による環境負荷軽減
	自然や環境に配慮した暮らしをしている	4-1 再生可能エネルギーの導入促進 4-2 3R徹底による環境負荷軽減
いどむ	様々なことにチャレンジしている	1-7 ニーズに応じた生涯学習の実現 6-3 雇用対策と働き方改革の推進 6-6 地域特性を活かした新産業の創出

4. 「人口の定常化」に関する施策の現状評価に対する分析

第11次基本計画では、「人口の定常化」に向けて、将来に希望を持ち、安心して結婚・出産・育児ができる環境整備を行い、加えて、首都圏を中心とする大都市から松本市に魅力を感じて移住を考える人の着実な定着を促すことで、人口の維持・増加を目指している。

本節では、「出産・育児支援」と「移住促進」に関する項目について右記の通り、設問を設定した。

出産・育児については、内閣府「少子化社会に関する国際意識調査」と傾向について比較分析を行い、松本市の現状把握を行った。

内閣府の調査実施概要は以下のとおりである。この調査では、20～49歳の男女を調査対象としており、松本市においてもその層と比較を行った。なお、選択肢等は一部異なり、単純に比較できるものではない。

令和2年度少子化社会に関する国際意識調査

調査対象国・調査対象者及び調査項目

- 調査対象国：日本、フランス、ドイツ、スウェーデンの4か国
- 調査対象者：20～49歳の男女
- 調査時期：令和2年（2020年）10月～令和3年（2021年）1月
- 標本数：各国とも標本数1,000以上の回収を原則
- 調査方法：調査員による留置き調査

「出産・育児支援」と「移住促進」の調査項目一覧

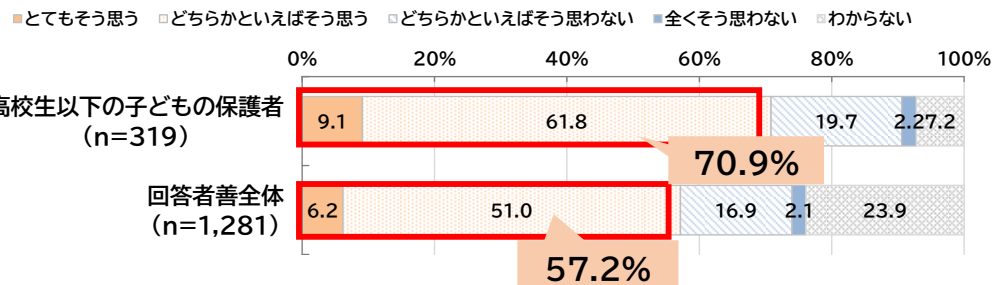
分野	設問
出産・育児支援	<ul style="list-style-type: none">● 松本市は子どもを産み育てやすい地域であると思うか● 上記に「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」を選んだ方に対して、子どもを生み育てやすい地域であると思う理由を、「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」を選んだ方に対して、子どもを生み育てやすい地域であると思わない理由を把握した。● 重視する妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策
移住促進	<ul style="list-style-type: none">● 松本市外の同世代の人に誇れる、松本市の魅力● 松本市外に住み、転入した経験は● 松本市への転入時の主なきっかけ● 転入時に感じた松本市の印象や魅力

1) 松本市は子どもを産み育てやすい地域であると思うか

高校生以下の子どもと同居している保護者の肯定的評価は70.9%と高い。

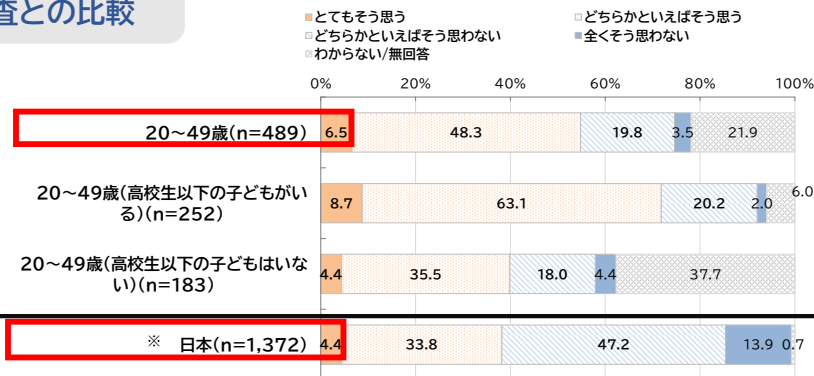
- 松本市は子どもを産み育てやすい地域であると思うかについてみると、高校生以下の子どもと同居している保護者の「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は70.9%である。回答者全体では57.2%であり、受益者である保護者の方が割合が高く、一定の評価を得ている。
- 令和2年度に、20～49歳を対象に内閣府が行った「少子化社会に関する国際意識調査」（以下「全国調査」という。）と比較すると「とてもそう思う」との回答は、本調査の方が2.1ポイント高い（少子化社会に関する国際意識調査 4.4%）。なお、全国調査では選択肢に「わからない」が含まれていないことと、子どもの有無に関わらず20～49歳の男女を調査対象としている点に注意が必要である。

全体傾向



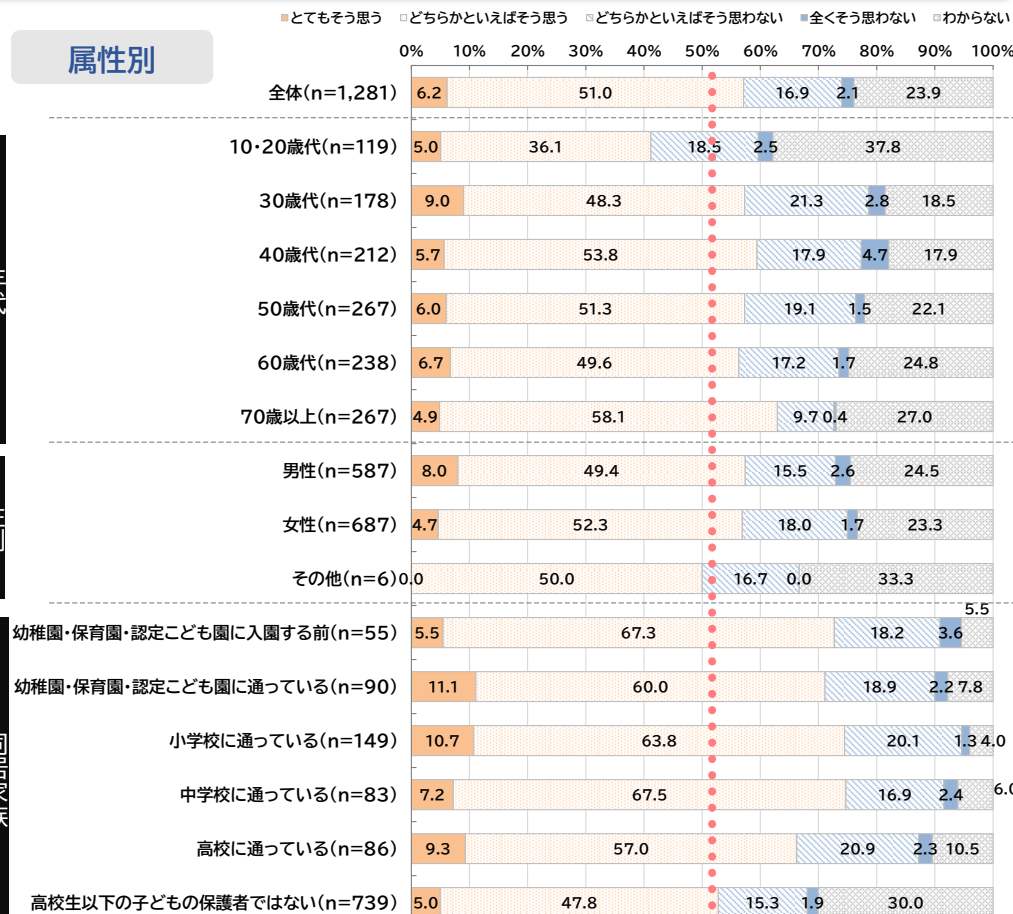
20～49歳の松本市と全国調査との比較

松本市



※令和2年度国際意識調査は、『内閣府「少子化社会に関する国際意識調査」(令和2年度)』を引用。
 ※この調査では、20～49歳の男女を調査対象としている。

属性別



前問の「松本市は子どもを産み育てやすい地域であると思うか」でそう思う、どちらかといえばそう思うと回答した者のみ

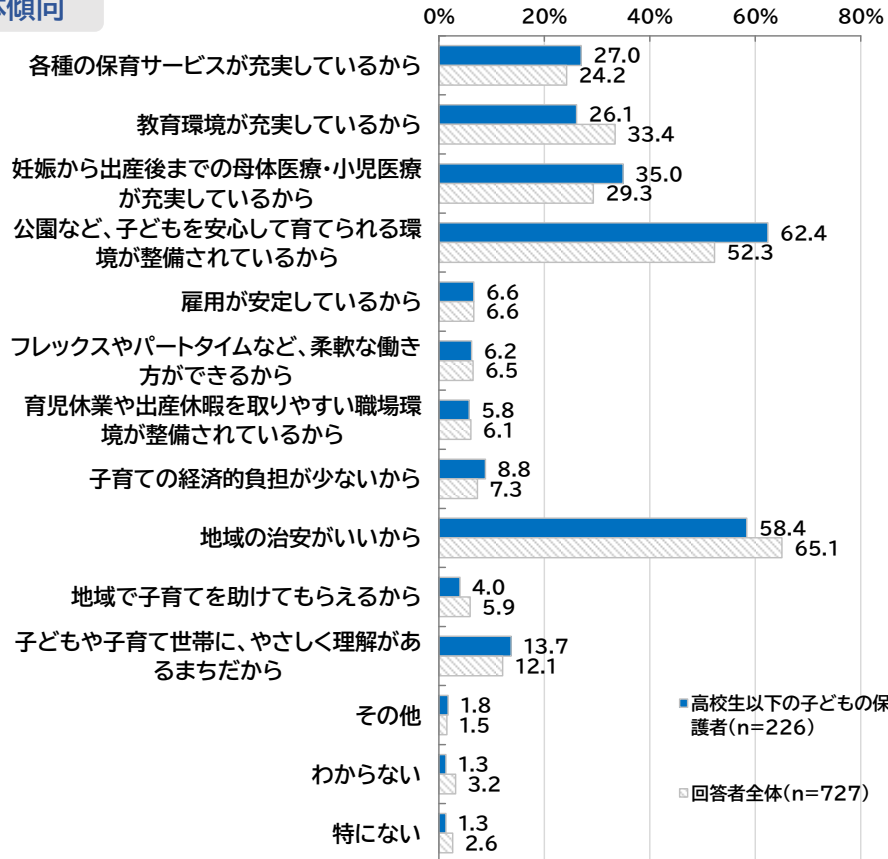
1-1)子どもを産み育てやすいと思う理由

[複数回答]

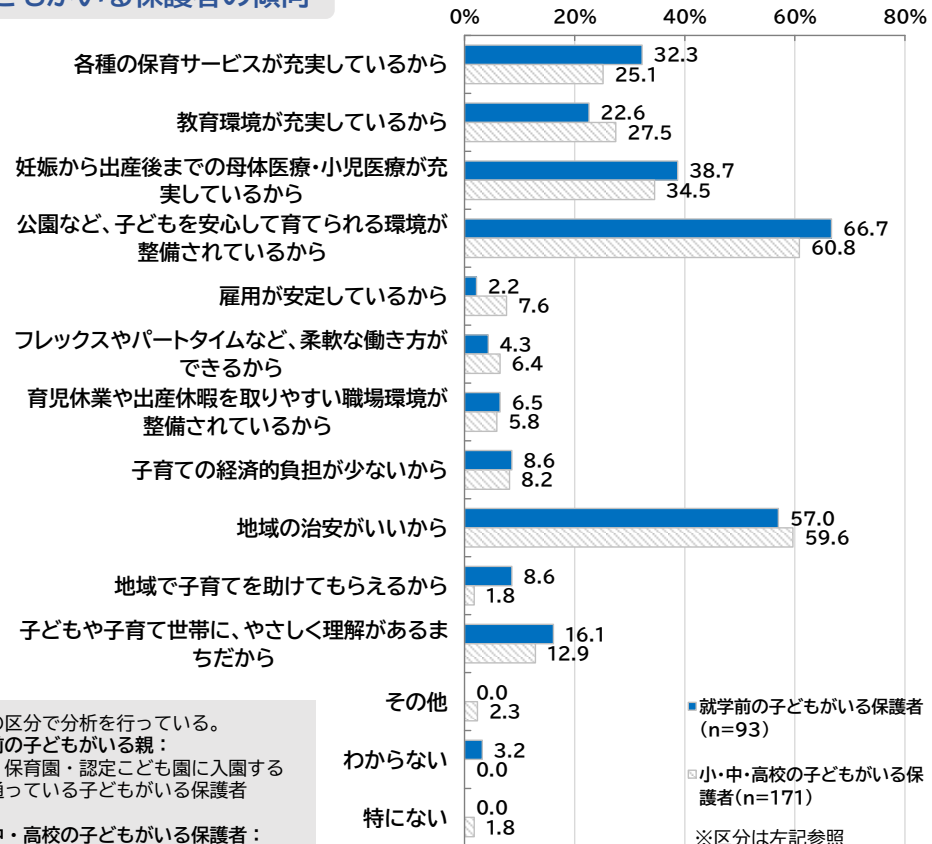
高校生以下の子どもと同居している保護者は、公園など、子どもを安心して育てられる環境を評価

- 子どもを産み育てやすいと思う理由をみると、高校生以下の子どもと同居している保護者では、「公園など、子どもを安心して育てられる環境が整備されている」が最も高く、次いで「地域の治安がいい」であった。
- 子どもがいる保護者の傾向を子どもの年齢別に分析すると、就学前の子どもがいる保護者が「公園など、子どもを安心して育てられる環境が整備されている」を評価している。

全体傾向



子どもがいる保護者の傾向



※以下の区分で分析を行っている。
 ■ 就学前の子どもがいる親：
 幼稚園・保育園・認定こども園に入園する前及び通っている子どもがいる保護者
 ■ 小・中・高校の子どもがいる保護者：
 小学校、中学校、高校のいずれかに通っている子どもがいる保護者

※区分は左記参照

前問の「松本市は子どもを産み育てやすい地域であると思うか」でそう思う、どちらかといえばそう思うと回答した者のみ
 1-1)子どもを産み育てやすいと思う理由 [複数回答]

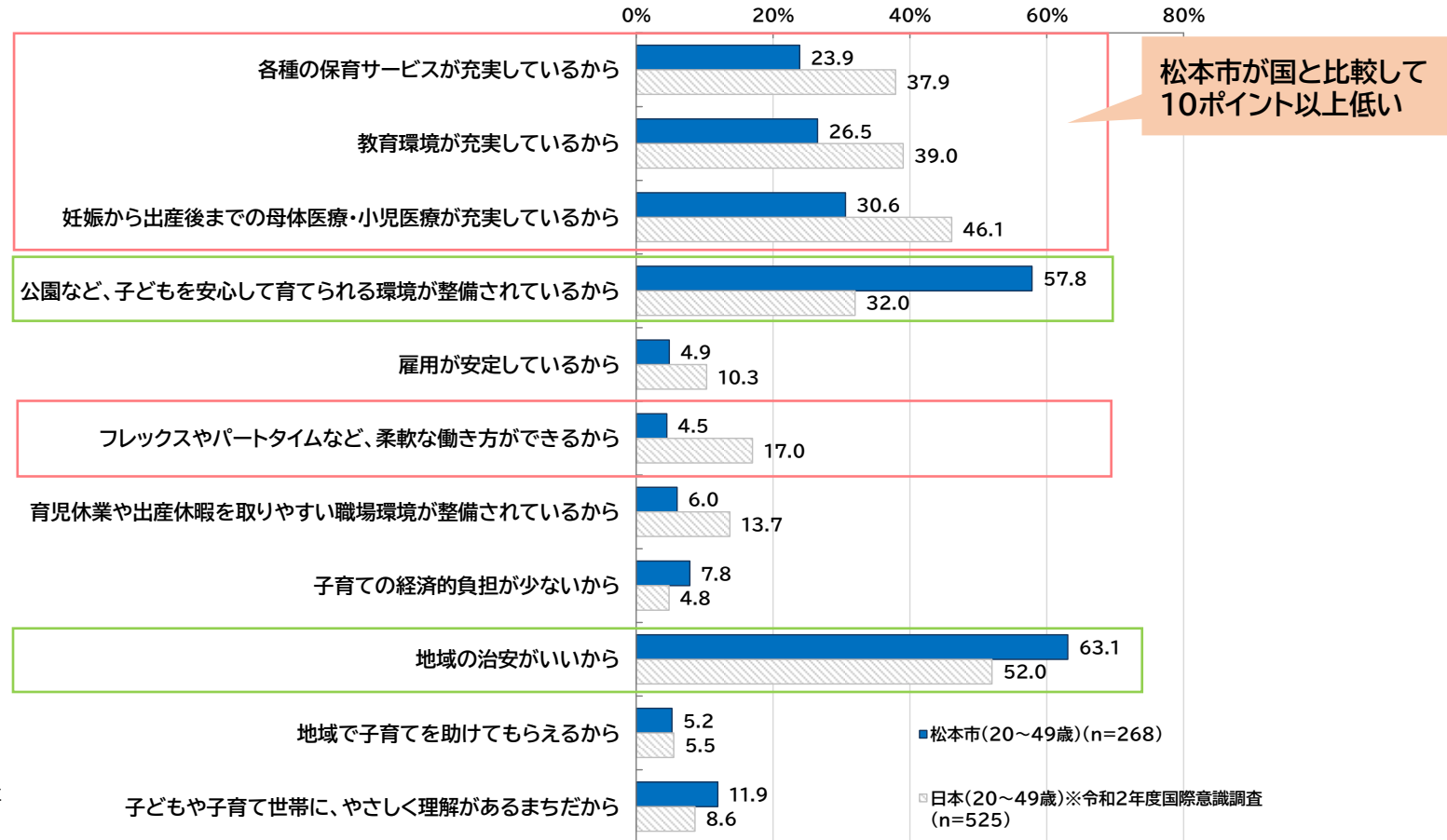
全国調査より「各種の保育サービス」「教育環境」「母体医療・小児医療」が10ポイント以上低い。

- 子どもを産み育てやすいと思う理由について、全国調査と比較すると「地域の治安がいい」「公園など、子どもを安心して育てられる環境が整備されている」は松本市が10ポイント以上高い一方、「各種の保育サービスが充実している」「教育環境が充実している」という保育・教育環境や、「母体医療・小児医療が充実している」という医療環境、「フレックスやパートタイムなど、柔軟な働き方ができる」という仕事・雇用環境は全国調査よりも10ポイント以上低くなっている。

20～49歳における
松本市と全国調査との比較

■ …松本市が10ポイント以上高い

■ …松本市が10ポイント以上低い



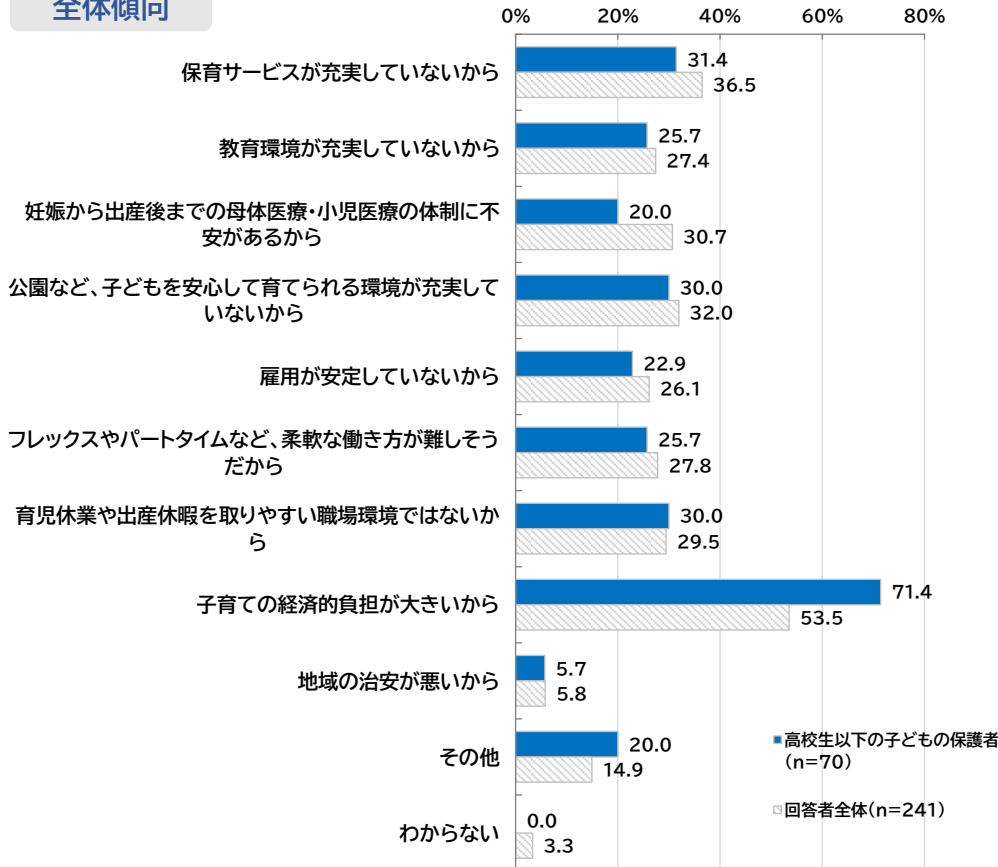
※令和2年度国際意識調査は、『内閣府「少子化社会に関する国際意識調査」(令和2年度)』を引用。

前問の「松本市は子どもを産み育てやすい地域であると思うか」でそう思わない、どちらかといえばそう思わないと回答した者のみ
1-2) 子どもを産み育てやすいと思わない理由 [複数回答]

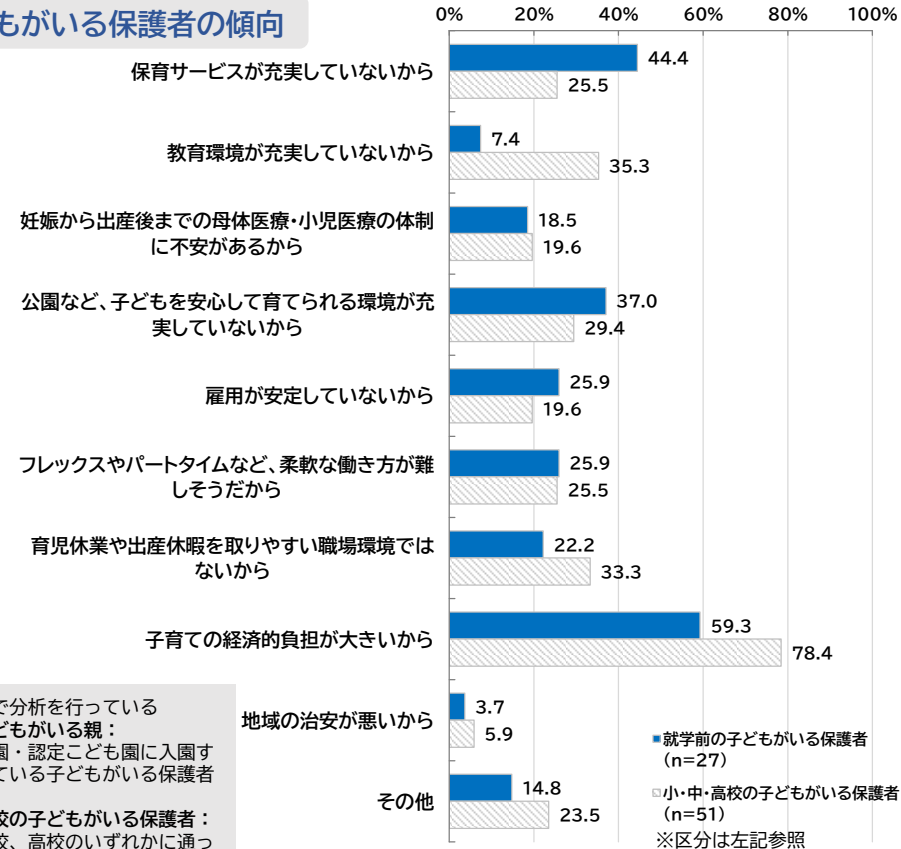
高校生以下の子どもがいる保護者は、特に「子育ての経済的負担が大きいから」を理由として挙げている。

- 子どもを産み育てやすいと思わない理由をみると、高校生以下の子どもへの保護者では「子育ての経済的負担が大きいから」が突出して高い。
- 子どもがいる保護者の傾向を子どもの年齢別に分析すると、就学前の子どもがいる保護者では「子育ての経済的負担が大きいから」「保育サービスが充実していないから」が高く、小・中・高校の子どもへの保護者では「子育ての経済的負担が大きいから」「教育環境が充実していないから」があげられていた。なお、属性別の回答については、回答者数が少ないので比率を判断する上で注意が必要である。

全体傾向



子どもがいる保護者の傾向



※以下の区分で分析を行っている
 ■ 就学前の子どもがいる親：幼稚園・保育園・認定こども園に入園する前及び通っている子どもがいる保護者
 ■ 小・中・高校の子どもがいる保護者：小学校、中学校、高校のいずれかに通っている子どもがいる保護者

■ 就学前の子どもがいる保護者 (n=27)
 □ 小・中・高校の子どもがいる保護者 (n=51)
 ※区分は左記参照

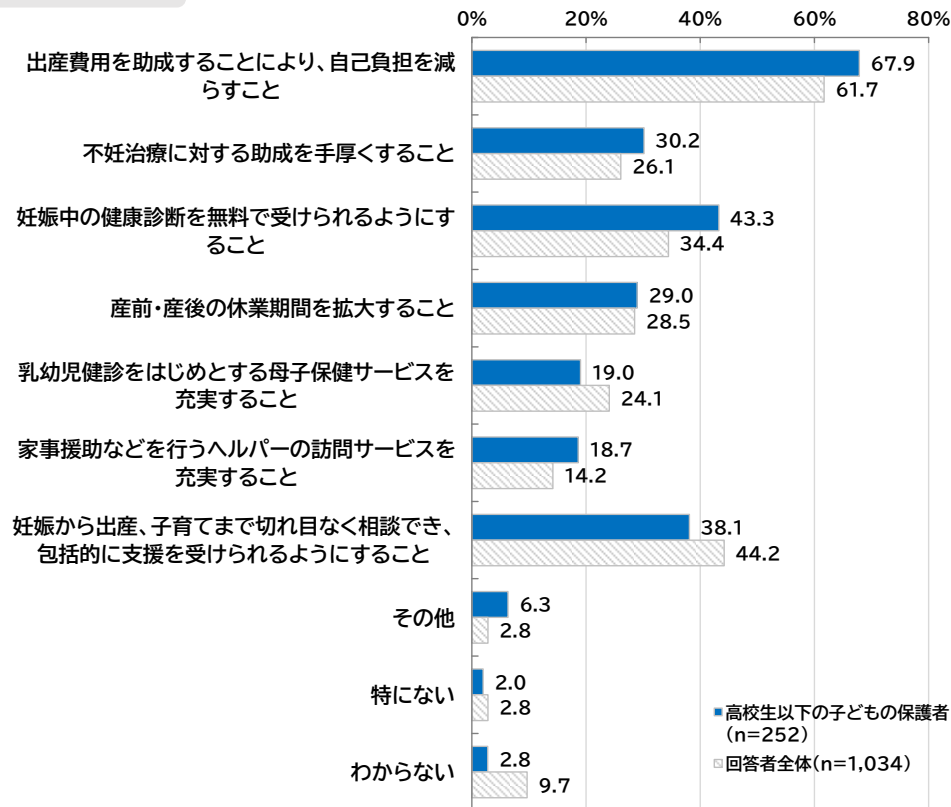
2)重視する妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策

[複数回答(3つまで)]

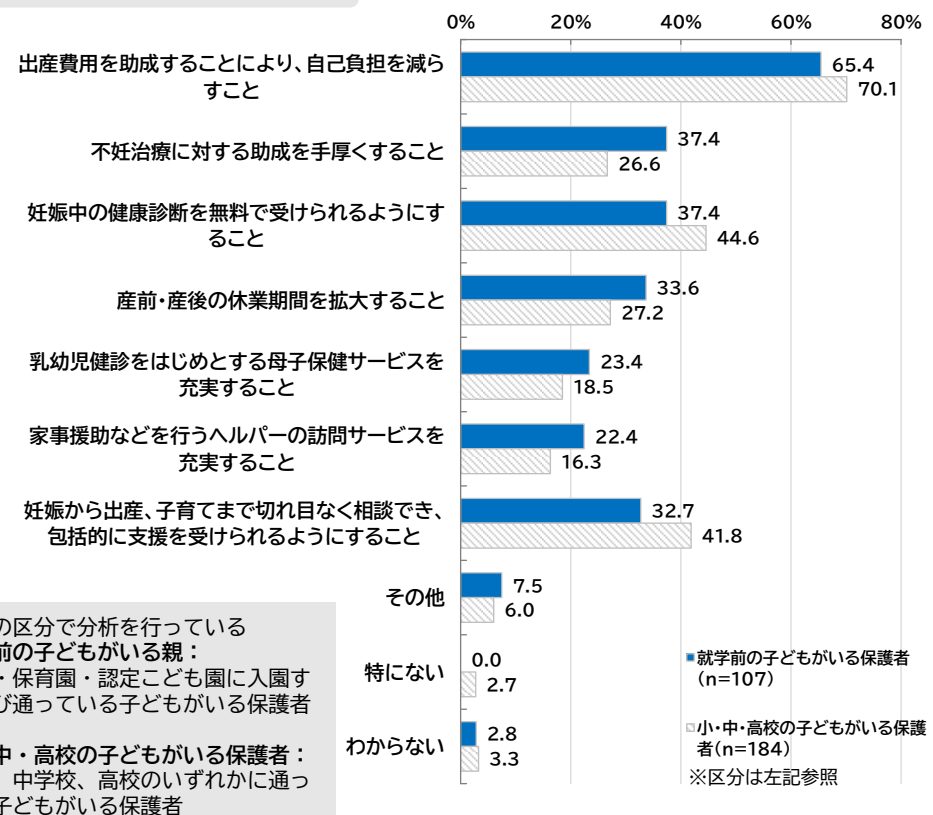
重視する施策は「出産費用を助成することにより、自己負担を減らすこと」が上位

- 重視する妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策としては、高校生以下の子どもの保護者では、「出産費用を助成することにより、自己負担を減らすこと」「妊娠中の健康診断を無料で受けられるようにすること」「妊娠から出産、子育てまで切れ目なく相談でき、包括的に支援を受けられるようにすること」の順で高くなっていった。
- 子どもがいる保護者の傾向を子どもの年齢別に分析すると、就学前の子どもがいる保護者では「不妊治療に対する助成を手厚くすること」の割合が、小・中・高校の子どもがいる保護者では「妊娠から出産、子育てまで切れ目なく相談でき、包括的に支援を受けられるようにすること」の割合が高くなっていった。

全体傾向



子どもがいる保護者の傾向



※以下の区分で分析を行っている
■ 就学前の子どもがいる親：幼稚園・保育園・認定こども園に入園する前及び通っている子どもがいる保護者
■ 小・中・高校の子どもがいる保護者：小学校、中学校、高校のいずれかに通っている子どもがいる保護者

※区分は左記参照

3) 出産・育児支援に関する分析のまとめ

■「保育・教育」「仕事・雇用」の更なる改善が必要

20～49歳に絞り、松本市は子どもを産み育てやすい地域かという問いに対する評価をみると「とてもそう思う」の回答割合は全国調査が4.4%であるのに対し、松本市は6.5%であり、全国よりやや高い結果となっている。

単純に比較はできないが、令和2年度に20～49歳を対象に行われた内閣府「少子化社会に関する国際意識調査」の各国の「とてもそう思う」の回答割合をみると、日本は4.4%、フランスは25.5%、ドイツ26.5%、スウェーデン80.4%であった。

評価が非常に高いスウェーデンと比べると、松本市が50ポイント以上低いのは仕事・雇用に関する「雇用が安定しているから」「フレックスやパートタイムなど、柔軟な働き方ができるから」や保育・教育に関する「各種の保育サービスが充実しているから」「教育環境が充実しているから」である。なお、これらの項目は日本全国の評価よりも低い傾向にある。

仕事と子育ての両立、教育環境の充実に関しては、先進国の事例などを参考にしながらこれらの施策を充実させていく必要がある。

松本市が全国と比較して高い項目

地域の治安がいいから

公園など、子どもを安心して育てられる環境が整備されているから

松本市がスウェーデンと比較して50ポイント以上低い項目

保育・教育

各種の保育サービスが充実しているから

教育環境が充実しているから

仕事・雇用

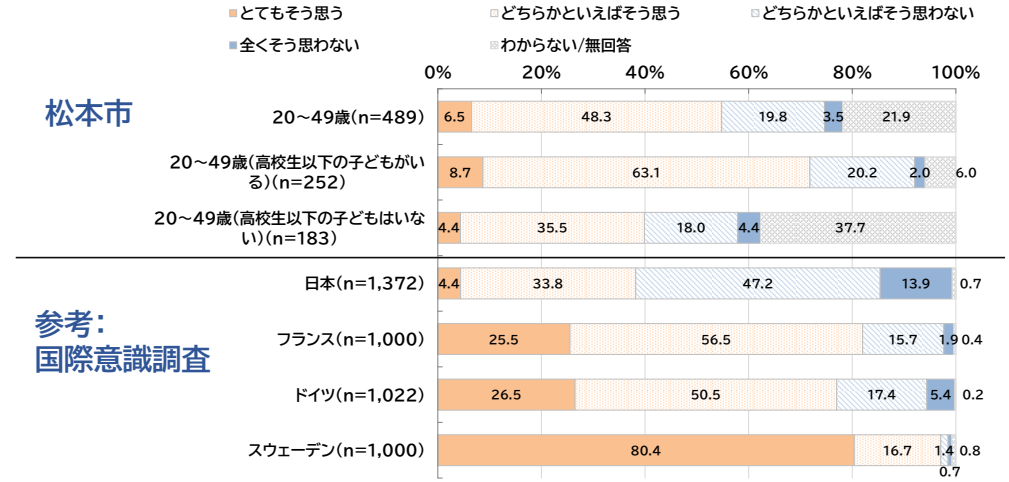
雇用が安定しているから

フレックスやパートタイムなど、柔軟な働き方ができるから

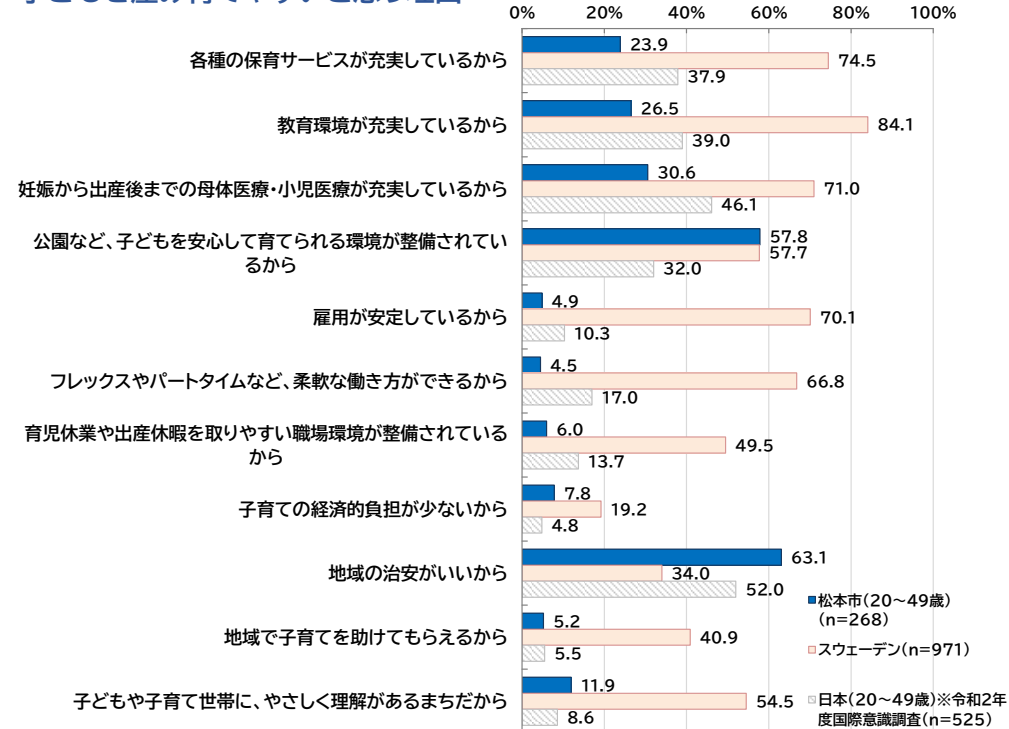
子どもを産み育てやすい地域であると思うか

※国際意識調査は、子どもを産み育てやすい国であると思うか

※松本市の設問は、「わからない」という選択肢を設けているため、単純に比較はできない。



子どもを産み育てやすいと思う理由



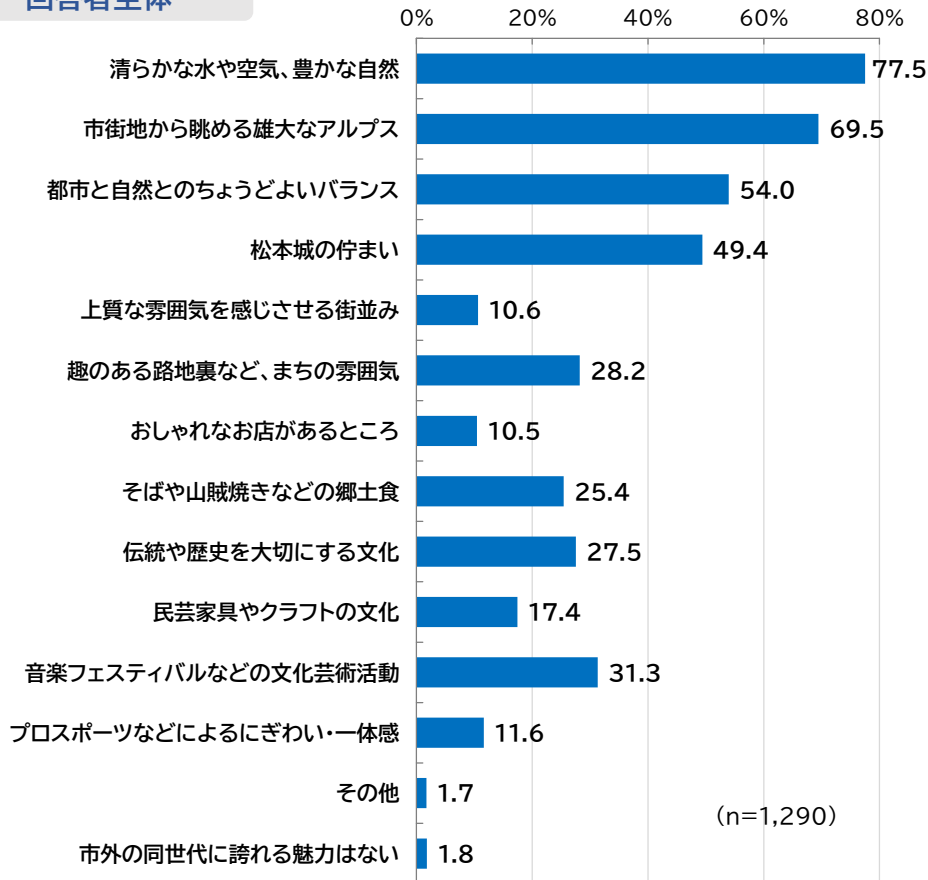
1)松本市外の同世代の人に誇れる、松本市の魅力

【複数回答】

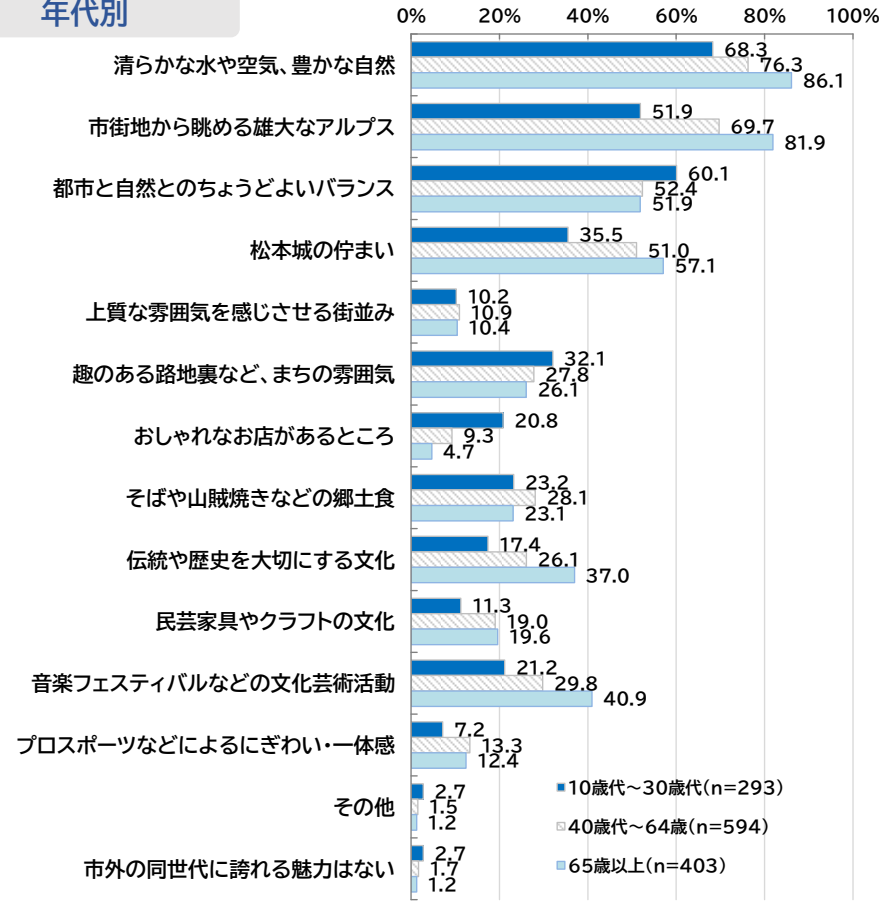
市外の同世代の人に誇れる松本市の魅力は、「清らかな水や空気、豊かな自然」や「雄大なアルプス」が上位

- 松本市外の同世代の人に誇れる、松本市の魅力は「清らかな水や空気、豊かな自然」が77.5%、「市街地から眺める雄大なアルプス」が69.5%と他の項目よりも特に高くなっている。
- 年代ごとにみると、「清らかな水や空気、豊かな自然」「市街地から眺める雄大なアルプス」などの自然に関する魅力や「松本城の佇まい」など歴史・文化に関する魅力は、年代が高くなるにつれ、割合が高い傾向がみられる。一方で、「都市と自然のちょうどよいバランス」「趣のある路地裏など、まちの雰囲気」「おしゃれなお店があるところ」は年代が低いほど、高くなる傾向がみられる。

回答者全体



年代別



2)松本市外の同世代の人に誇れる、松本市の魅力

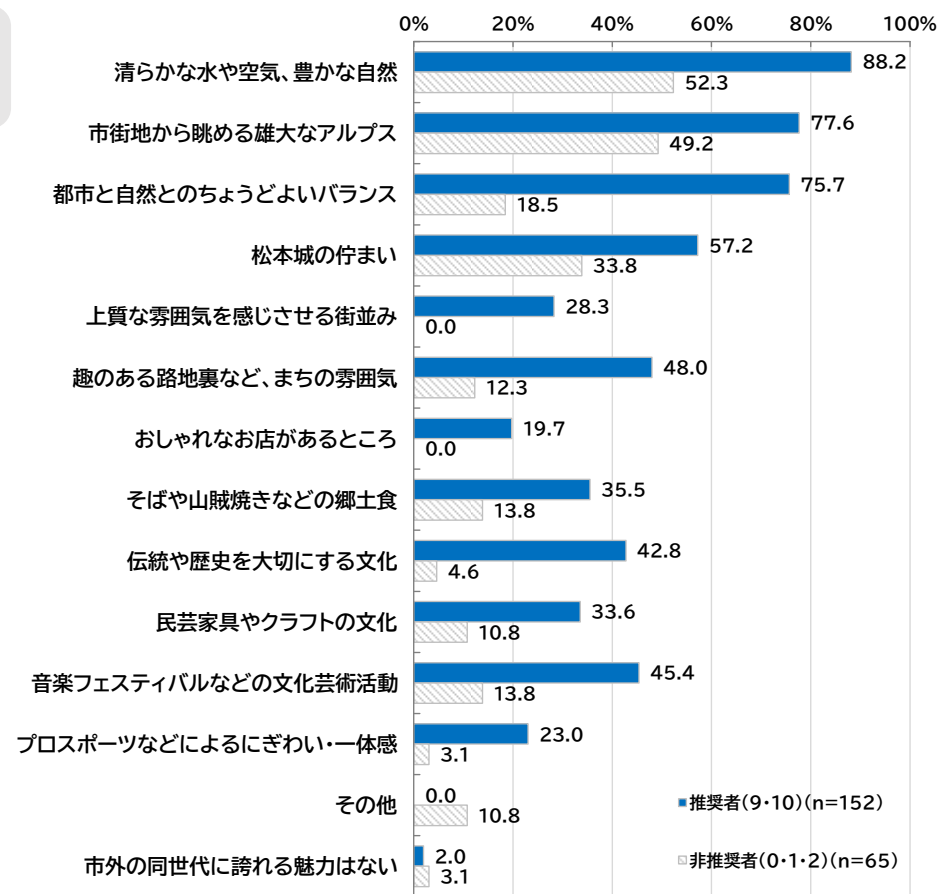
[複数回答]

推奨度が高い層で、清らかな水や空気、豊かな自然や雄大なアルプスに加えて、都市と自然とのちょうどよいバランスを魅力として捉えている。

- 推奨者（推奨度9・10）と非推奨者（推奨度0・1・2）の比較で市外の同世代の人に誇れる松本市の魅力を見ると、すべての選択肢で推奨者（推奨度9・10）の方が回答割合が高く、松本市の様々な要素に魅力を感じていることがわかる。推奨者が魅力を感じていることは「清らかな水や空気、豊かな自然」「市街地から眺める雄大なアルプス」「都市と自然とのちょうどよいバランス」の順で高く、全体の傾向と同様であった。
- 推奨者と非推奨者で差分が大きいのは「都市と自然とのちょうどよいバランス」であり、50ポイント以上の差があった。次いで、「伝統や歴史を大切にする文化」「清らかな水や空気、豊かな自然」「趣のある路地裏など、まちの雰囲気」であり、30ポイントの差がある。

得点比較 （「推奨度9・10」/「推奨度0・1・2」別）

※推奨度とは松本で暮らすことを友人・知人にすすめたいかという問に、0～10の11段階の評価で聞いた結果である。



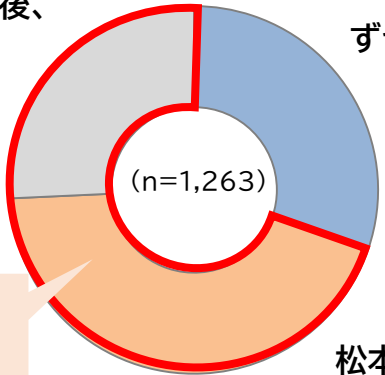
3) 転入経験の有無や主なきっかけ

転入経験がある者は約7割。「結婚」や就職・転勤など「仕事」関係が主たるきっかけ

- 転入経験の有無は、「ずっと松本市に住んでいる」が30.2%、「松本市外の出身で、転入した経験がある」が44.1%、「松本市出身であるが、転入した経験がある（進学等で転出後、戻ってきた）」が25.7%となっている。
- 転入した経験がある回答者の、転入時の主なきっかけは、「結婚」が22.7%、「転勤」が19.5%、「就職」が18.7%であり特に高くなっている。
- 性別にみると、男性では就職・転勤など仕事関係が女性よりも多く、女性は「結婚」が男性に比べて特に高くなっている。

転入経験の有無

松本市出身であるが、転入した経験がある（進学等で転出後、戻ってきた）
25.7

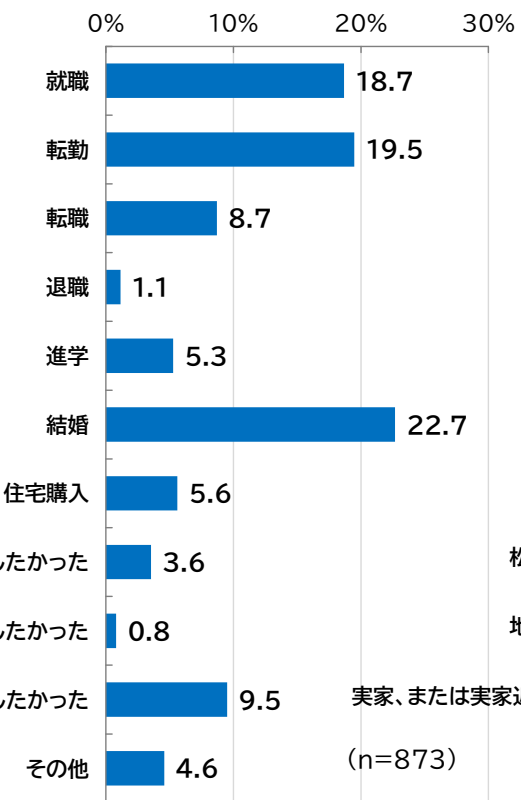


ずっと松本市に住んでいる
30.2

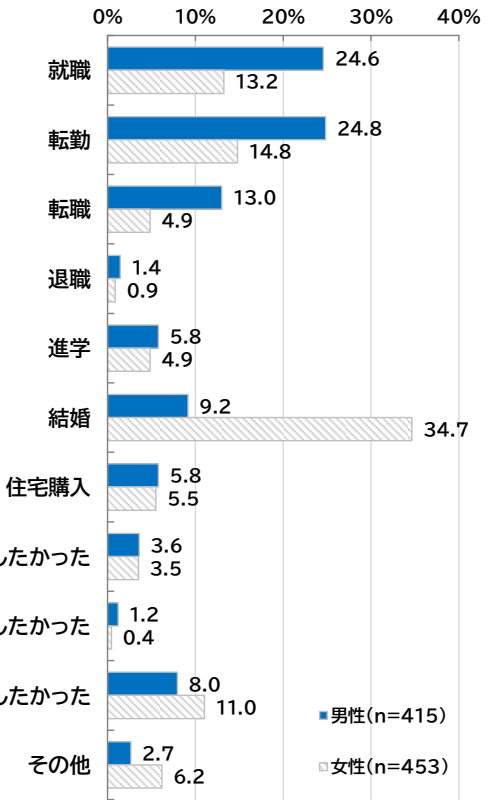
松本市外の出身で、転入してきた
44.1

「松本市外の出身で、転入してきた」、「松本市出身であるが、転入した経験がある」と回答した者のみ
転入時の主なきっかけ

回答者全体



性別



「松本市外の出身で、転入してきた」、「松本市出身であるが、転入した経験がある」と回答した者のみ

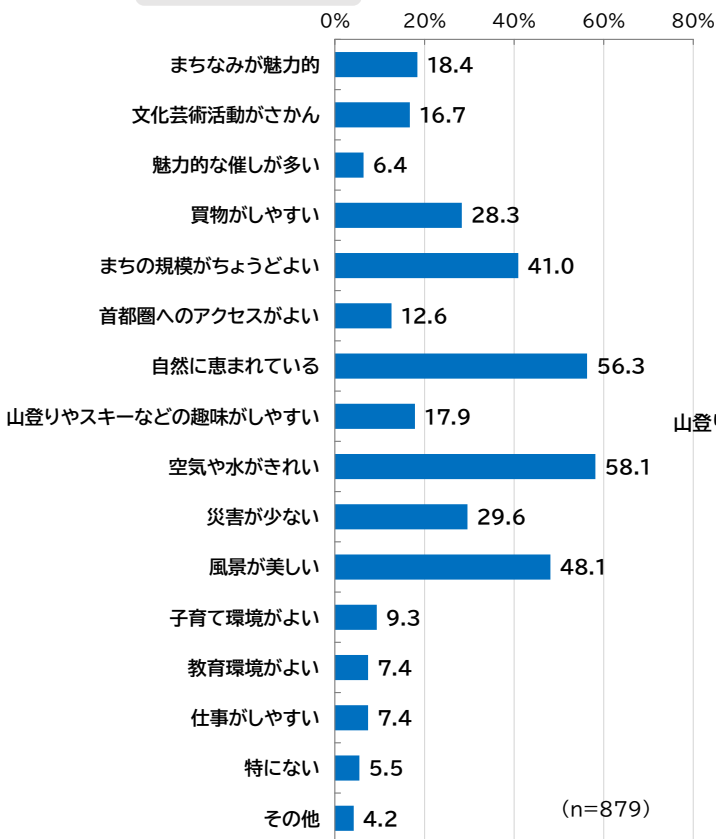
4) 転入時に感じた松本市の印象や魅力

[複数回答]

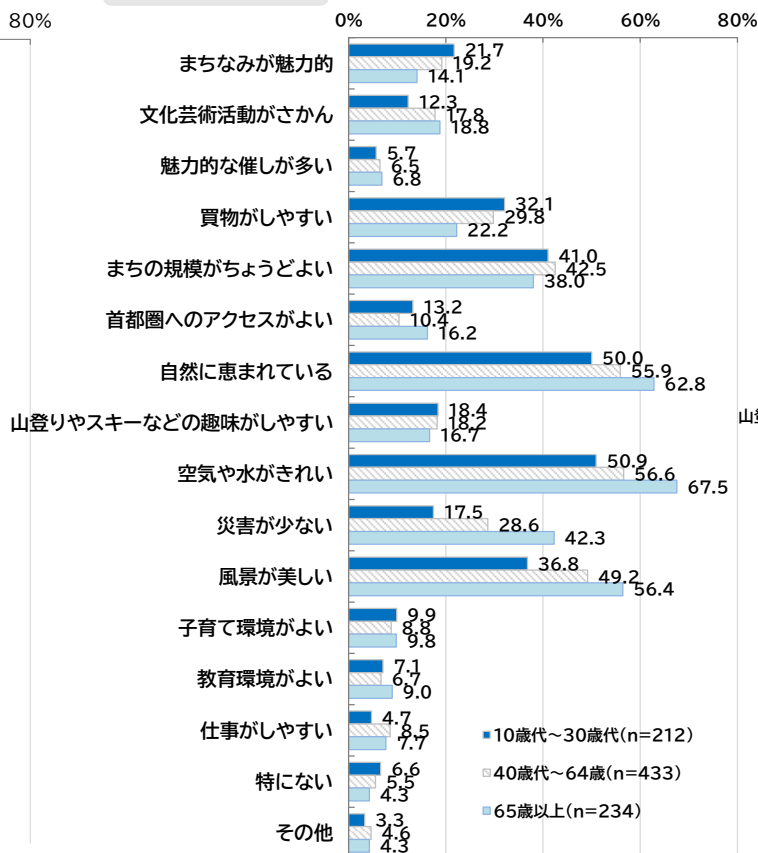
転入時に感じた松本市の印象や魅力は、空気や水などの自然環境の良さが上位

- 転入した経験がある回答者の、転入時に感じた松本市の印象や魅力は、「空気や水がきれい」が58.1%、「自然に恵まれている」が56.3%、「風景が美しい」が48.1%、「まちの規模がちょうどよい」が41.0%で他項目よりも高くなっている。
- 年代別にみると、「自然に恵まれている」「空気や水がきれい」「災害が少ない」「風景が美しい」は年代が上がるにつれ高くなっている。
- 性別にみると、「買い物がしやすい」で、女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

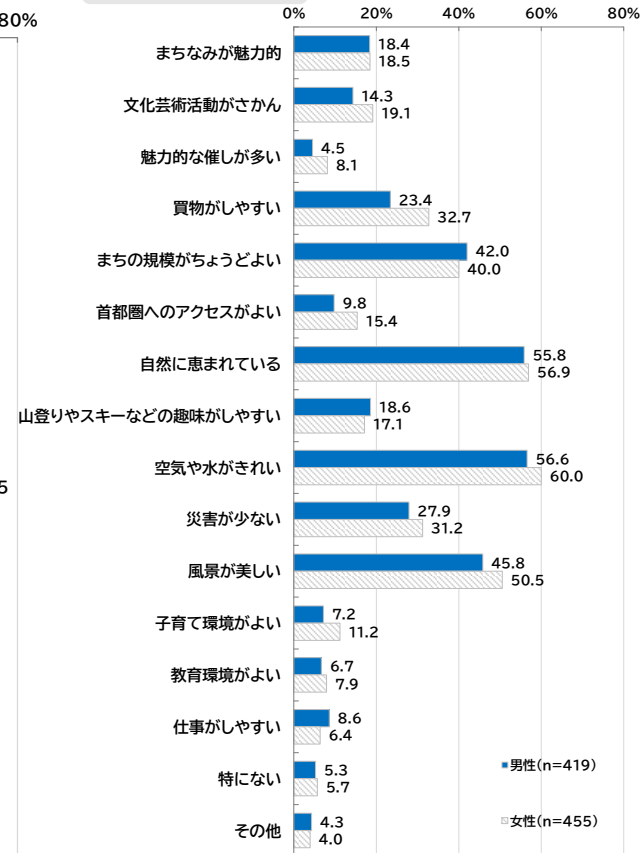
回答者全体



年代別



性別



5)移住促進に関する分析のまとめ

■自然環境やまちの規模・バランスが松本市の強み

松本市の推奨者においても、10歳代～30歳代の若い世代に絞った場合、同世代に誇りたい松本の魅力は、自然環境やまちの規模・バランスが上位にあがっていた。

これら松本市の強みを発信し、移住を促進していくことが求められる。

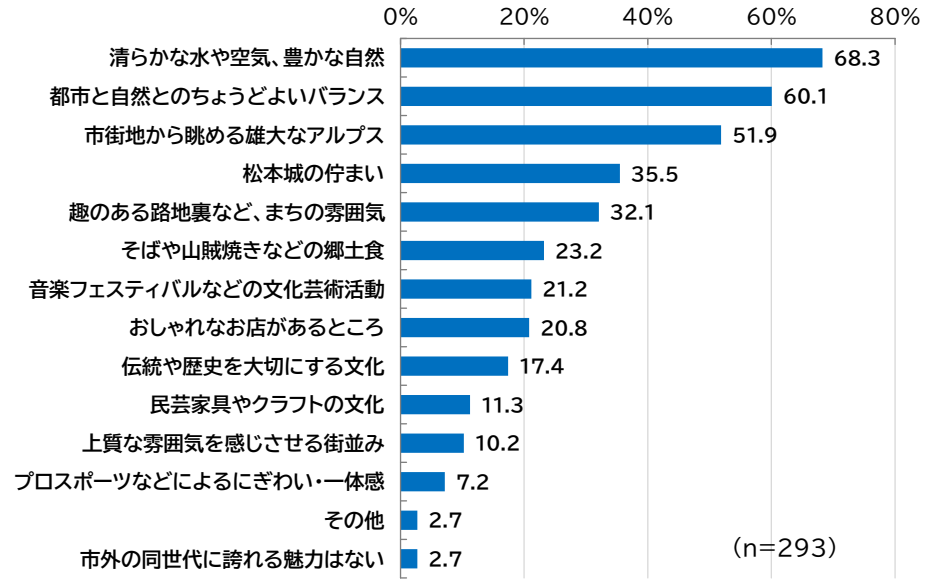
■転入時に、子育て・教育・仕事環境がよいという印象は弱い

転入のきっかけは「結婚」や就職・転勤など「仕事」といった、ライフステージの変化に伴う移住が多くなっており、「松本で暮らしたかった」という回答はわずかであった。性別で見ると、男性では就職・転勤など仕事関係が女性よりも多く、女性は「結婚」が男性に比べて特になくなっている。

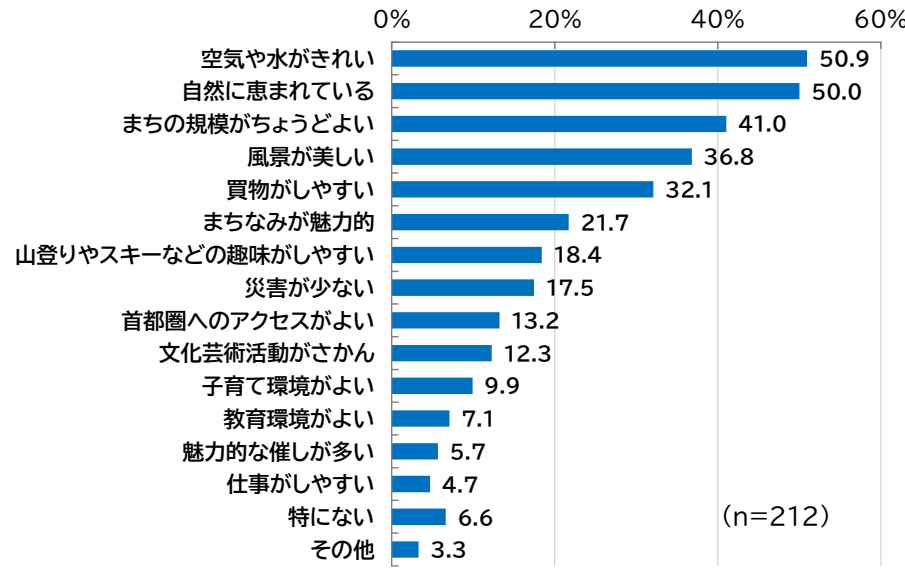
転入時に感じた松本市の印象や魅力として、松本市の魅力と同様、自然環境やまちの規模・バランスが上位となっていた。

子育てのしやすさ、教育環境のよさ、仕事のしやすさなどを選択する者は少なく、これらの施策の成果が移住を後押しするほど、外部に伝わっていない可能性がある。関連する取組みを強化し、松本市の強み・魅力を発信していくことも重要である。

若い世代(10歳代～30歳代)が同世代に誇りたい松本の魅力



転入経験のある若い世代(10歳代～30歳代)が転入時に感じた松本市の印象や魅力



第3章 資料編 属性ごとのクロス集計結果

1. 市民の日常生活や行動の属性クロス集計

以降のページは、16項目の行動や活動について、年代や性別等でクロス集計を行った結果を示す。

【分析結果の活用の仕方】

■主要ターゲットの導出

全体と比較して、取り組んでいる割合が低い層の「年代」「性別」を確認することで、行動喚起等を行う主要なターゲット層の導出に活用できる。

■取り組んでいる割合が100%を目指す施策

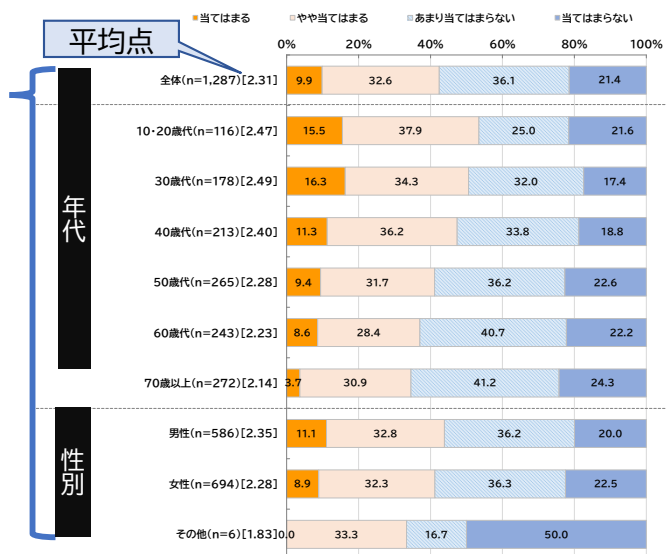
他者や多様性、子どもの権利の尊重など生活をしていく上で遵守しなければならない「行動」については、100%を目指す必要がある。

このような行動に、取り組んでいる割合が低い層に対し、**重点的に意識啓発をしていく必要がある。**

※取り組んでいる割合は「当てはまる」「やや当てはまる」の割合を合わせたもの

【グラフの見方】

取り組んでいる割合が低い層の確認をしてください。



■市民の日常生活や行動の状況の16項目

<1>健康づくりに継続的に取り組んでいる

<2>違いを認め合い、個性を大切にしている

<3>子どもの権利について理解し、尊重している

<4>様々なことに関心を持ち、学んでいる

<5>生涯学習や文化活動に取り組んでいる

<6>地域の人と積極的に関わりを持っている

<7>地域で行われている活動やボランティア活動に参加している

<8>地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる

<9>音楽や芸術に触れ、親しんでいる

<10>継続的にスポーツに親しんでいる

<11>災害に対する備えをしている

<12>資源化や分別でごみの減量を行っている

<13>自然や環境に配慮した暮らしをしている

<14>地元産の農畜産物を積極的に購入している

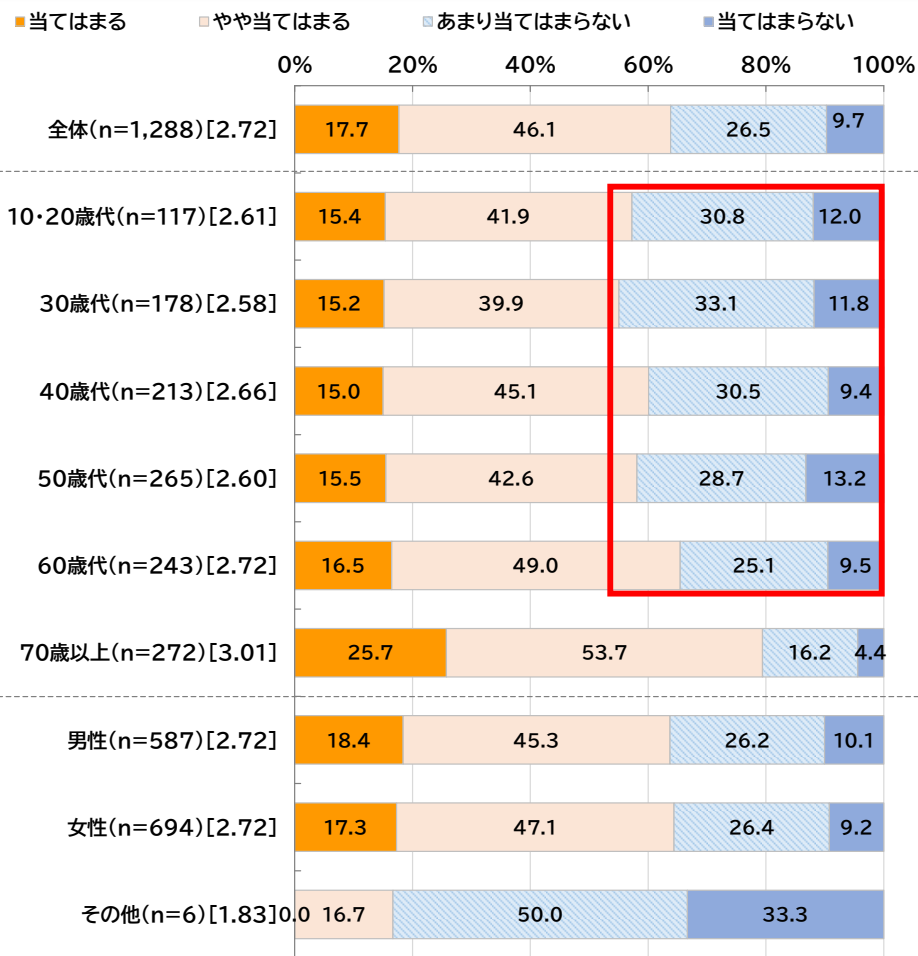
<15> 地元の商店でできるだけ買物をしている

<16>様々なことにチャレンジしている

この2項目は生活をしていく上で遵守していくべき重要な項目。100%を目指す必要がある。

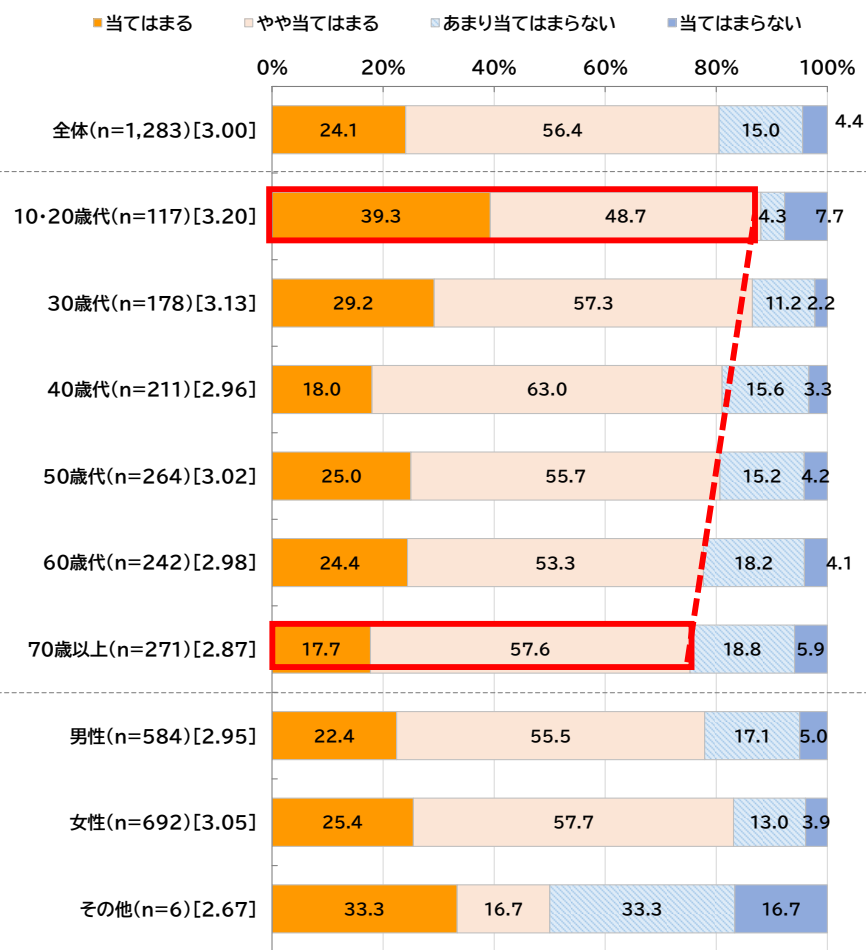
<1>健康づくりに継続的に取り組んでいる

- 年代別に取り組んでいる割合をみると、70歳以上は79.4%と高いが、それより下の世代では、50~60%台と低くなっている。
- 早期から健康づくりに取り組むことが重要であり、70歳未満に健康づくりの取組みの促進を進めていくことも必要である。



<2>違いを認め合い、個性を大切にしている

- 年代別に取り組んでいる割合をみると、10・20歳代で最も高く88.0%であり、徐々に取り組んでいない人の割合が増え、70歳以上で取り組んでいる割合は75.3%と下がる。
- 他者や多様性の尊重は、生活をしていく上で遵守しなければならない行動であり、全体の約2割が取り組んでいないことを課題として捉え、意識啓発を強化していくことが必要である。

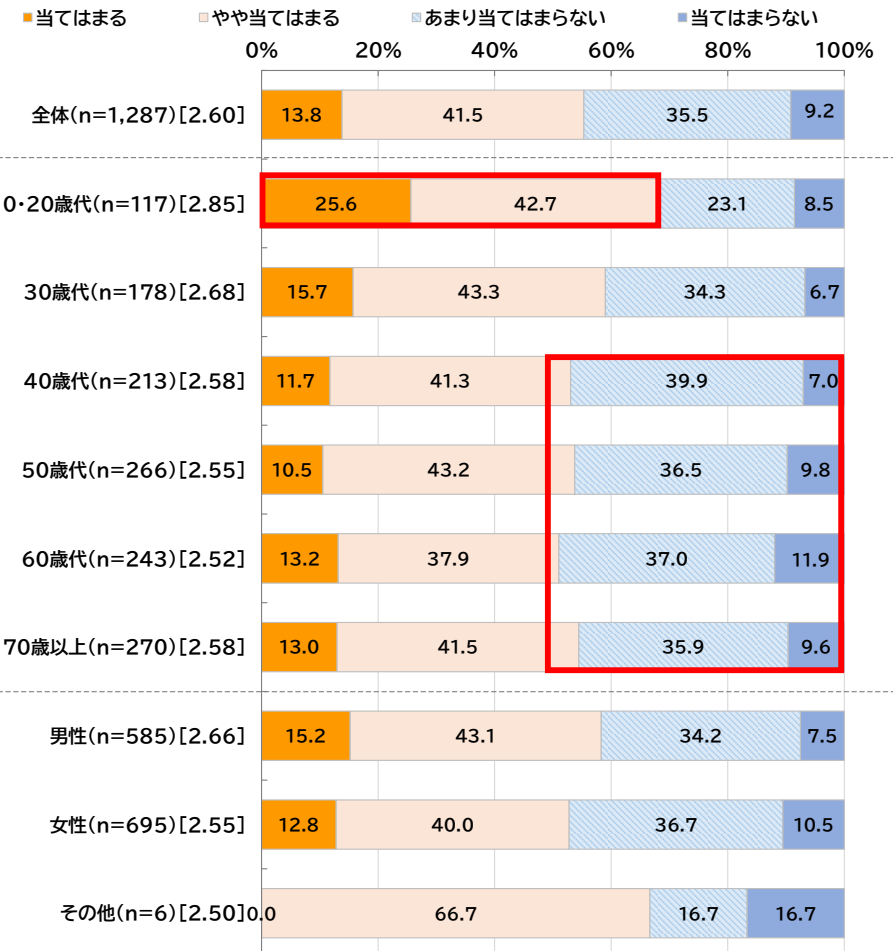
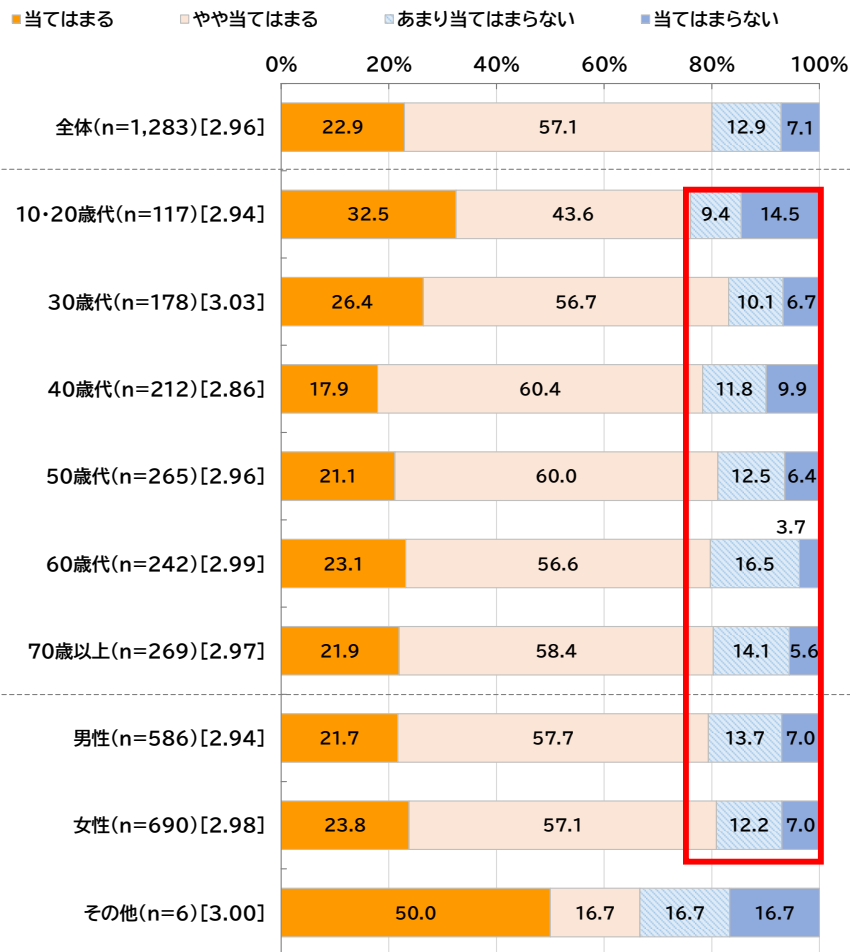


<3>子どもの権利について理解し、尊重している

- 子どもの権利の尊重は、他者や多様性の尊重と同様、生活をしていく上で遵守しなければならない行動であり、全体の約2割が取り組んでいないことを課題として捉え、意識啓発を強化していく必要がある。

<4>様々なことに関心を持ち、学んでいる

- 年代別に取り組んでいる割合をみると、10・20歳代は68.3%と高くなっているが、40歳代から下がり、5割程度となっている。どの世代も切れ目なく、学び続けることが重要であり、その機会の創出及び環境づくりを行い、市民の学びを促進していくことが必要である。

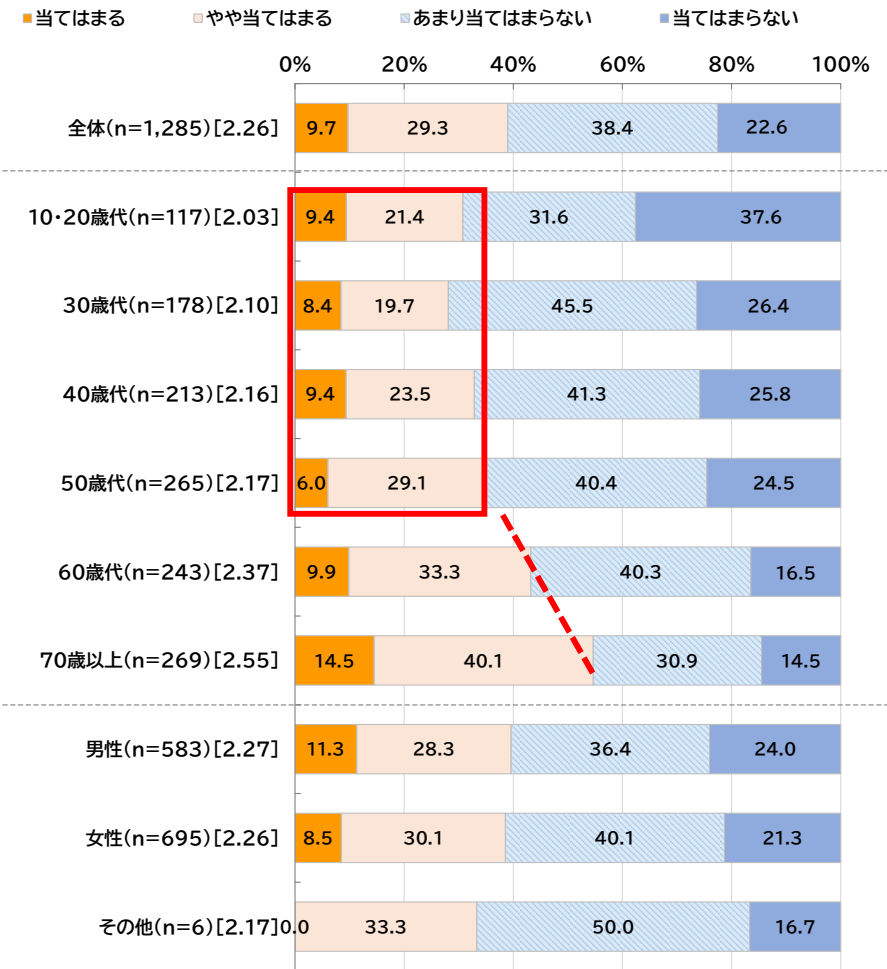
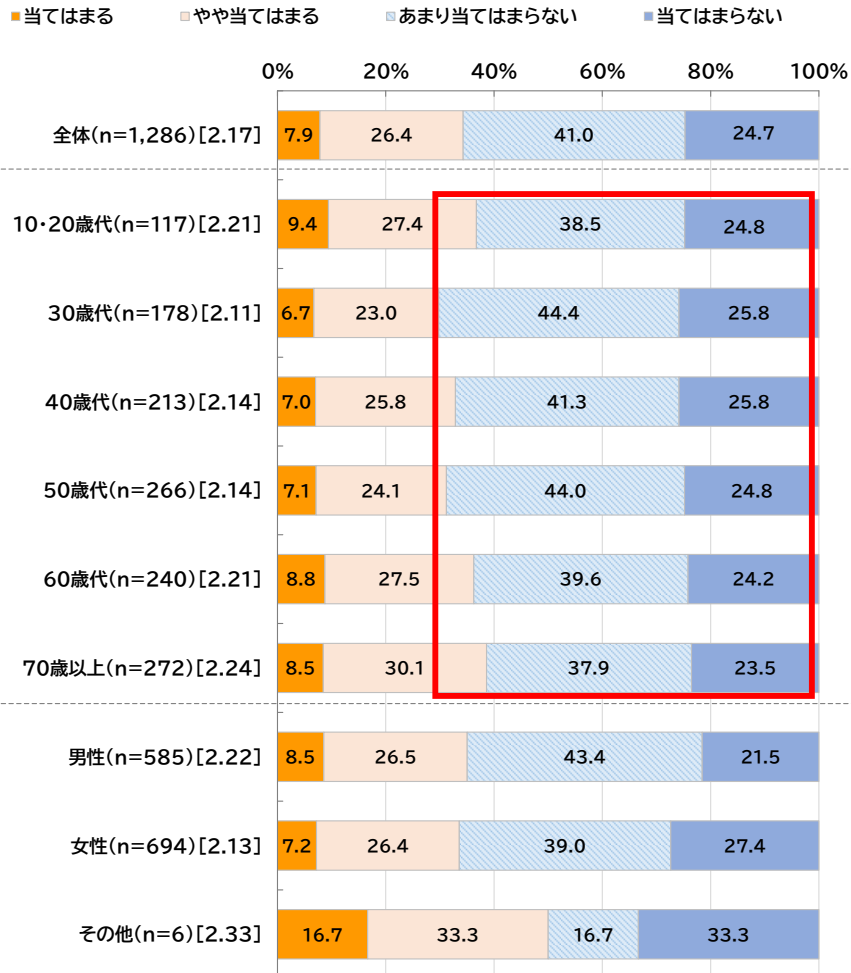


<5>生涯学習や文化活動に取り組んでいる

- どの年代においても、取り組んでいる割合は3割程度にとどまり、半数以上が取り組んでいない状況である。
- 松本市の重要な歴史・文化資産等を守り、継承していくためにも学びや活動する機会を充実させ、全世代にわたり、関わりやすい環境づくりを進めていく必要がある。

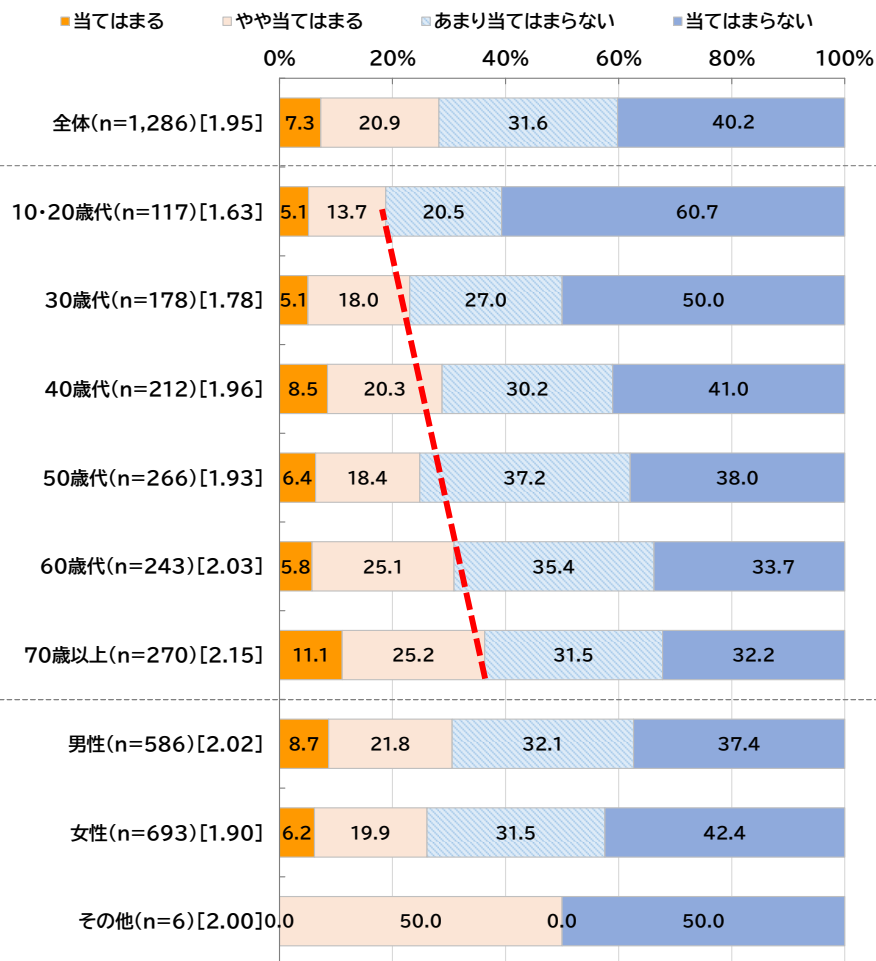
<6>地域の人と積極的に関わりを持っている

- 年代別に取り組んでいる割合をみると、10・20歳代から50歳代が2～3割台であるが、60歳代で43.2%、70歳以上で54.6%と上昇している。
- シニア層と比較し、60歳未満（特に若年層）では地域との関わりが希薄化している。地域とのつながりは定住意向とも関わりがみられ、特に若年層において地域に関わるきっかけづくりが求められる。



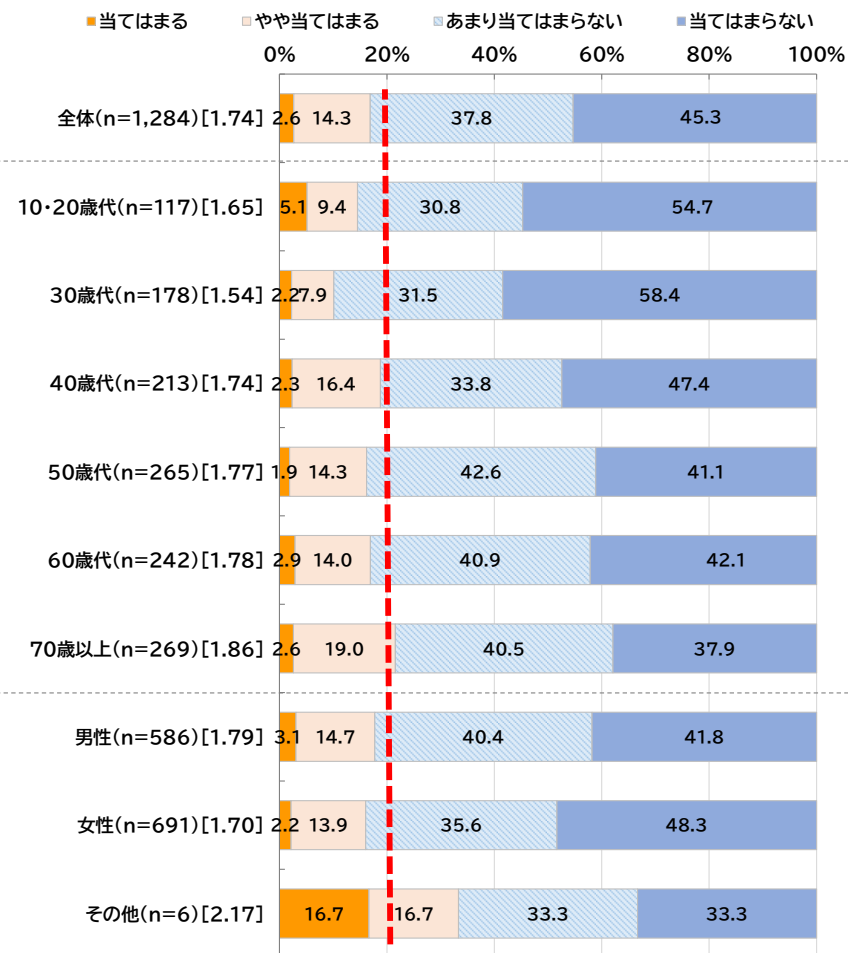
<7> 地域で行われている活動やボランティア活動に参加している

- 年代別に取り組んでいる割合をみると、10・20歳代から50歳代は1～2割であり、60歳以上で3割程度まで上昇している。
- どの層においても半数以上が取り組んでいない状況であり、働き掛けていく必要がある。地域とのつながりは定住意向とも関わりがみられ、特に若年層において地域に関わるきっかけづくりが求められる。



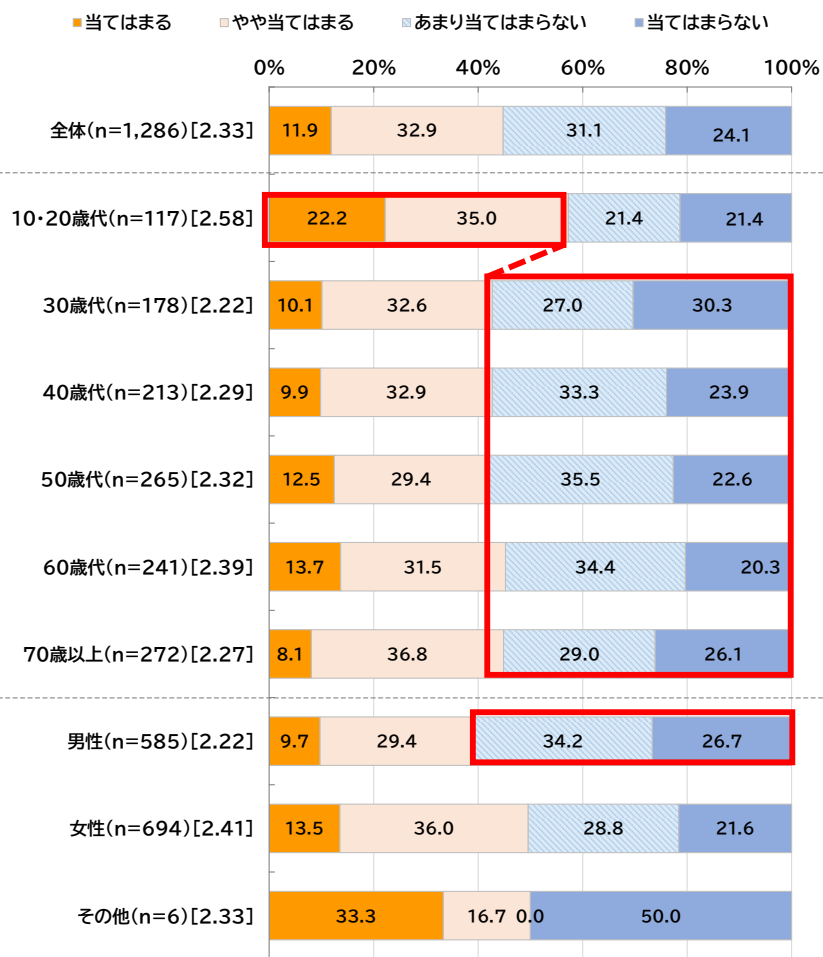
<8> 地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる

- 年代別に取り組んでいる割合をみると、10・20歳代から60歳代は1～2割であり、70歳以上で21.6%と上昇するが、8割以上が取り組んでいない状況である。
- 地域の伝統や文化の保全・継承は、一部の市民が行っている状況が伺えるため、すそ野を広げていく必要がある。



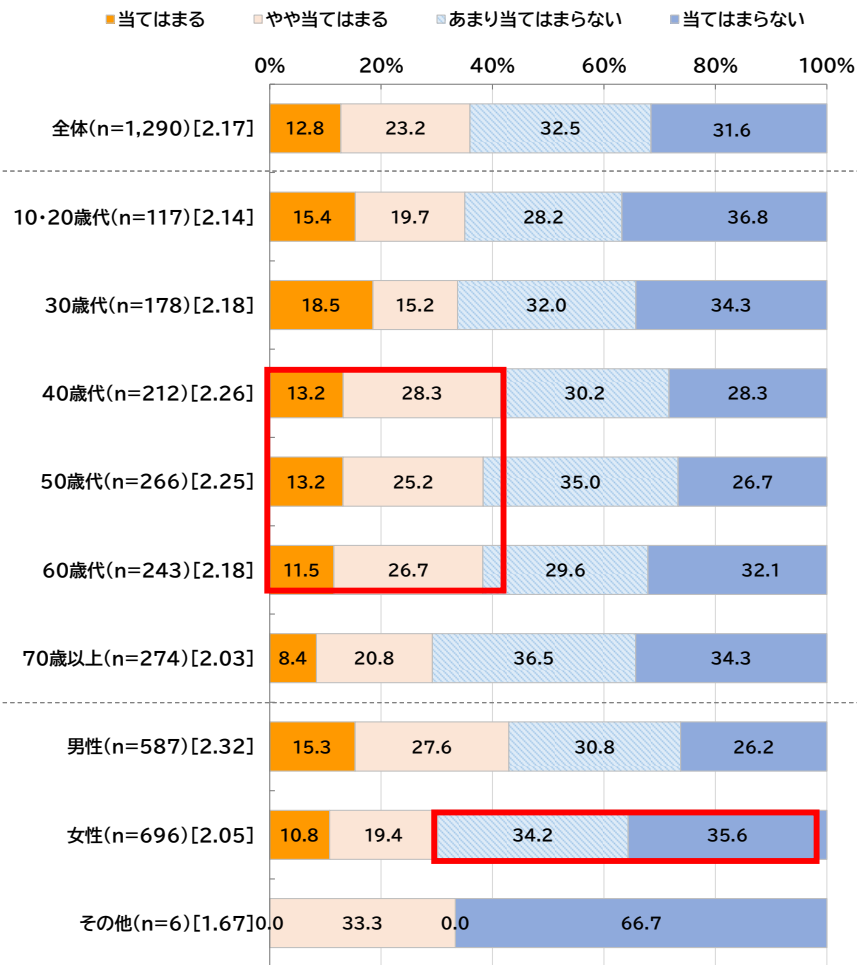
<9> 音楽や芸術に触れ、親しんでいる

- 年代別に取り組んでいる割合をみると、10・20歳代が57.2%と高く、30歳代から下がり、4割台となっている。
- 性別でみると、女性で49.5%、男性で39.1%と10ポイント以上の差がみられ、男性への働き掛けが重要である。



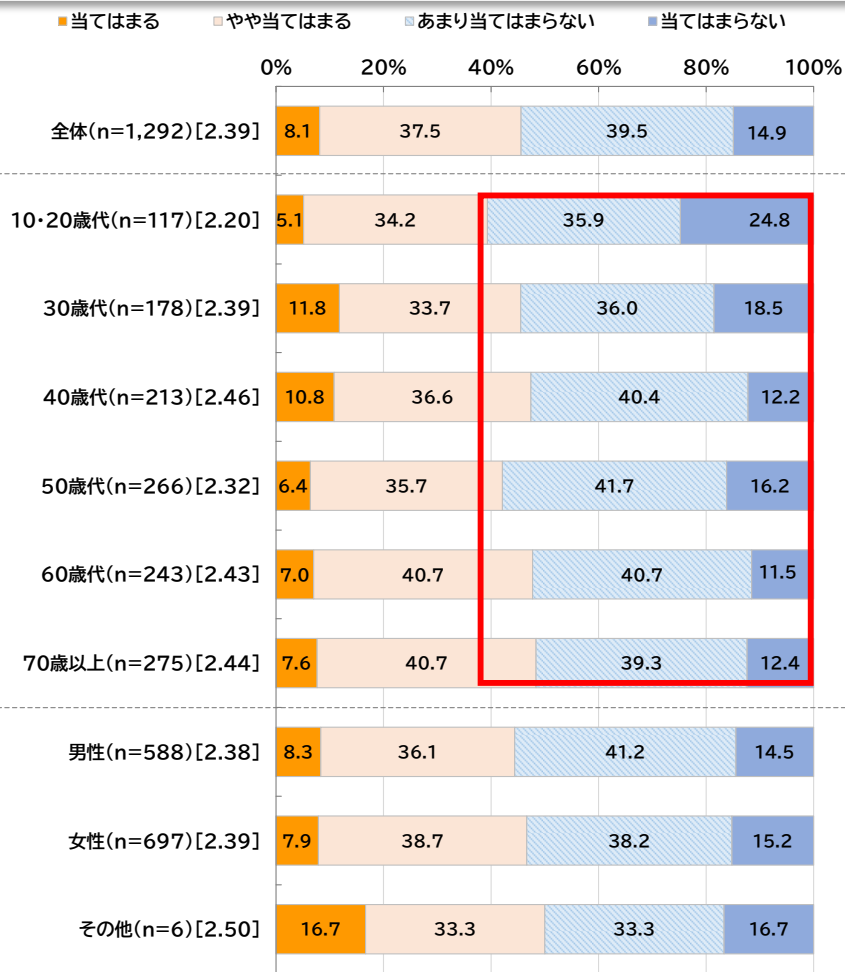
<10> 継続的にスポーツに親しんでいる

- 年代別に取り組んでいる割合をみると、40歳代から60歳代は4割前後と比較的取り組んでいる傾向にある。
- 性別でみると、男性で42.9%、女性で30.2%と10ポイント以上女性の方が低く、スポーツへの参加促進が必要である。



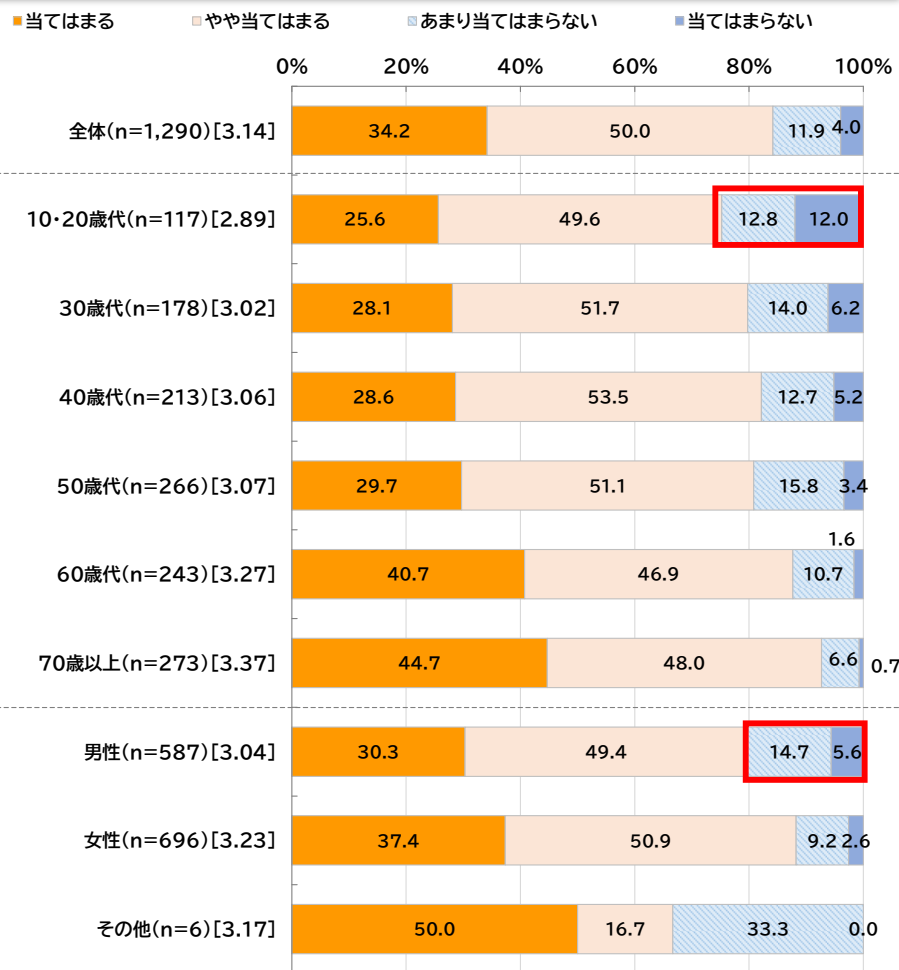
<11> 災害に対する備えをしている

- どの年代においても、取り組んでいる人の割合は5割以下と半数を下回っている。特に10・20歳代が39.3%と低く、働き掛けが必要である。
- 災害は必ず発生するものと捉え、備えをする必要性を啓発していくことが求められる。



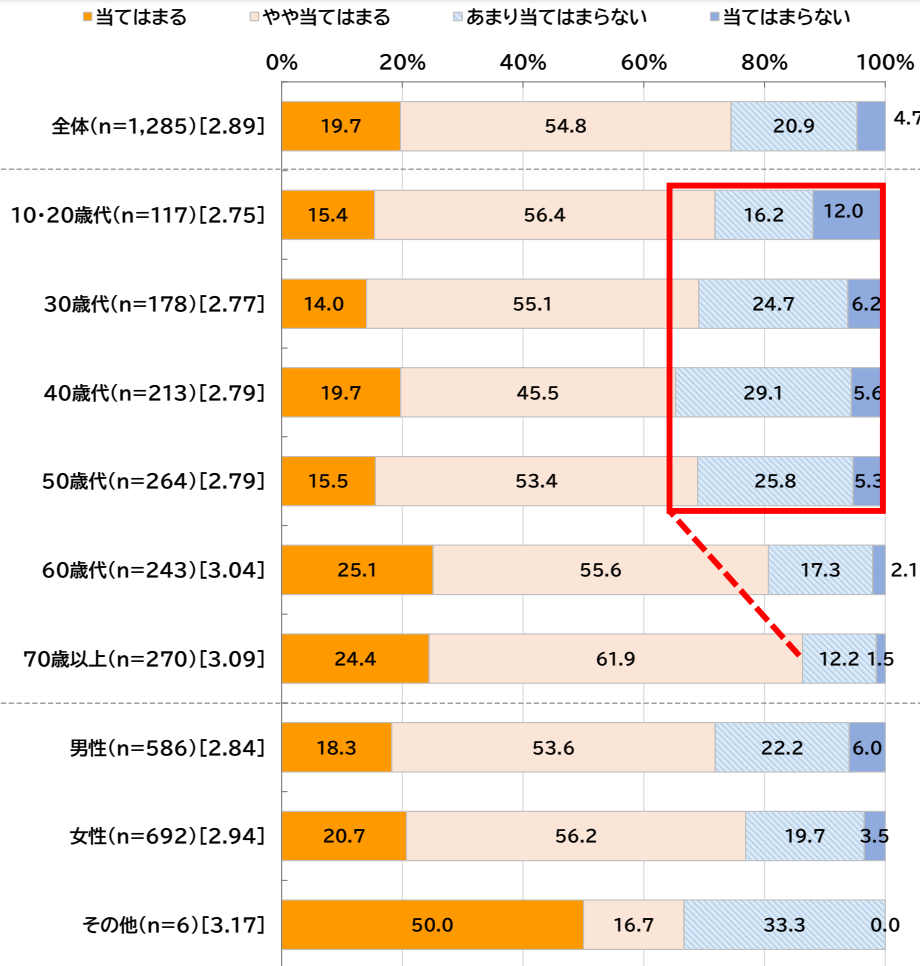
<12> 資源化や分別でごみの減量を行っている

- すべての年代で、7割以上が取り組んでおり、多くの市民が比較的取り組んでいる。しかし、年代別にみると10・20歳代は75.2%、60歳代以上は9割前後と2割程度の差がみられる。性別で見ると、男性で79.7%、女性で88.3%と約10ポイント、女性の方が高い。
- ごみの減量が習慣として徹底されるよう、特に若い世代や男性の行動を促進していくことが必要である。



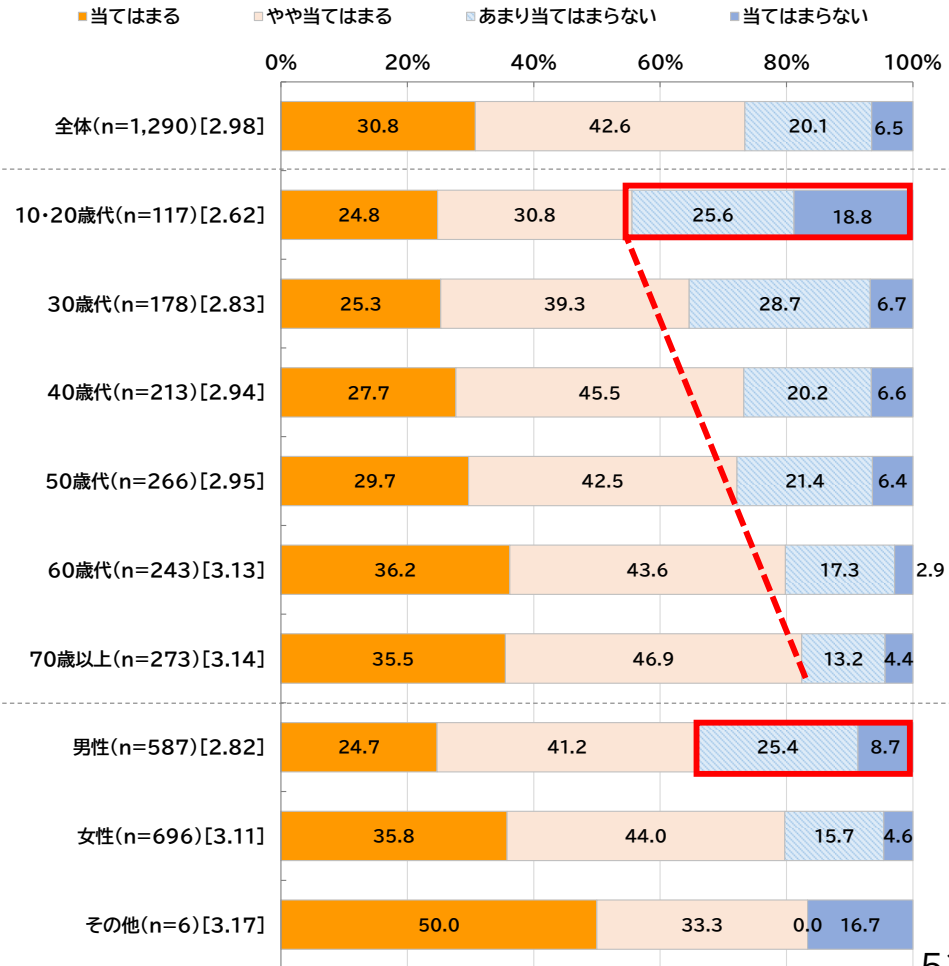
<13> 自然や環境に配慮した暮らしをしている

- 年代別に取り組んでいる割合をみると、10・20歳代から50歳代は6～7割台であるが、60歳代のシニア層から8割に上昇する。
- 若い世代から自然や環境に配慮した暮らしが定着するよう、環境問題等の現状・課題、取組みの必要性を周知し、行動を促進していくことが必要である。



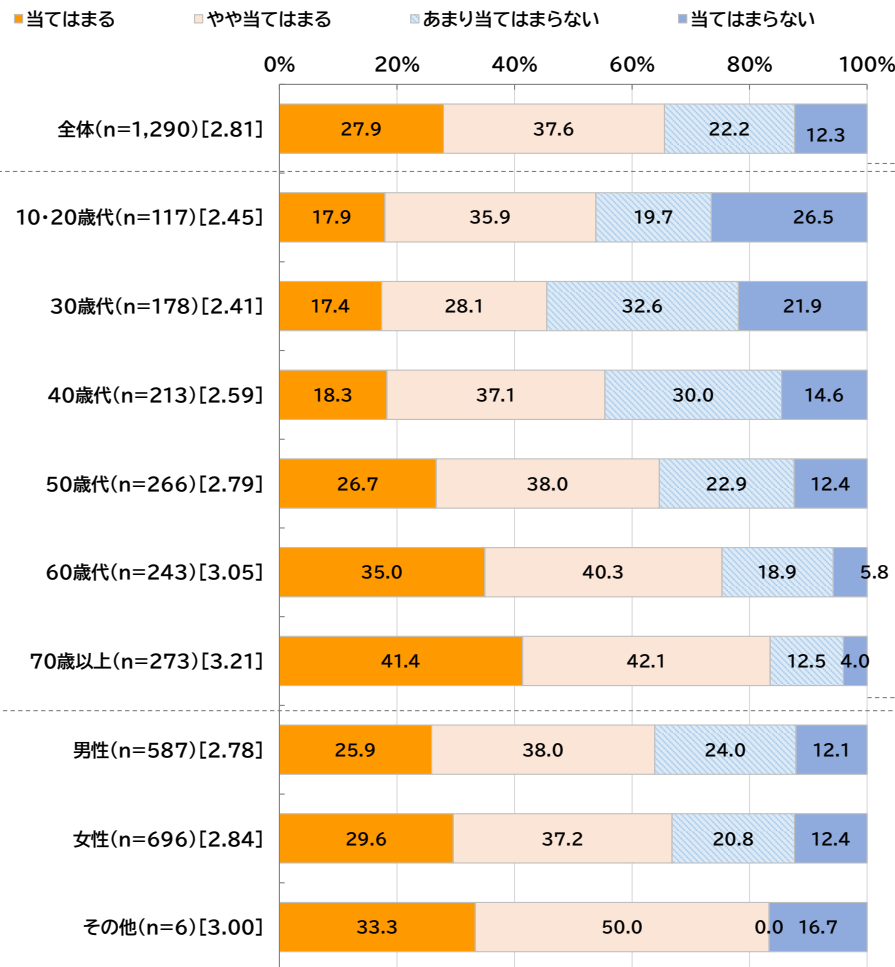
<14> 地元産の農畜産物を積極的に購入している

- 年代別に取り組んでいる割合をみると、10・20歳代が55.6%と最も低く、年齢が上がるにつれて上昇する傾向にある。
- 性別でみると、取り組んでいる割合は男性で65.9%、女性で79.8%と女性の方が10ポイント以上高い。
- 若い世代、男性に地元産農畜産物の良さを伝え、消費行動を喚起していくことが必要である。



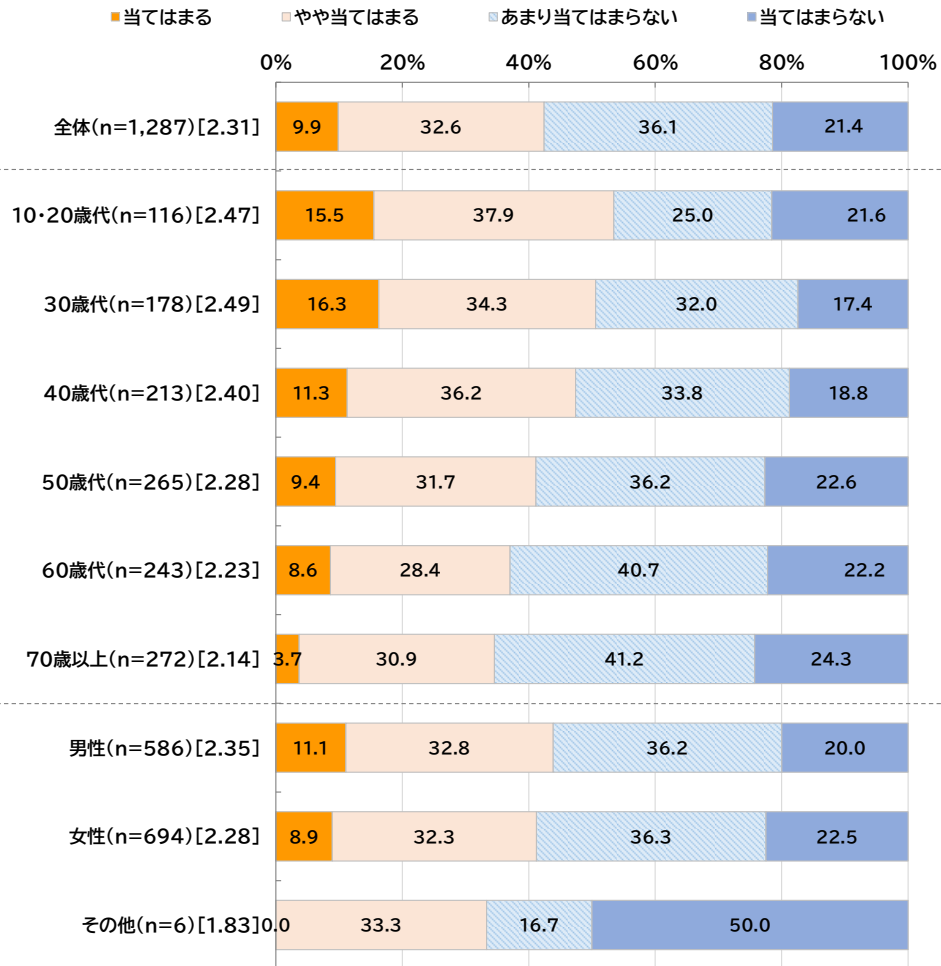
<15> 地元の商店でできるだけ買物をしている

- 取り組んでいる割合をみると、30歳代が45.5%と最も高く、40歳代以降は年齢が上がるにつれて上昇する傾向にある。地元産の農畜産物の購入と同様の傾向にある。
- 地元とのつながりは定住意向とも関わりが見られ、特に若い世代に対し地元商店の良さなど地域の魅力を伝えていくことが求められる。



<16> 様々なことにチャレンジしている

- 取り組んでいる割合をみると、10・20歳代が53.4%と最も高く、年齢が上がるにつれて下がり、60歳代からは3割台と低くなっている。
- 若い世代のチャレンジを更に後押しするとともに、シニア層においてもチャレンジを後押ししていく必要がある。



2. 7分野・47施策の現状評価の属性クロス集計

【集計結果の示し方】

①分野の施策評価一覧

当該分野に該当する項目の回答者全体の度数分布と平均点を示す。

②施策ごとの属性クロス集計の結果の掲載

施策ごとに年齢、性別、同居者等について、度数分布と平均点を示す。

【分析結果の活用の仕方】

①平均点の確認

得点は「わからない」の回答者を除き、「そう思う」4点、「ややそう思う」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点として集計を行った結果である。2.5点が中央値であり、どの層の評価が低いのか、確認を行うことができる。なお、2.5点より高い施策は評価者の半数以上が肯定的評価をしている。

平均点の比較においては、まず、「全体」と比較した上で、得点が低い層を特定する。その層において施策が有効に機能していない可能性がある。

次いで属性内（年代や性別）で比較を行い、得点が高い層と低い層において顕著な差がみられる場合（例えば70歳以上と30歳代で大きな差がみられる等）は、その差を解消していくことが求められる。

②「わからない」とする回答の割合（回答保留の割合）の確認

わからないとする割合が高いということは、回答者が各施策が評価ができるほど浸透していないことを意味している。

■子育て、高齢者施策など受益者が限定される施策

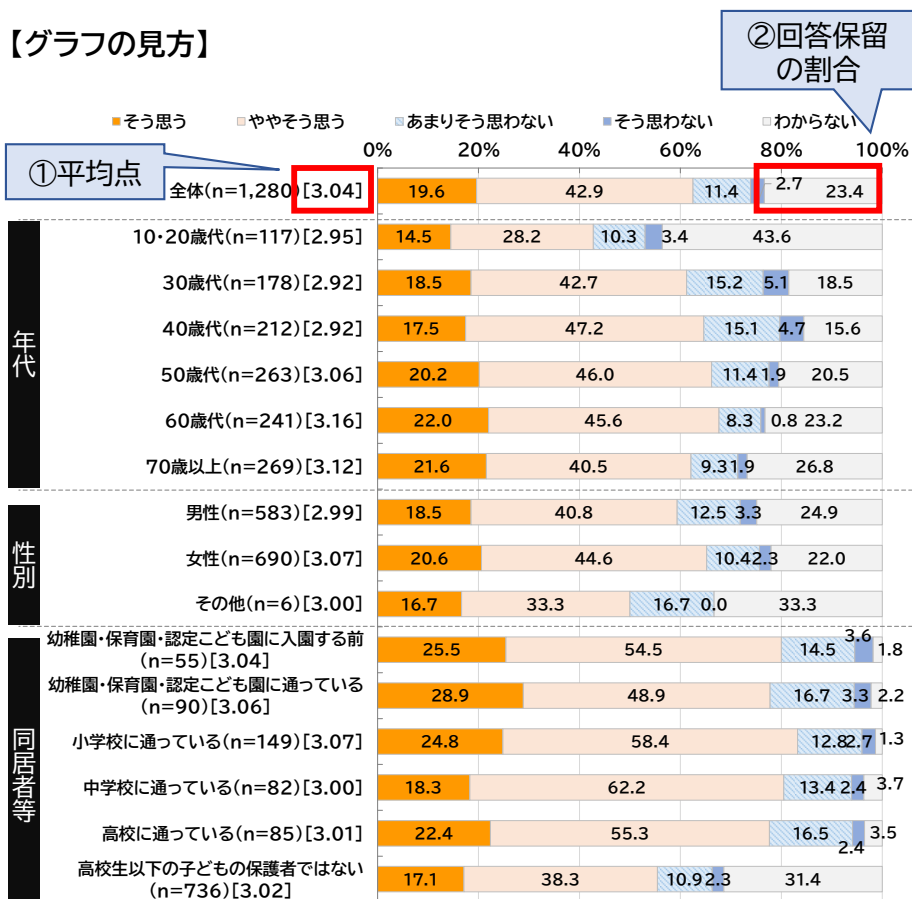
受益者の回答保留の割合が高い場合は受益者に情報が届いていない可能性があり、施策に関する情報発信に改善が必要と言える。

※中心的な受益対象者には緑色の線 を示している。

■受益者が限定されない施策

わからないとする回答割合が高い場合、市民に施策の意味や必要性が理解されていない可能性がある。また、市民の関心が低い施策とも考えられる。施策の必要性などを再検討し、その必要性を適切に市民に伝えていく努力が必要といえる。特定の層において回答保留の割合が高い場合は、その層に重点的に情報を届けていく必要がある。

【グラフの見方】



【7分野・47施策と調査項目一覧】

7分野の項目一覧の結果を示した後、各施策について、年代や性別、受益対象者等でクロス集計を行った結果を示す。

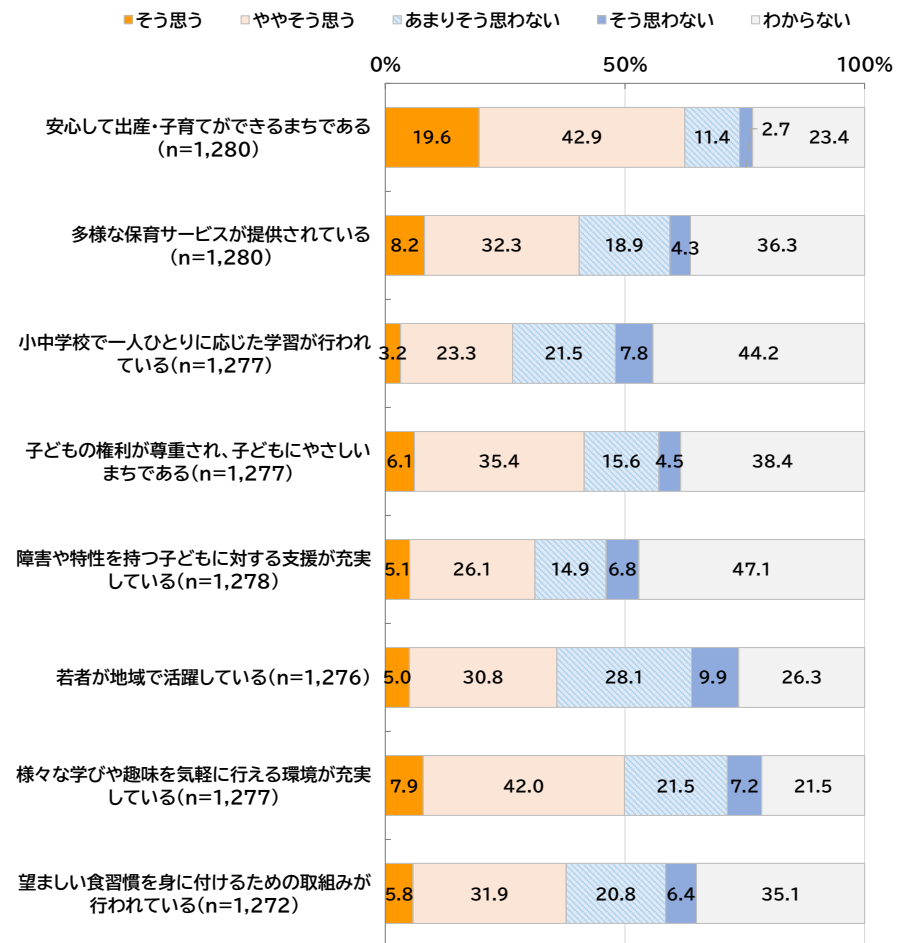
	こども・若者・教育	健康・医療・福祉	住民自治・共生	環境・エネルギー	都市基盤・危機管理	経済・産業	文化・観光
施策体系	1-1 結婚・出産・子育て支援の充実	2-1 切れ目ない健康づくりの推進	3-1 住民自治支援の強化	4-1 再生可能エネルギーの導入促進	5-1 松本城を核としたまちづくり	6-1 新商都松本の創造	7-1 豊かさや育む文化芸術の推進
	1-2 質の高い保育・幼児教育の実現	2-2 保健衛生・生活衛生の充実	3-2 地域福祉活動の推進	4-2 3R徹底による環境負荷軽減	5-2 地域交通ネットワークの拡充	6-2 ものづくり産業の活性化	7-2 歴史・文化遺産の継承
アンケートにおける設問	1-3 個性と多様性を尊重する学校教育	2-3 地域医療・救急医療の充実	3-3 地域防災・防犯の推進	4-3 自然・生活環境の保全	5-3 自転車活用先進都市の実現	6-3 雇用対策と働き方改革の推進	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実
	1-4 子どもにやさしいまちづくり	2-4 個々に寄り添う障害者福祉の充実	3-4 働き盛り世代の移住・定住推進	4-4 森林の保全・再生・活用	5-4 広域交通網の整備推進	6-4 持続可能な農業経営基盤の確立	7-4 変化する時代の観光戦略
	1-5 未来につながる子ども福祉の充実	2-5 暮らしを守る生活支援の充実	3-5 多様な人権・平和の尊重	5-5 緑を活かした魅力あるまちづくり	5-5 バランスの取れた土地利用	6-5 異業種連携による食産業の振興	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	1-6 若者が活躍できる環境づくり	2-6 生きたがいある高齢者福祉の充実	3-6 ジェンダー平等社会の実現	5-6 交通需要に即した道路整備	5-6 上下水道の基盤強化	6-5 雇用対策と働き方改革の推進	7-5 変化する時代の観光戦略
	1-7 ニーズに応じた生涯学習の実現	3-7 国際化・多文化共生の推進	4-1 再生可能エネルギーの導入促進	5-7 自転車活用先進都市の実現	5-7 緑を活かした魅力あるまちづくり	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	1-8 全ての世代にわたる食育の推進	4-1 3R徹底による環境負荷軽減	4-2 自然・生活環境の保全	5-8 地域交通ネットワークの拡充	5-8 上下水道の基盤強化	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	2-1 切れ目ない健康づくりの推進	4-2 3R徹底による環境負荷軽減	4-3 自然・生活環境の保全	5-9 広域交通網の整備推進	5-9 上下水道の基盤強化	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	2-2 保健衛生・生活衛生の充実	4-3 森林の保全・再生・活用	4-4 自然・生活環境の保全	5-10 交通需要に即した道路整備	5-10 上下水道の基盤強化	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	2-3 地域医療・救急医療の充実	4-4 再生可能エネルギーの導入促進	5-1 松本城を核としたまちづくり	5-11 自転車活用先進都市の実現	5-11 上下水道の基盤強化	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	2-4 個々に寄り添う障害者福祉の充実	5-1 松本城を核としたまちづくり	5-2 地域交通ネットワークの拡充	6-1 新商都松本の創造	6-1 新商都松本の創造	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	2-5 暮らしを守る生活支援の充実	5-3 自転車活用先進都市の実現	5-3 自転車活用先進都市の実現	6-2 ものづくり産業の活性化	6-2 ものづくり産業の活性化	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	2-6 生きたがいある高齢者福祉の充実	5-4 広域交通網の整備推進	5-4 広域交通網の整備推進	6-3 雇用対策と働き方改革の推進	6-3 雇用対策と働き方改革の推進	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	3-1 住民自治支援の強化	5-5 バランスの取れた土地利用	5-5 バランスの取れた土地利用	6-4 持続可能な農業経営基盤の確立	6-4 持続可能な農業経営基盤の確立	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	3-2 地域福祉活動の推進	5-6 交通需要に即した道路整備	5-6 交通需要に即した道路整備	6-5 異業種連携による食産業の振興	6-5 異業種連携による食産業の振興	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	3-3 地域防災・防犯の推進	5-7 自転車活用先進都市の実現	5-7 自転車活用先進都市の実現	6-5 雇用対策と働き方改革の推進	6-5 雇用対策と働き方改革の推進	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	3-4 働き盛り世代の移住・定住推進	5-8 地域交通ネットワークの拡充	5-8 地域交通ネットワークの拡充	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	3-5 多様な人権・平和の尊重	5-9 上下水道の基盤強化	5-9 上下水道の基盤強化	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	3-6 ジェンダー平等社会の実現	5-10 交通需要に即した道路整備	5-10 交通需要に即した道路整備	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	3-7 国際化・多文化共生の推進	5-11 自転車活用先進都市の実現	5-11 自転車活用先進都市の実現	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	4-1 再生可能エネルギーの導入促進	6-1 新商都松本の創造	6-1 新商都松本の創造	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	4-2 自然・生活環境の保全	6-2 ものづくり産業の活性化	6-2 ものづくり産業の活性化	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	4-3 森林の保全・再生・活用	6-3 雇用対策と働き方改革の推進	6-3 雇用対策と働き方改革の推進	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	4-4 自然・生活環境の保全	6-4 持続可能な農業経営基盤の確立	6-4 持続可能な農業経営基盤の確立	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-1 松本城を核としたまちづくり	6-5 異業種連携による食産業の振興	6-5 異業種連携による食産業の振興	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-2 地域交通ネットワークの拡充	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-3 自転車活用先進都市の実現	7-1 豊かさや育む文化芸術の推進	7-1 豊かさや育む文化芸術の推進	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-4 広域交通網の整備推進	7-2 歴史・文化遺産の継承	7-2 歴史・文化遺産の継承	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-5 バランスの取れた土地利用	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-6 交通需要に即した道路整備	7-4 変化する時代の観光戦略	7-4 変化する時代の観光戦略	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-7 緑を活かした魅力あるまちづくり	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-8 上下水道の基盤強化			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-9 危機管理体制の強化			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-10 防災・減災対策の推進			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	5-11 将来にわたる公共インフラの整備			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	6-1 新商都松本の創造			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	6-2 ものづくり産業の活性化			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	6-3 雇用対策と働き方改革の推進			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	6-4 持続可能な農業経営基盤の確立			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	6-5 異業種連携による食産業の振興			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	6-6 地域特性を活かした新産業の創出			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	7-1 豊かさや育む文化芸術の推進			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	7-2 歴史・文化遺産の継承			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	7-4 変化する時代の観光戦略			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現			6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現
				6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	6-6 地域特性を活かした新産業の創出	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現

2. 7分野・47施策評価 ～クロス集計の結果

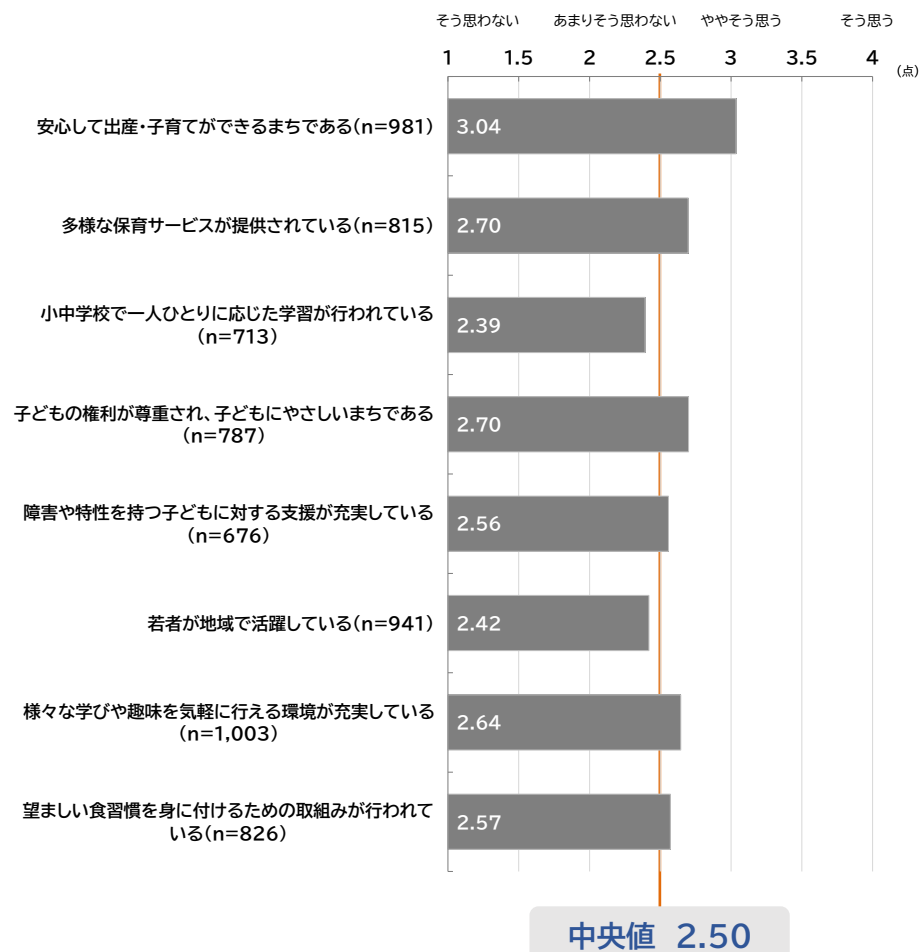
(1)「こども・若者・教育」分野の詳細分析

当該分野の施策評価一覧

当該分野の傾向:回答割合

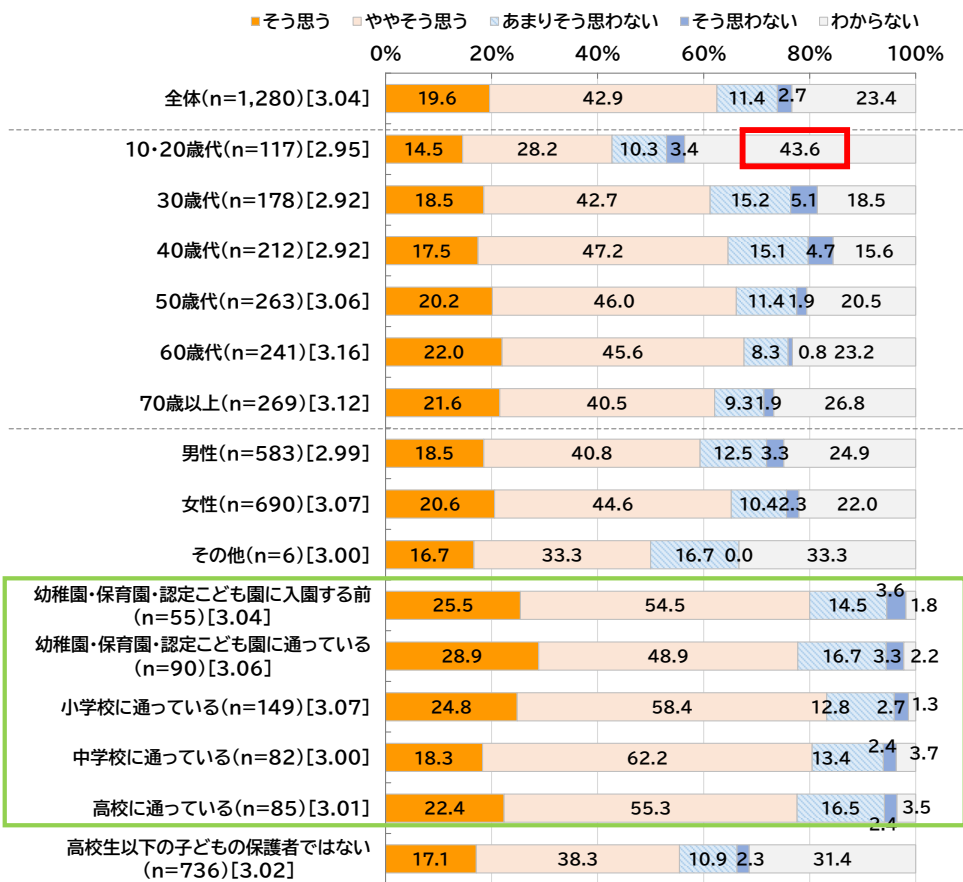


全体傾向:得点の比較



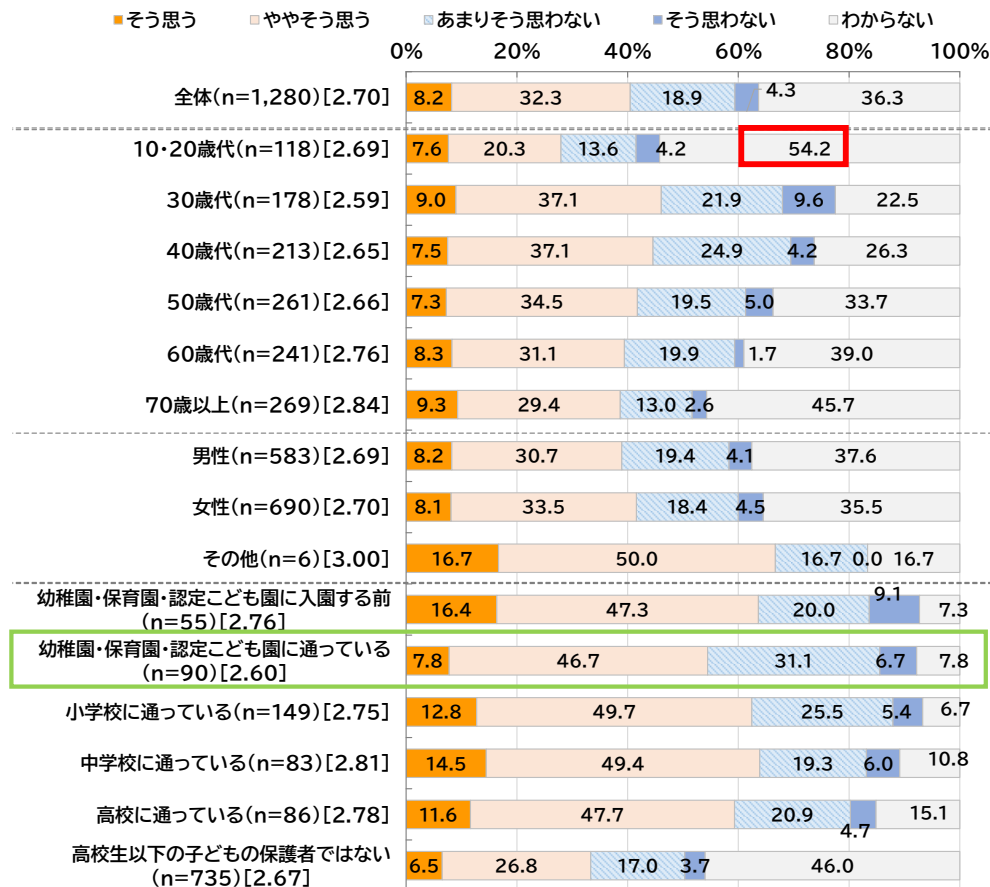
<1-1 安心して出産・子育てができるまちである>

- 平均点は、子どもの保護者は3.00以上と一定の評価をしている。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。属性内でみると60歳代で3.16と高い一方、30・40歳代で2.92と低い。
- わからないとする割合は、受益者である子どもの保護者では5%未満であり、施策が浸透している。年代別にみると、10・20歳代が43.6%と高く、定住促進等の観点から、子育てしたい場所としての選択につながる情報発信の強化が求められる。



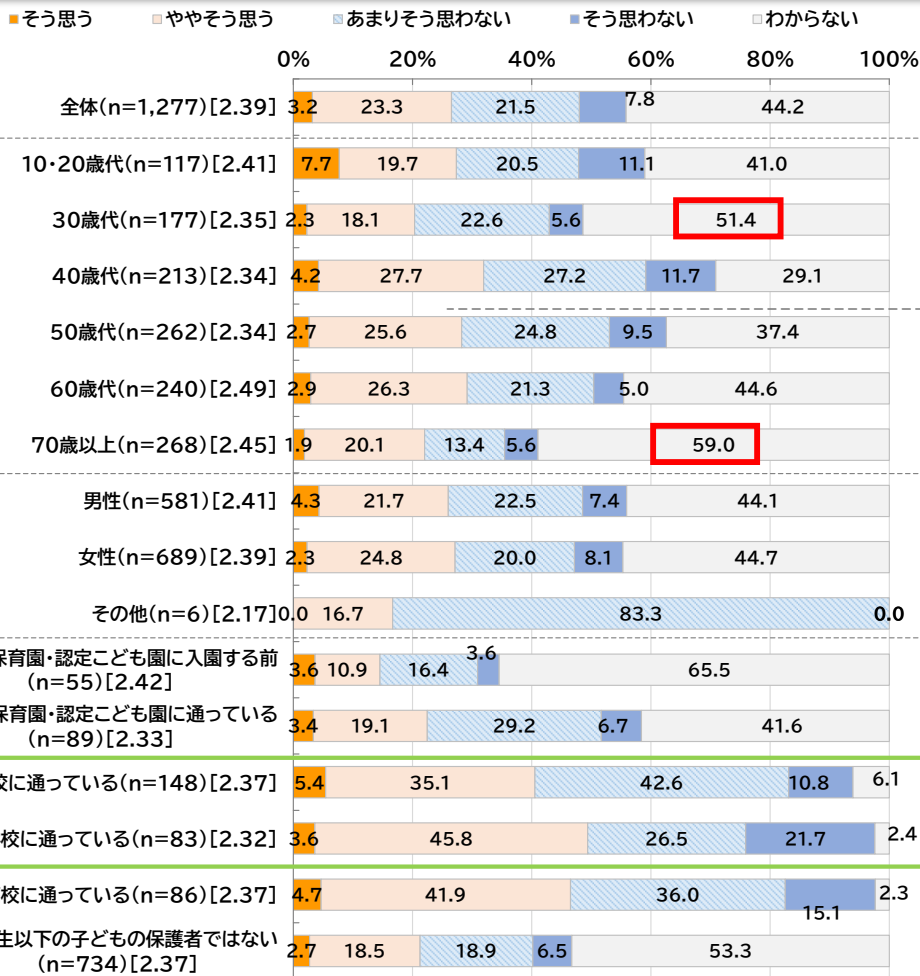
<1-2 多様な保育サービスが提供されている>

- 平均点は、園児の保護者で2.60と中央値2.50以上である一方、不満を感じている人の割合（あまりそう思わない、そう思わないの計）が37.8%と他の層と比較し、高くなっている。
- わからないとする割合は、受益者である園児の保護者では7.8%であり、施策が浸透している。年代別にみると10・20歳代が54.2%と高く、施策1-1と同様、定住促進、仕事と子育ての両立における不安の解消等の観点から、若い世代への情報発信の強化も求められる。



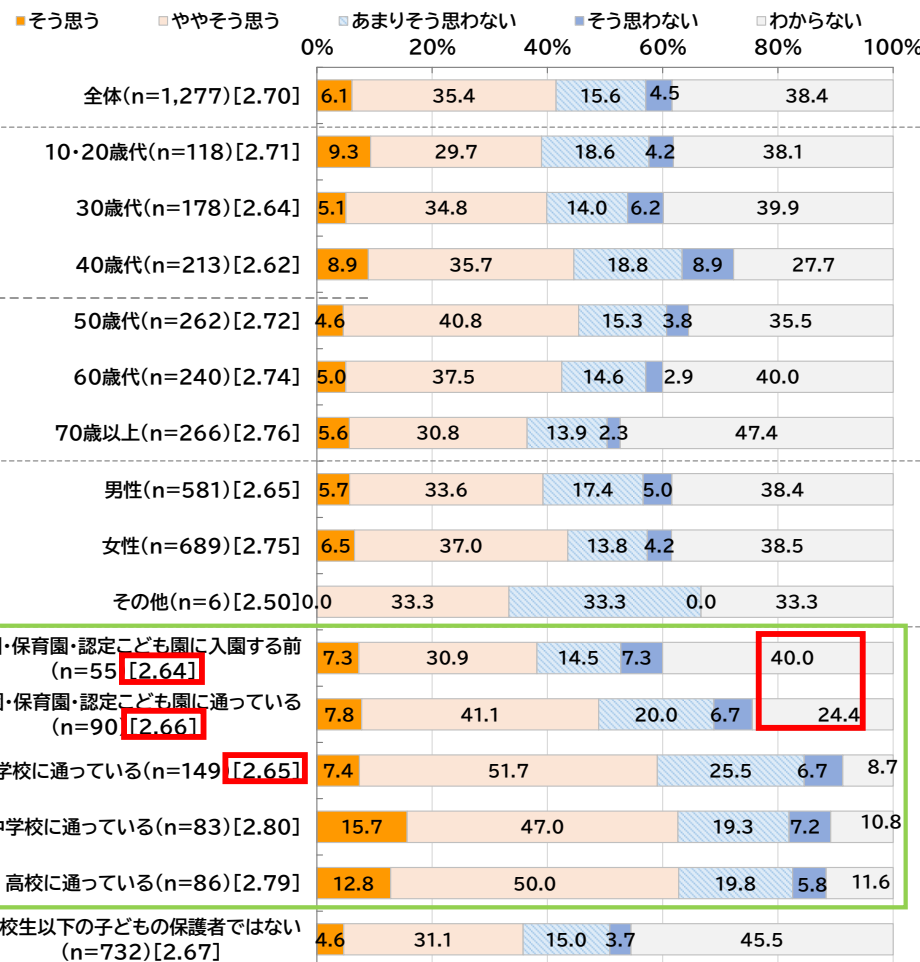
<1-3 小中学校で一人ひとりに応じた学習が行われている>

- 平均点は、小学生の保護者で2.37、中学生の保護者で2.32と中央値2.50以下であり、現状に課題を感じている人が半数程度いる。
- わからないとする割合は、受益者である小・中学生の保護者では10%未満と低く、施策が浸透している。年代別にみると、70歳以上で59.0%、30歳代で51.4%と高い。総合計画で掲げる「学都」のシンカに向け、質の高い教育の実現と、幅広い層への情報発信の強化が求められる。



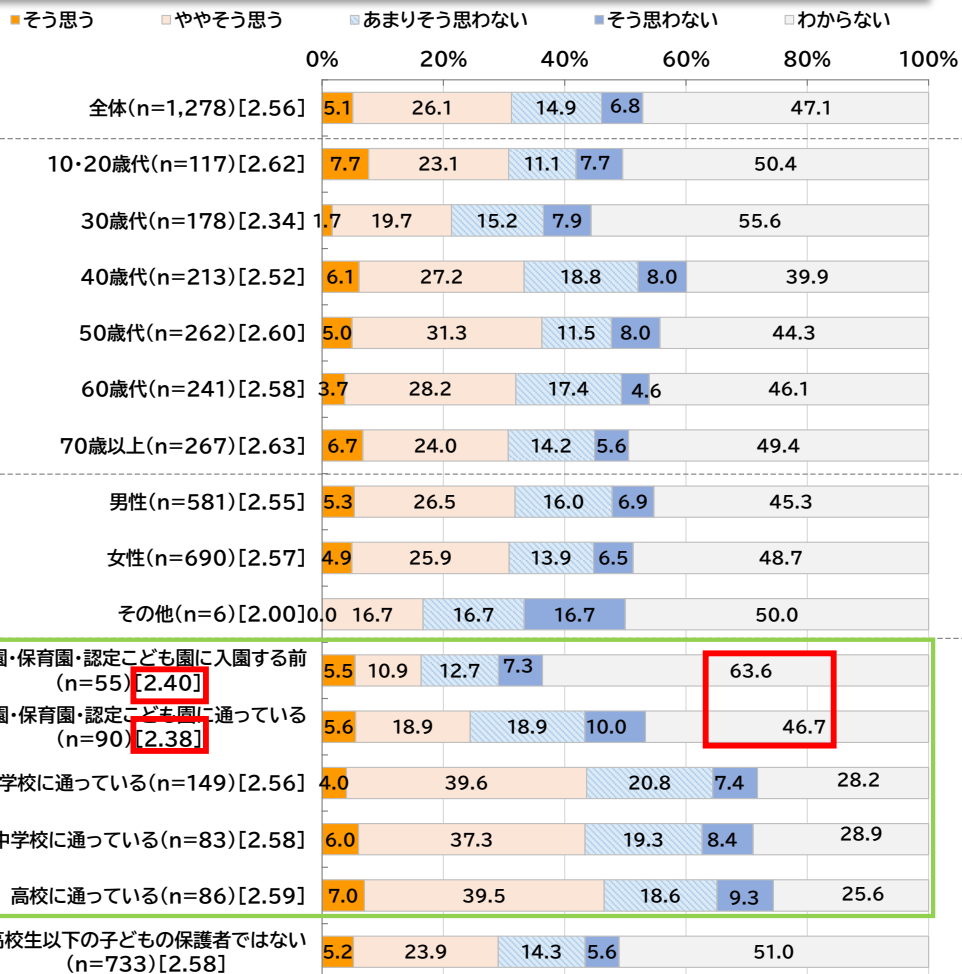
<1-4 子どもの権利が尊重され、子どもにやさしいまちである>

- 平均点は、子どもの保護者では中央値2.50以上であるが、就学前の子ども及び小学生の保護者でやや低い傾向にある。
- わからないとする割合は、受益者を中心にみると就学前の子どもの保護者で高くなっている。年代・性別でも、すべての層で2割以上となっている。子どもの権利の尊重は、理解を促進していくことが重要な施策であり、周知を強化していくことが求められる。



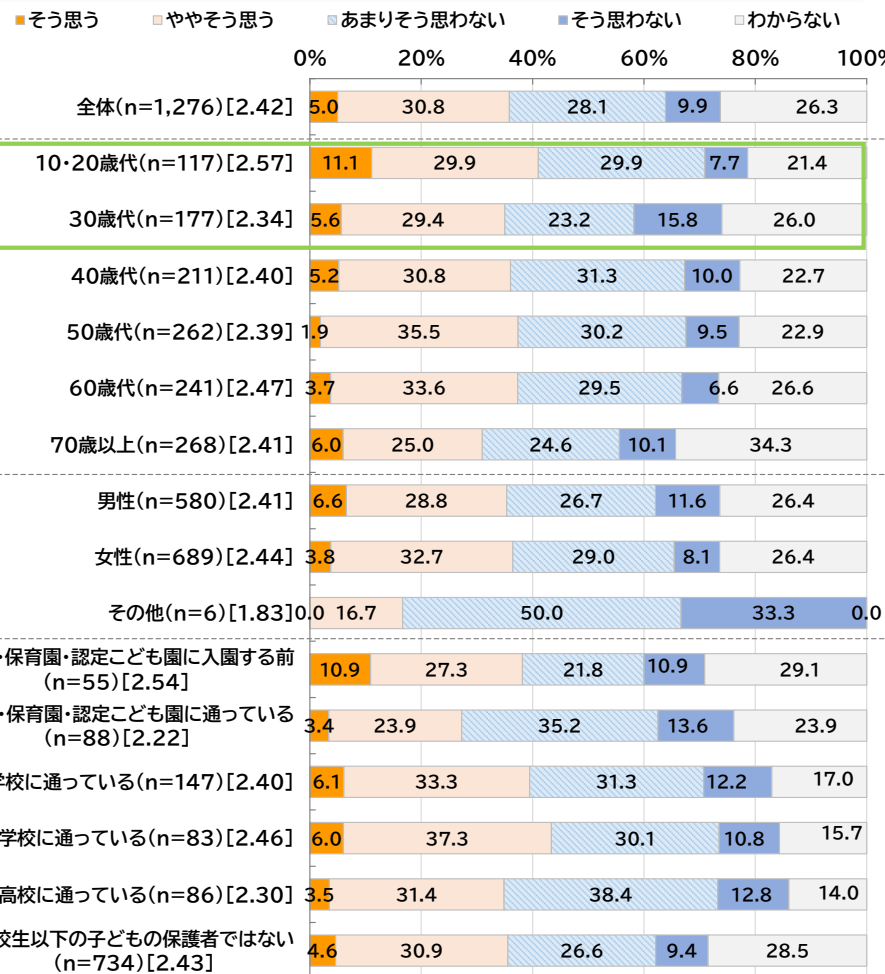
<1-5 障害や特性を持つ子どもに対する支援が充実している>

- 平均点は、子どもの保護者のうち、就学前の子どもがいる保護者では中央値2.50以下である。幼い子どもの保護者は、支援が浸透しておらず、評価も低い傾向にある。
- わからないとする割合は、受益者である子どもの保護者を中心にみると、就学前の子どもがいる保護者で高くなっている。年代・性別でも、すべての層で3割以上と高くなっている。



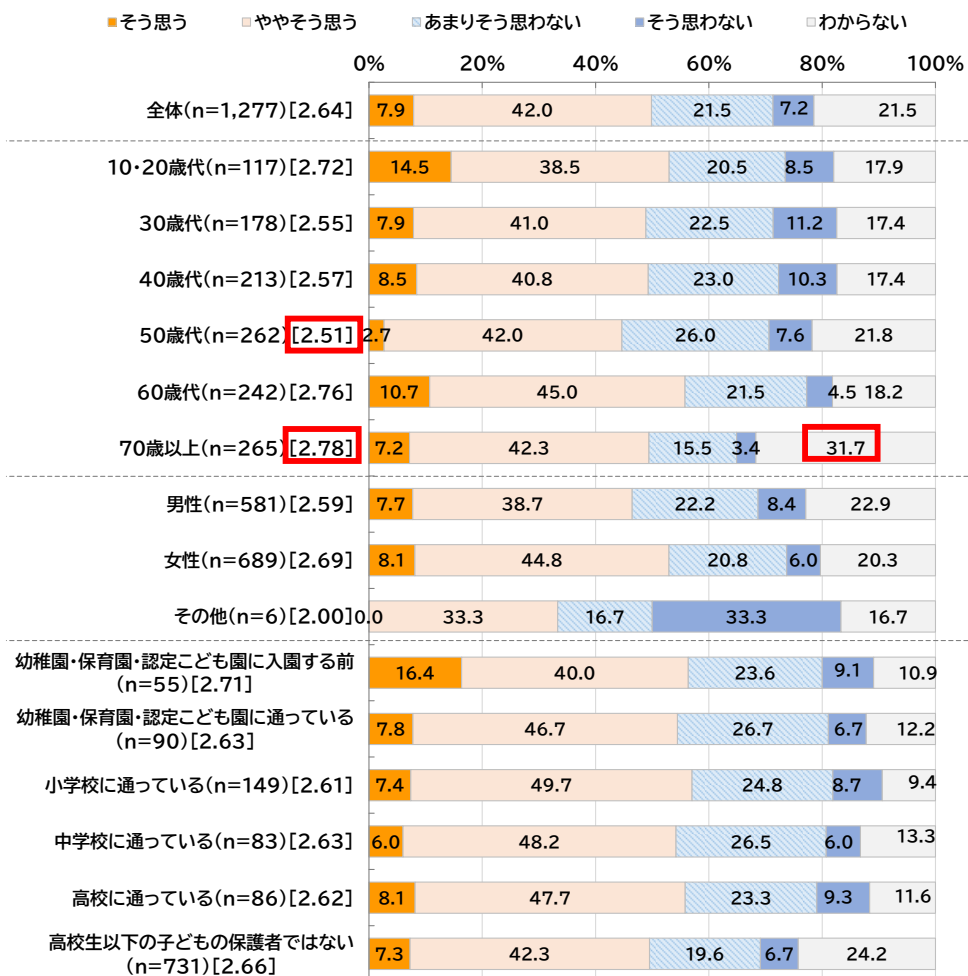
<1-6 若者が地域で活躍している>

- 平均点は、10・20歳代は2.57と中央値2.50以上であるが、30歳代は2.34と中央値以下である。子どもの保護者においても2.50程度もしくはそれ以下であり、現状評価は低い。
- わからないとする割合は、受益者である若年層を中心にみると、10・20歳代及び30歳代は2割台と高い。



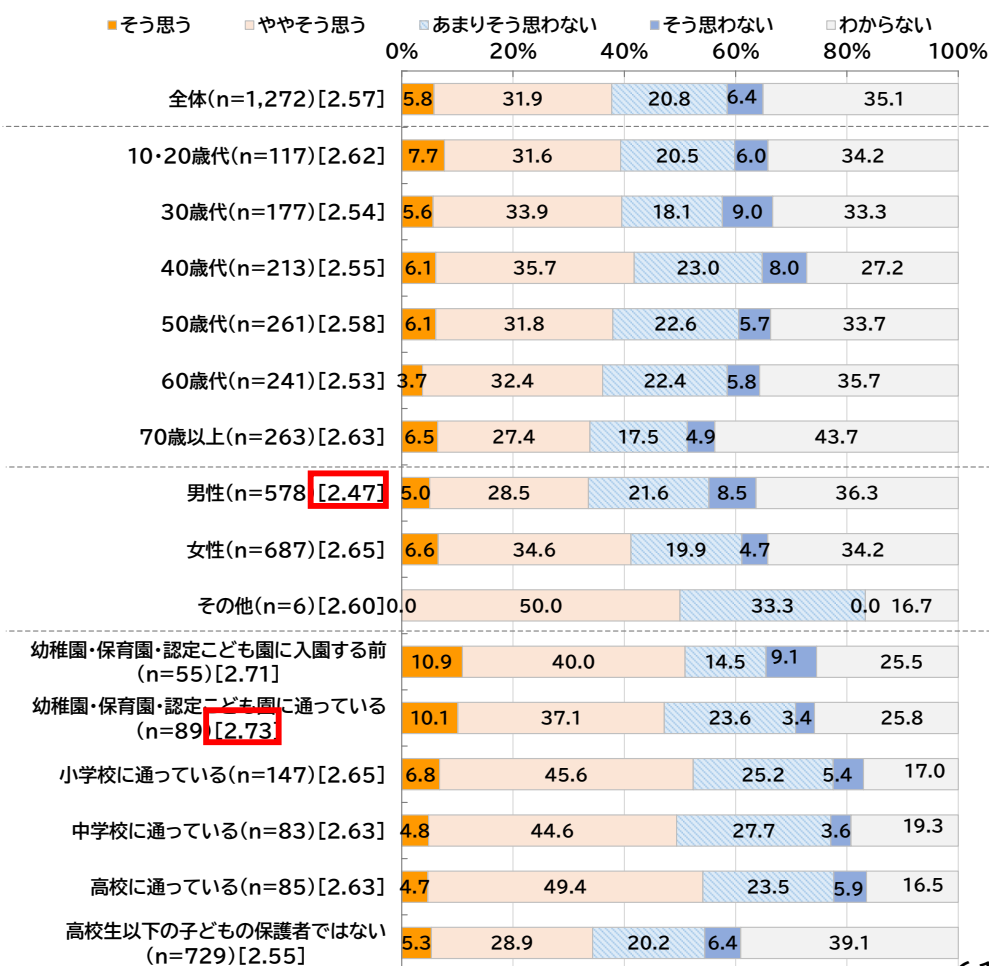
<1-7 様々な学びや趣味を気軽に行える環境が充実している>

- 平均点は、大半の層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。属性内で比較すると、年代では70歳以上が2.78であるのに対し、50歳代が2.51と低く、評価に差がみられる。
- わからないとする割合は、70歳以上が31.7%と高く、生涯学習等の環境の周知が必要である。



<1-8 望ましい食習慣を身に付けるための取組みが行われている>

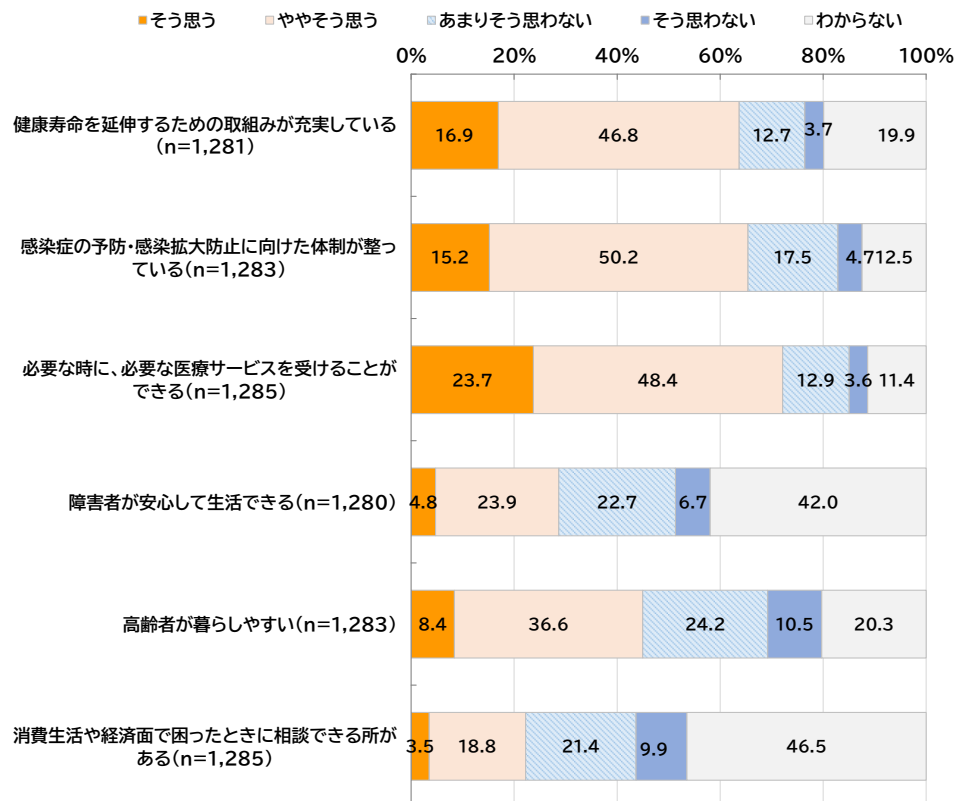
- 平均点は、男性が2.47と中央値2.50以下であり、最も評価が低い。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるのは、園児の保護者で、2.73と評価が高くなっている。
- わからないとする割合をみると、小学校以上の子どもがいる保護者では2割程度と低いが、それ以外の層は高く、周知が求められる。



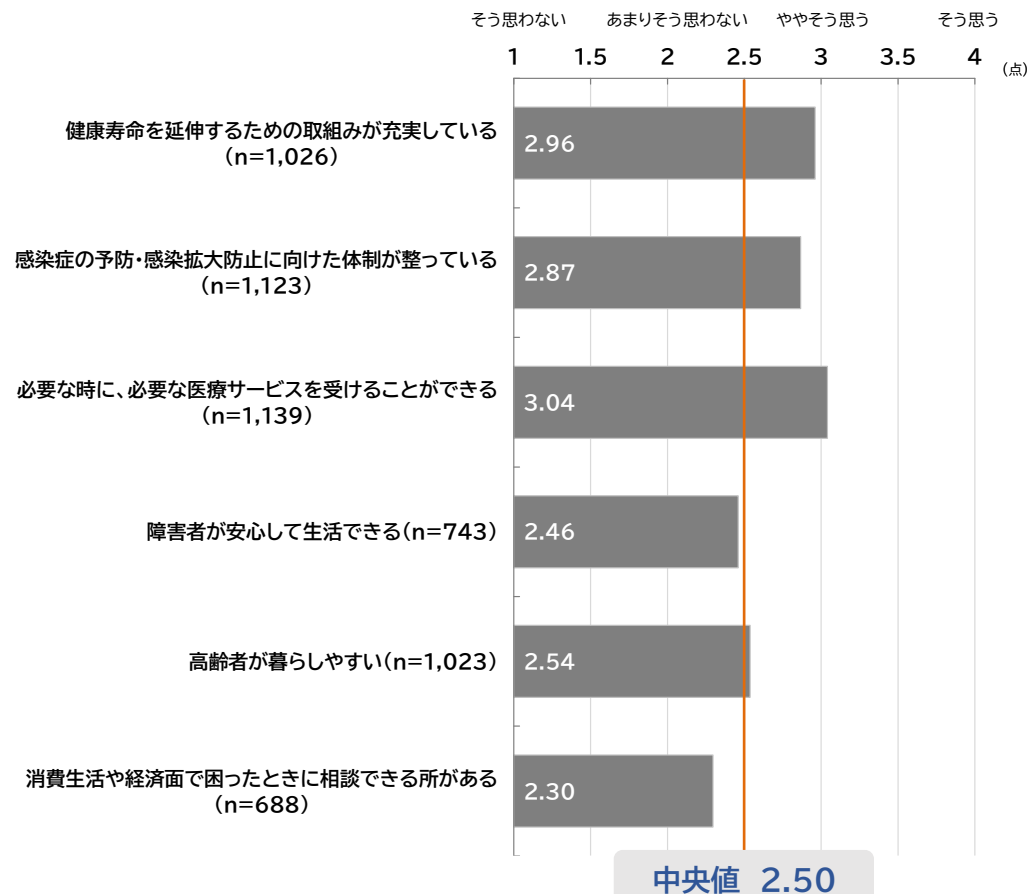
(2)「健康・医療・福祉」分野の詳細分析

当該分野の施策評価一覧

当該分野の傾向:回答割合

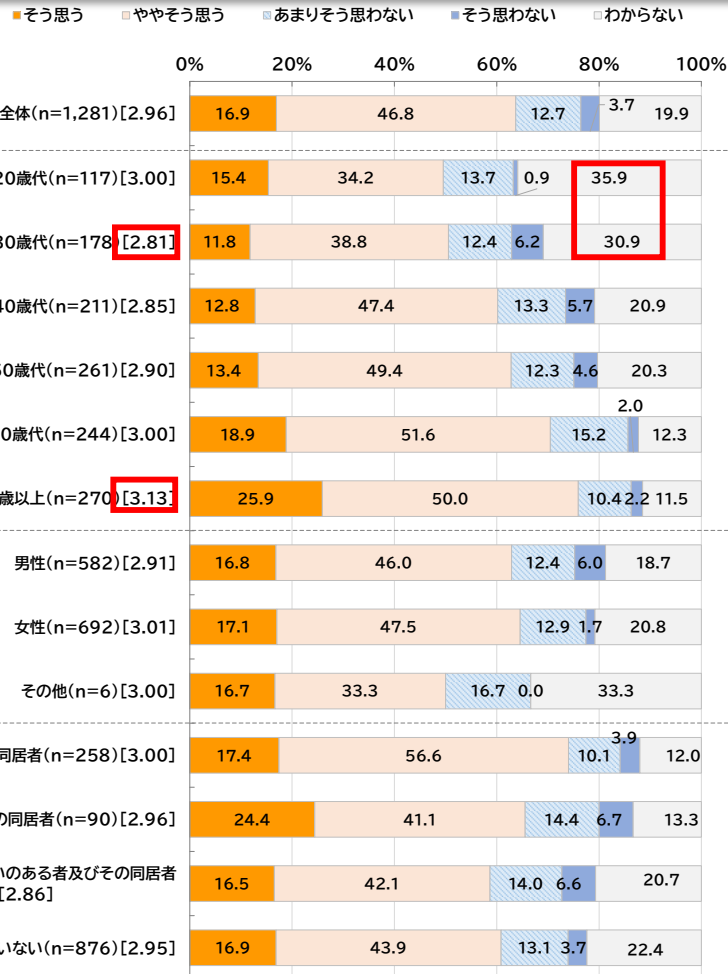


全体傾向:得点の比較



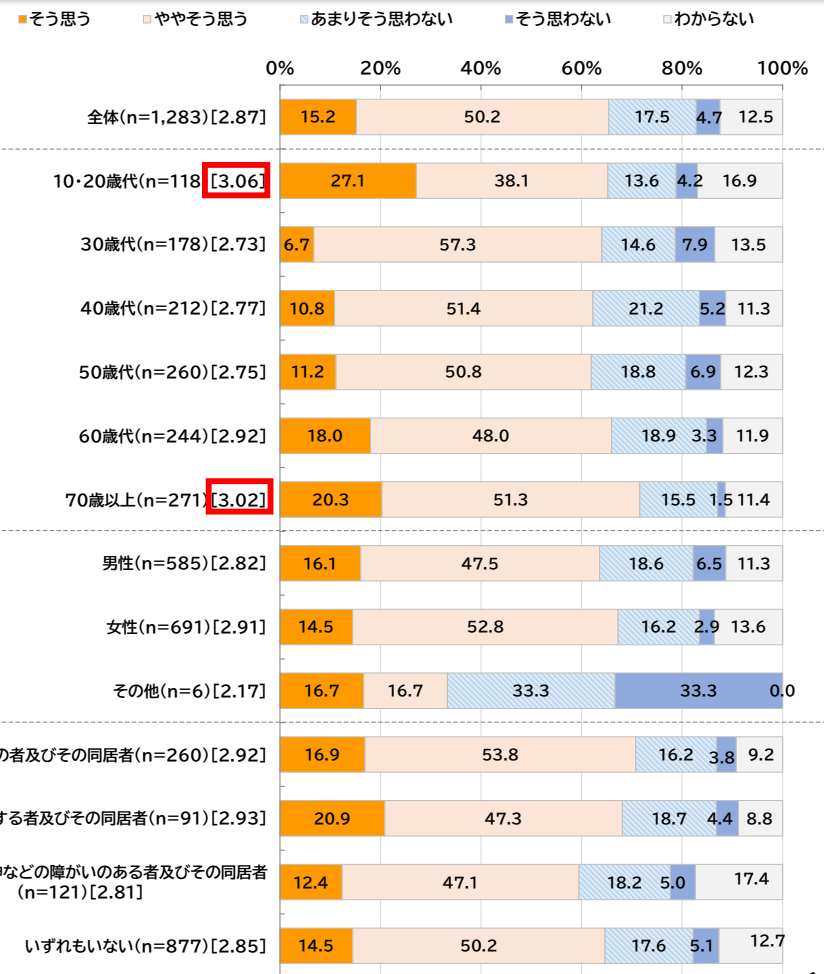
<2-1 健康寿命を延伸するための取組みが充実している>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるのは、70歳以上で3.13と高い。一方、30歳代が2.81と低く、年代で評価が分かれている。
- わからないとする割合は、10・20歳代及び30歳代は3割以上と高く、施策の情報発信の強化が必要である。



<2-2 感染症の予防・感染拡大防止に向けた体制が整っている>

- 平均点は、大半の層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるものは、10・20歳代で3.06、70歳以上で3.02と評価が高くなっている。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下であり、施策が浸透している。

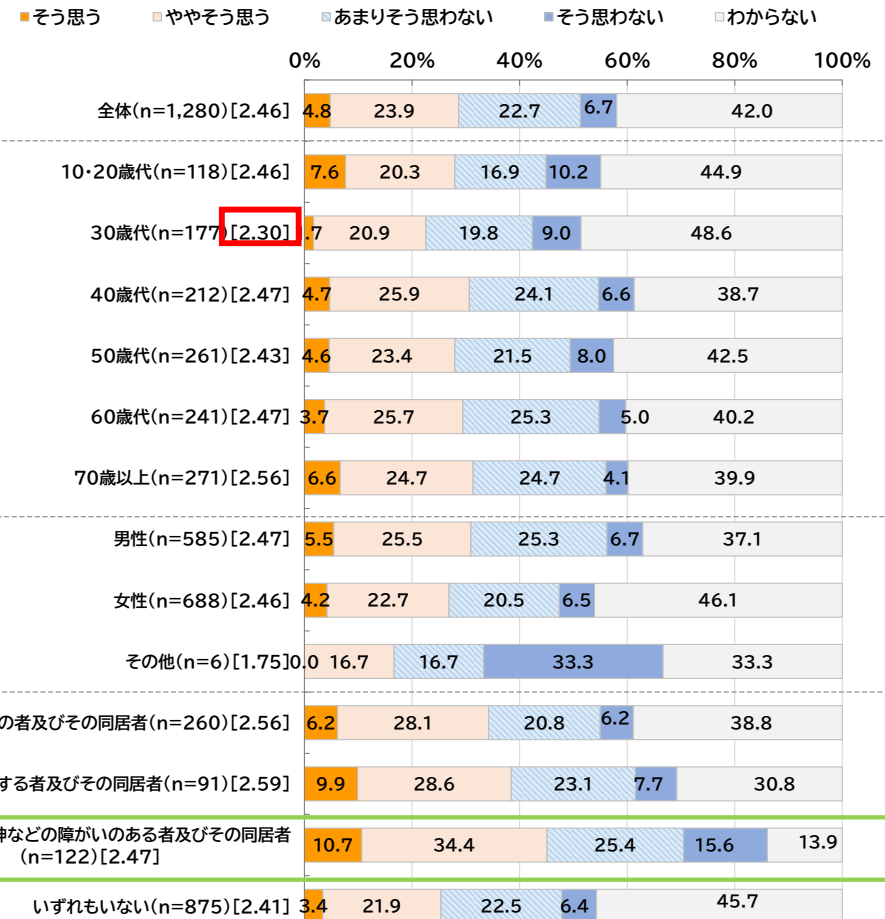
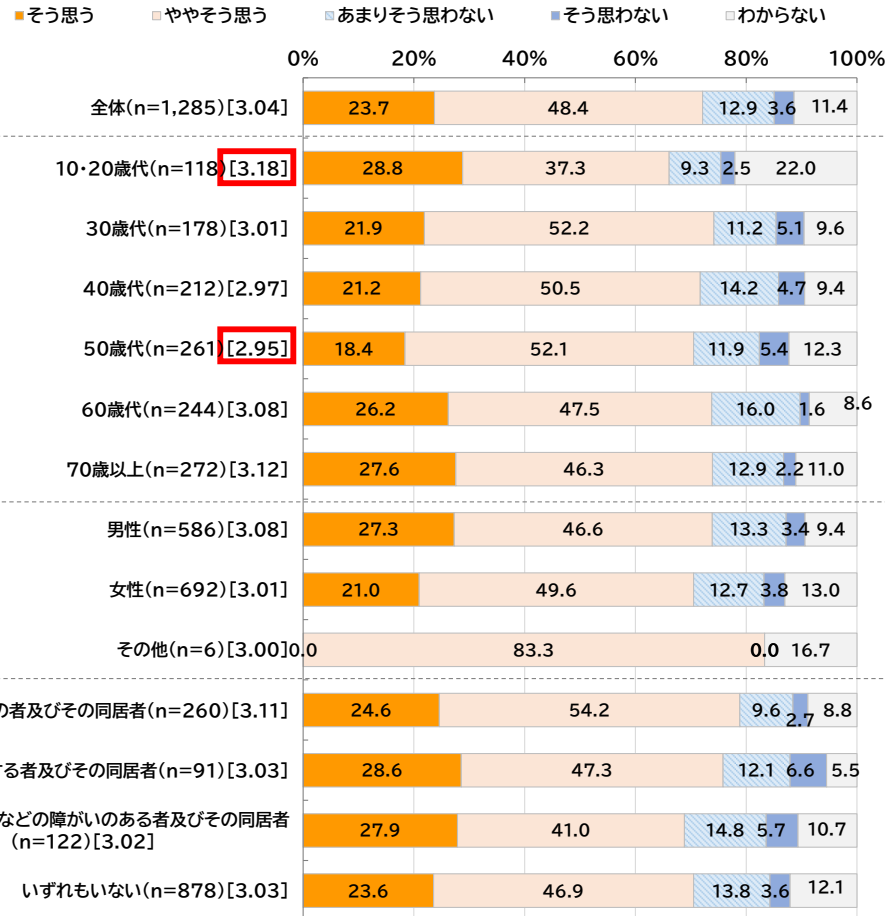


<2-3 必要な時に、必要な医療サービスを受けることができる>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるものはない。年齢別で見ると、10・20歳代は3.18と高い一方、50歳代が2.95であり、0.2以上の差がみられる。
- わからないとする割合は、10・20歳代が22.0%であるが、それ以外の層は2割以下であり、一定程度施策が浸透している。

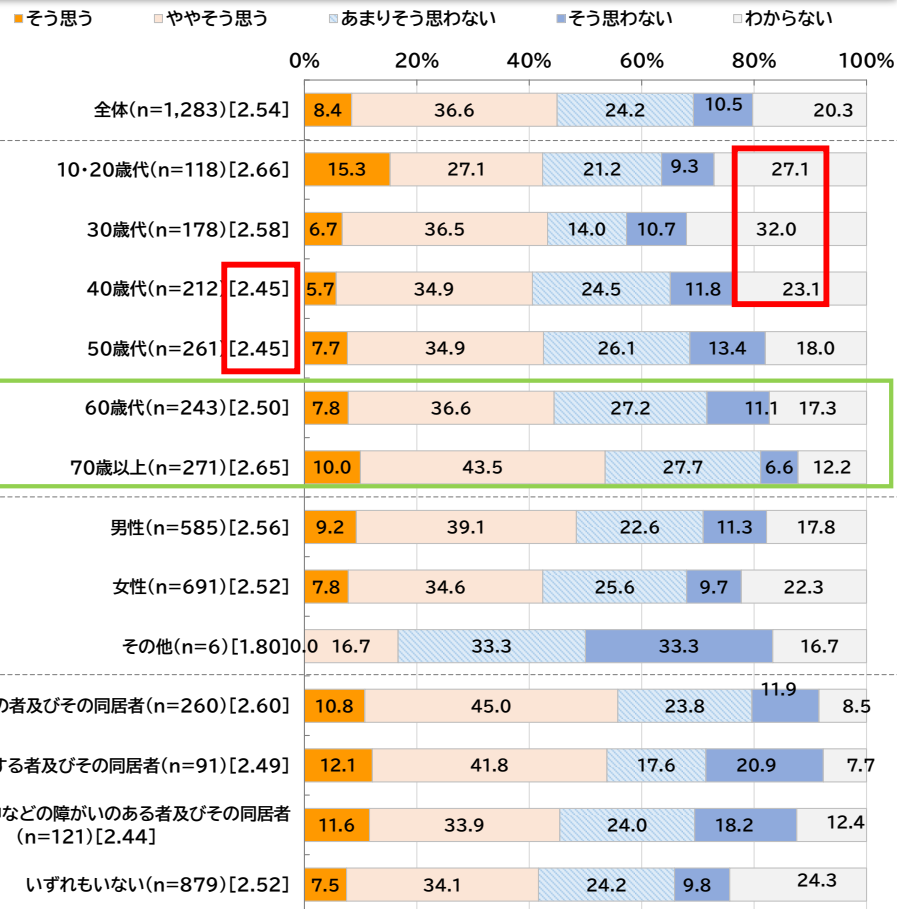
<2-4 障害者が安心して生活できる>

- 平均点は、身体・知的・精神などの障がい者及びその同居者は2.47と中央値2.50以下である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるものをみると、30歳代が2.30と低い傾向にある。
- わからないとする割合は、受益者である身体・知的・精神などの障がい者及びその同居者は13.9%であり、施策が浸透している。



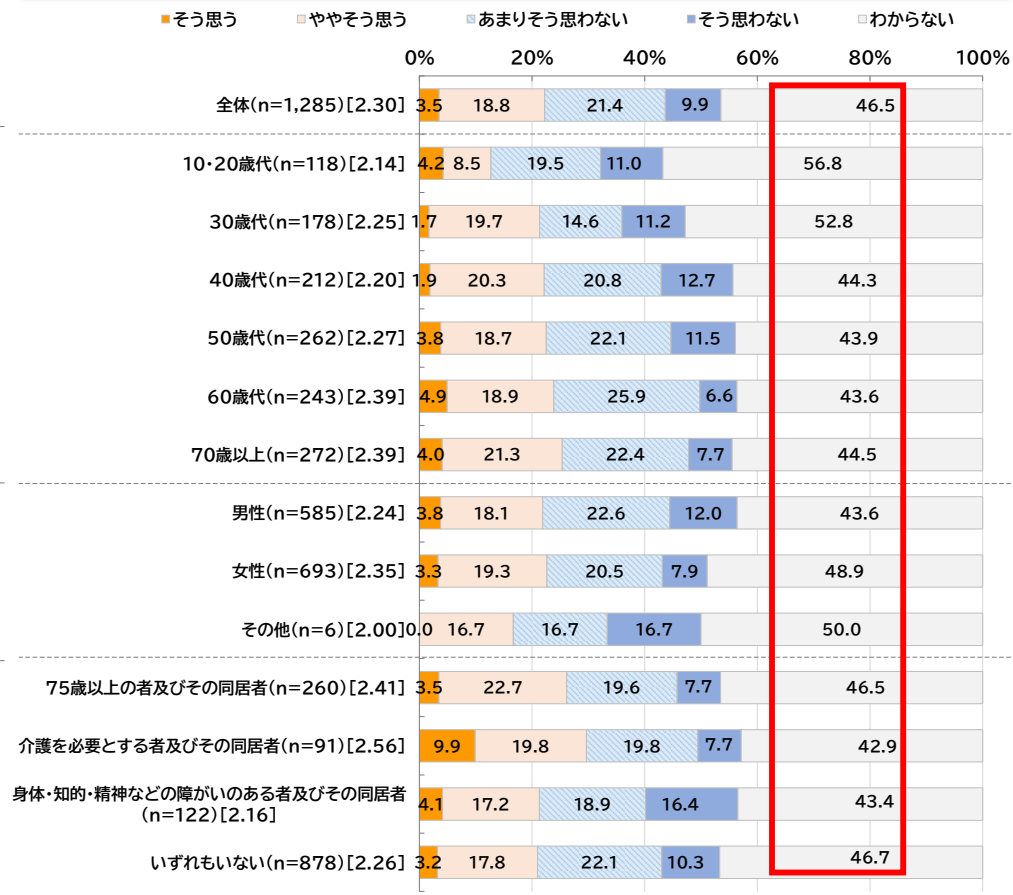
<2-5 高齢者が暮らしやすい>

- 平均点は、40歳代及び50歳代は中央値2.50以下であるが、60歳以上の受益者は中央値以上であり、一定の評価をしている。
- 全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるものはない。
- わからないとする割合をみると、40歳代以下は2割以上であるが、受益者である60歳代以上は2割未満である。



<2-6 消費生活や経済面で困ったときに相談できる所がある>

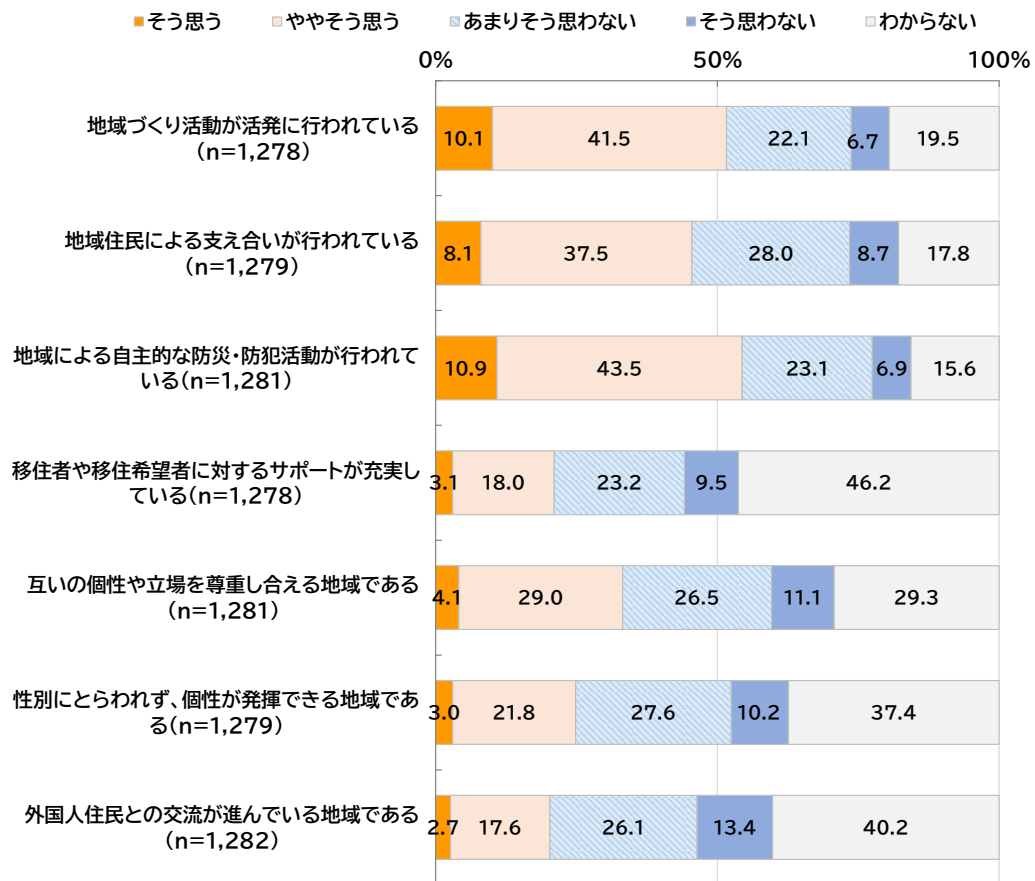
- 平均点は、介護を必要とする者及びその同居者以外は、中央値2.50以下であり、評価が低い。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるのは、10・20歳代で2.14と評価が低い。一方、介護を必要とする者及びその同居者は2.56と高い。本施策は生活満足度の低い層で評価が低い傾向にあり、取組みの周知及び現状の改善が必要である。
- わからないとする割合をみると、すべての層で4割以上であり、多くの市民が経済面等で相談できる所について、把握していない状況である。



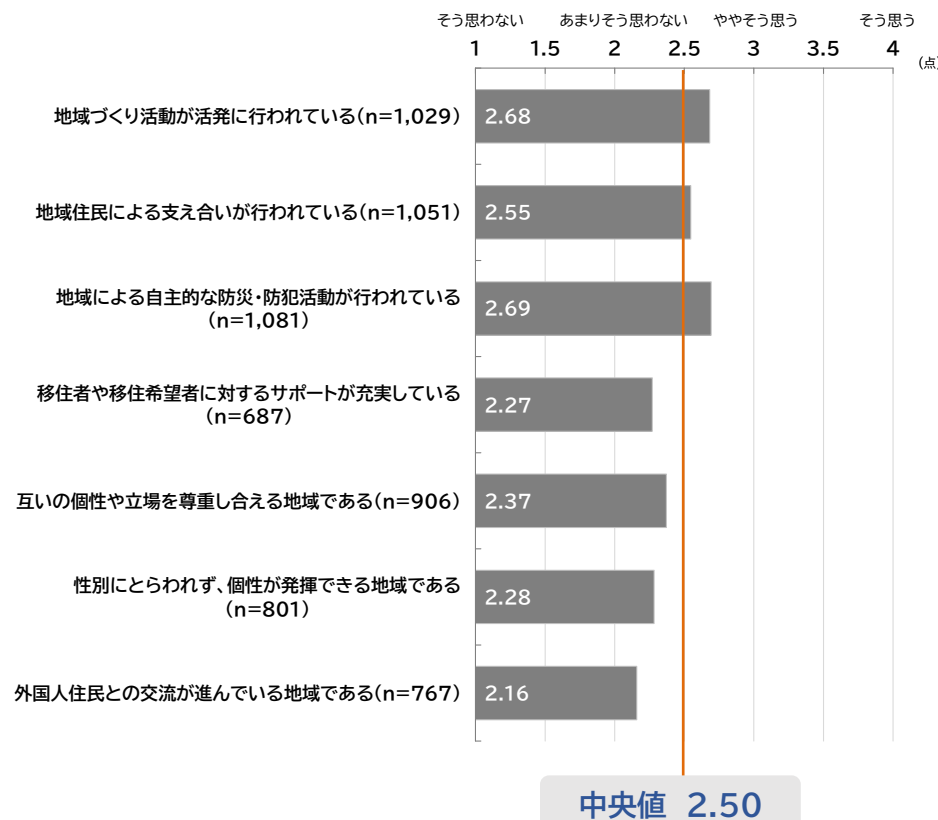
(3)「住民自治・共生」分野の詳細分析

当該分野の施策評価一覧

当該分野の傾向:回答割合

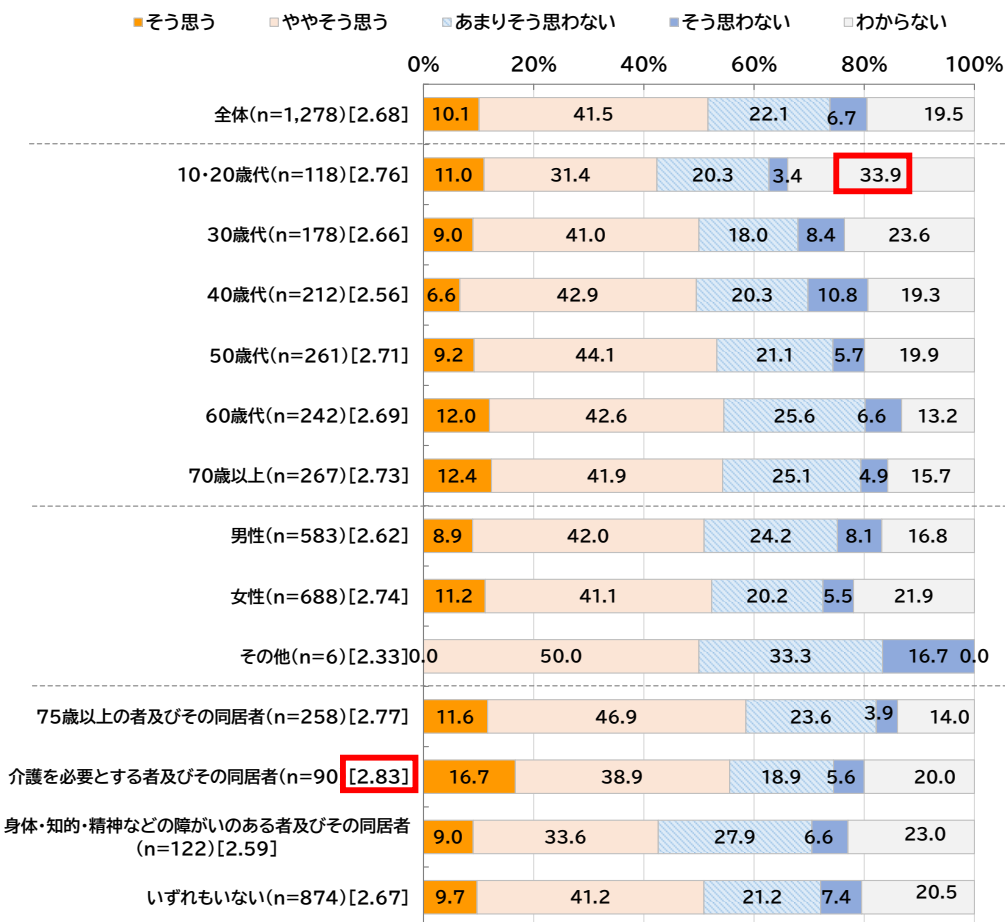


当該分野の傾向:得点の比較



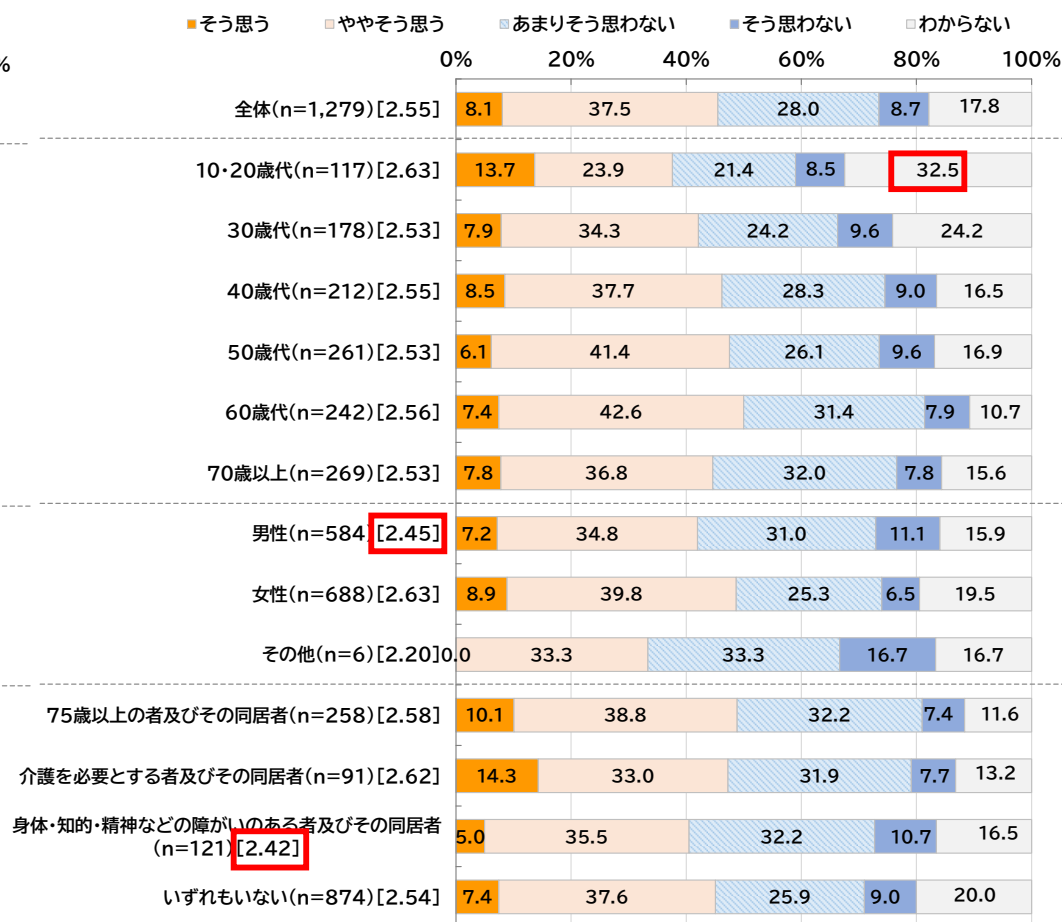
<3-1 地域づくり活動が活発に行われている>

- 平均点は、大半の層で中央値以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものは、介護を必要とする者及びその同居者の評価であり、2.83と高い。
- わからないとする割合は、10・20歳代は33.9%と特に高く、地域とのつながりが希薄で評価できる者が少ないと考えられるため、地域と関わるきっかけづくりが必要である。



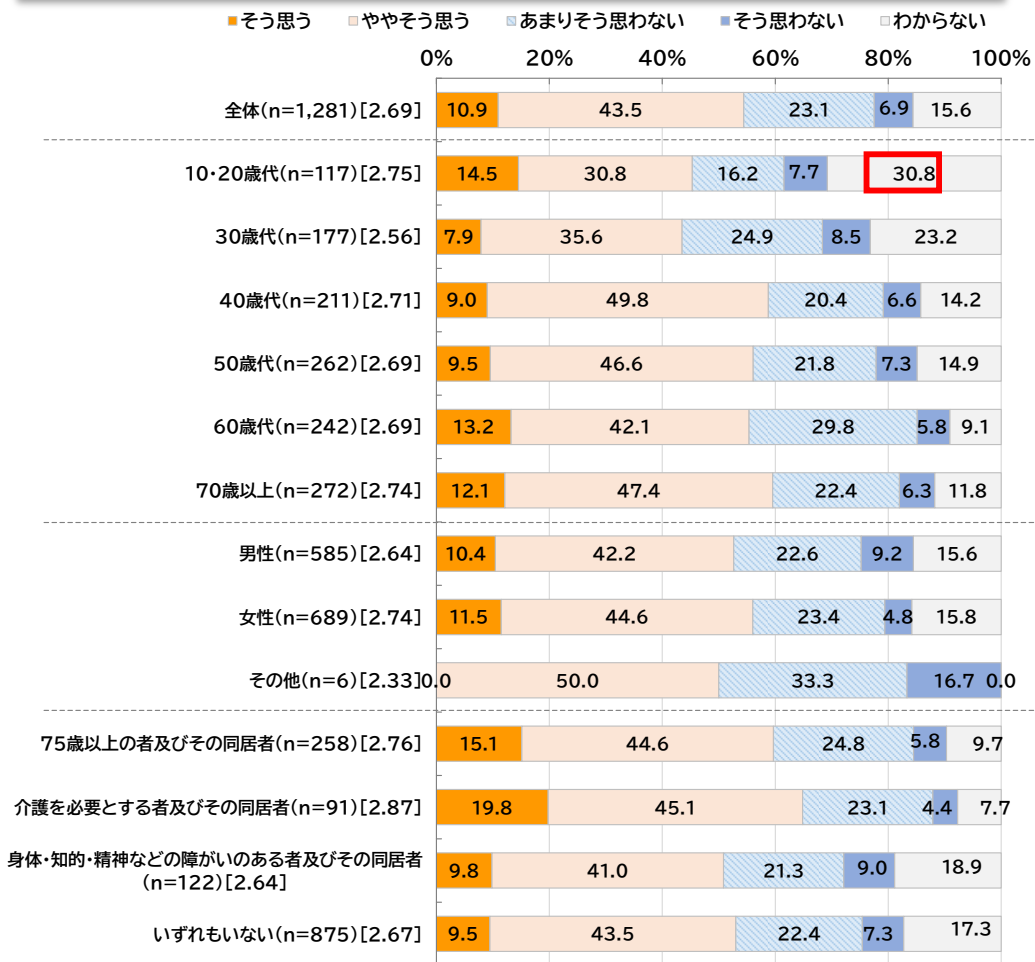
<3-2 地域住民による支え合いが行われている>

- 平均点は、男性や身体・知的・精神などの障がい者及びその同居者は中央値2.50以下である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。
- わからないとする割合は、10・20歳代は32.5%と高く、評価できる者が少ないことから、若い世代と地域とのつながりの希薄化が伺える。



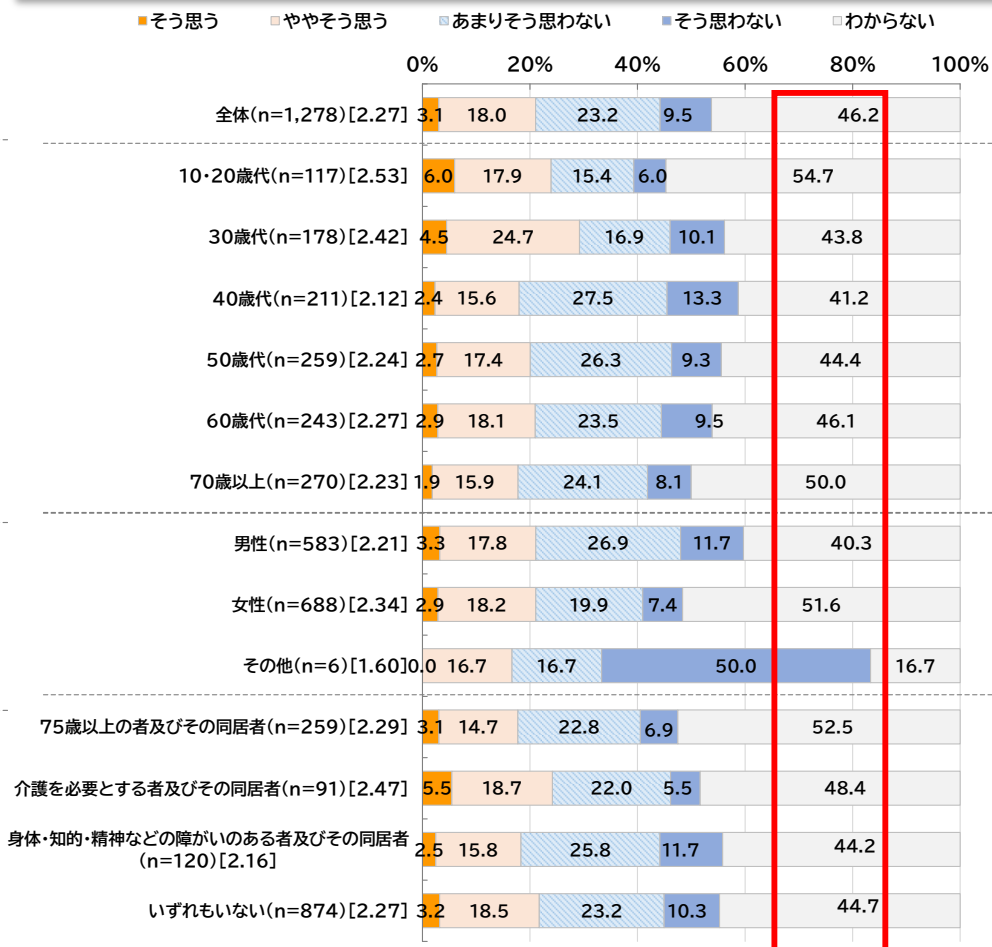
<3-3 地域による自主的な防災・防犯活動が行われている>

- 平均点は、大半の層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。
- わからないとする割合は、10・20歳代は30.8%と特に高く、評価できない者が多い。地域とのつながりが少ないためと考えられる。



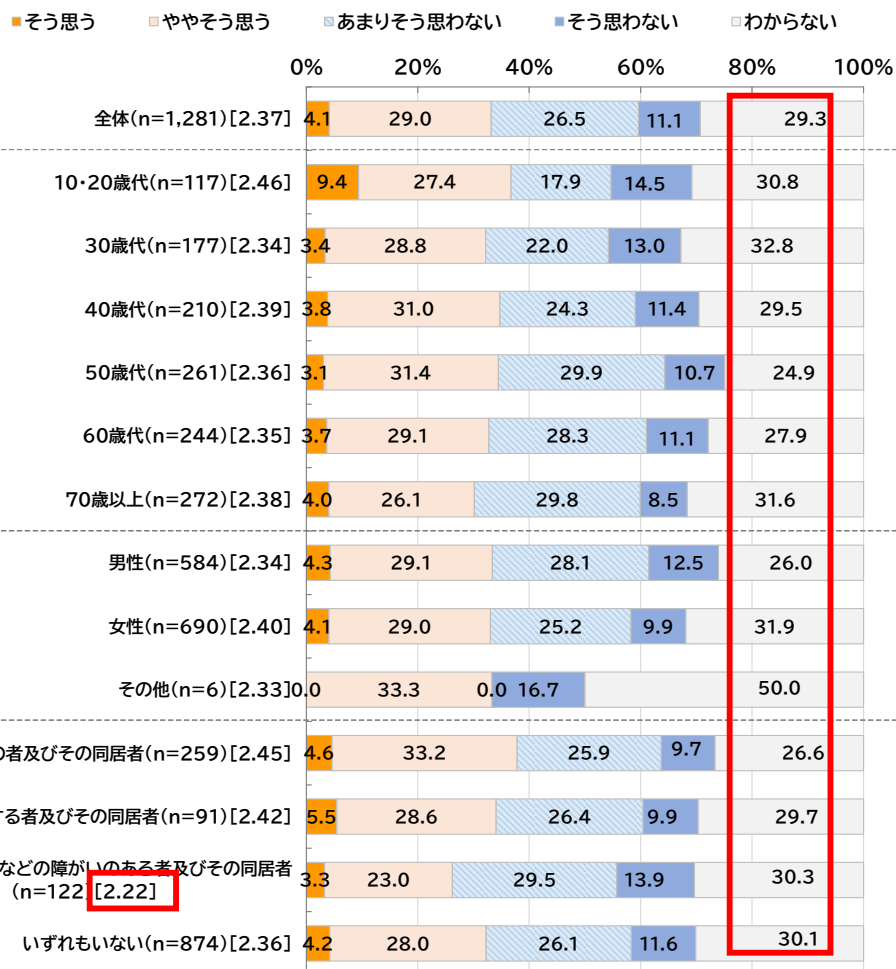
<3-4 移住者や移住希望者に対するサポートが充実している>

- 平均点は、10・20歳代は中央値2.50程度であるが、それ以外は中央値以下であり、評価が低い。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるのは、10・20歳代、30歳代という若い世代や、介護を必要とする者及びその同居者の評価で、高くなっている。
- わからないとする割合は、大半の層で4割以上であり、施策が評価できるほど、浸透していないといえる。



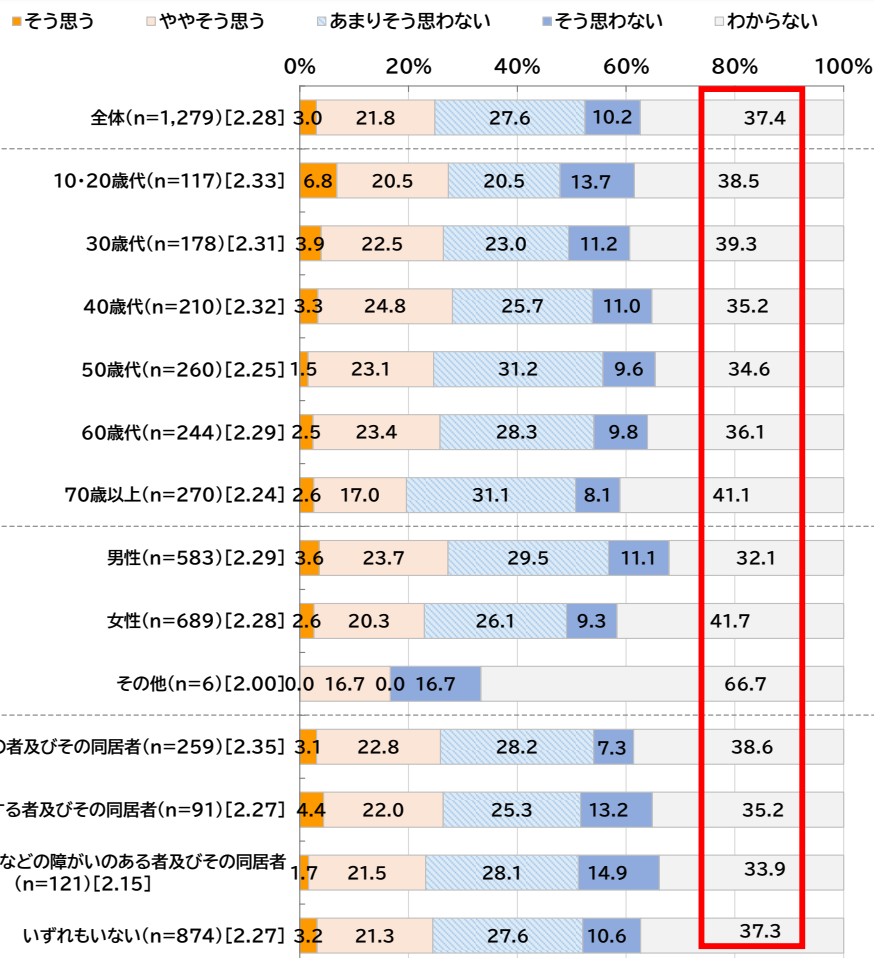
<3-5 互いの個性や立場を尊重し合える地域である>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以下である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差は、身体・知的・精神などの障がい者及びその同居者の評価であり2.22と低い。本施策は、生活満足度が低い層で特に評価が低い傾向にあり、取組みの更なる強化が必要である。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以上と高く、施策の浸透に課題がみられる。



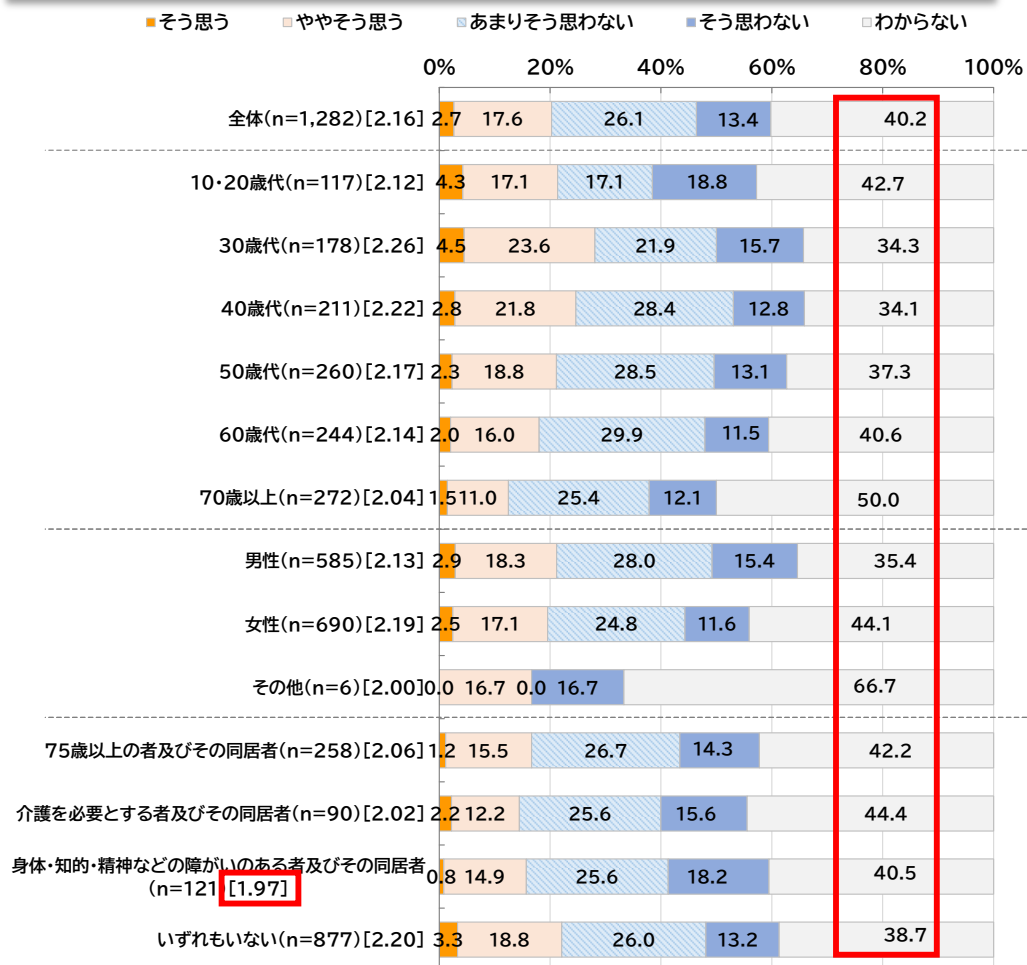
<3-6 性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以下である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。
- 生活満足度が低い層で特に評価が低い傾向があるため、取組みの更なる強化が必要である。
- わからないとする割合は、すべての層で3割以上と高く、施策の浸透に課題がみられる。



<3-7 外国人住民との交流が進んでいる地域である>

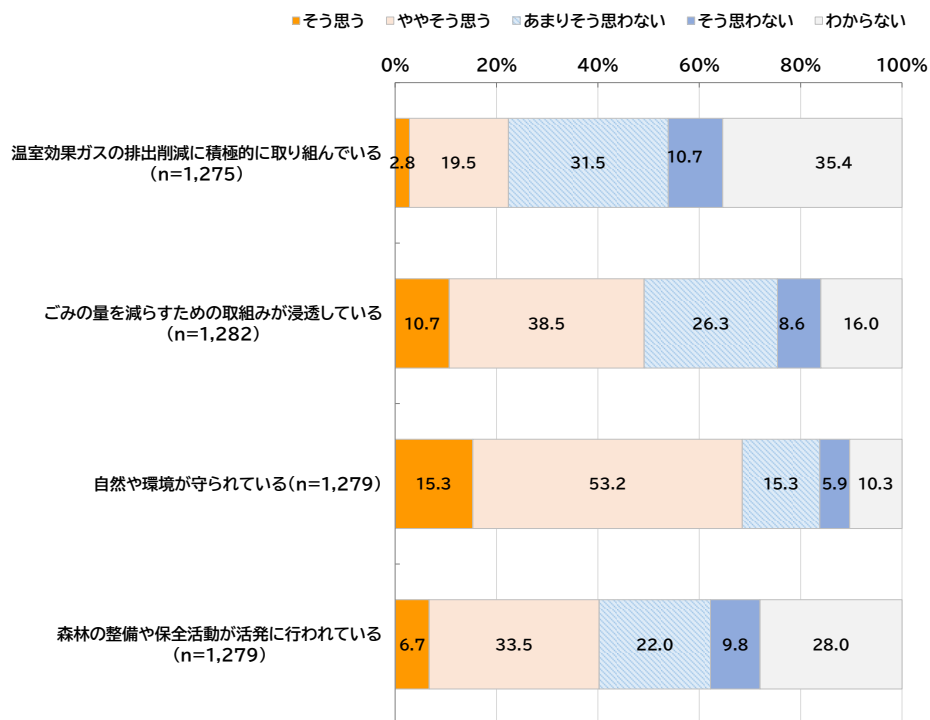
- 平均点は、すべての層で中央値2.50以下である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものは、身体・知的・精神などの障がい者及びその同居者の評価であり1.97と低い。
- わからないとする割合は、すべての層で3割以上と高く、施策の浸透に課題がみられる。



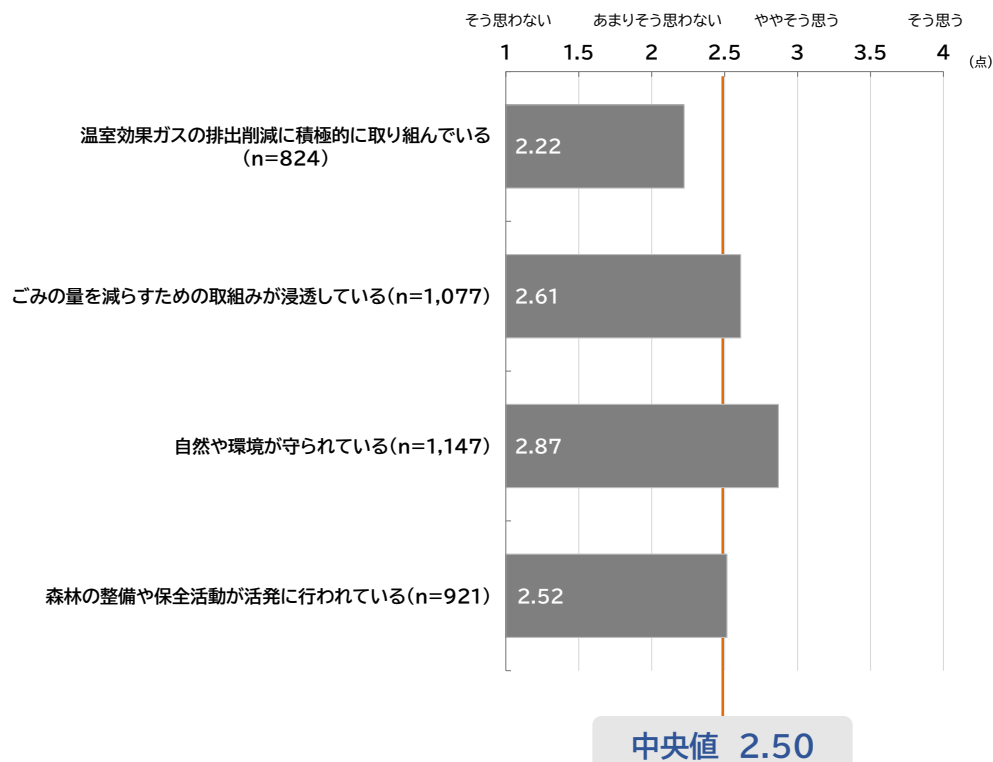
(4)「環境・エネルギー」分野の詳細分析

当該分野の施策評価一覧

当該分野の傾向:回答割合

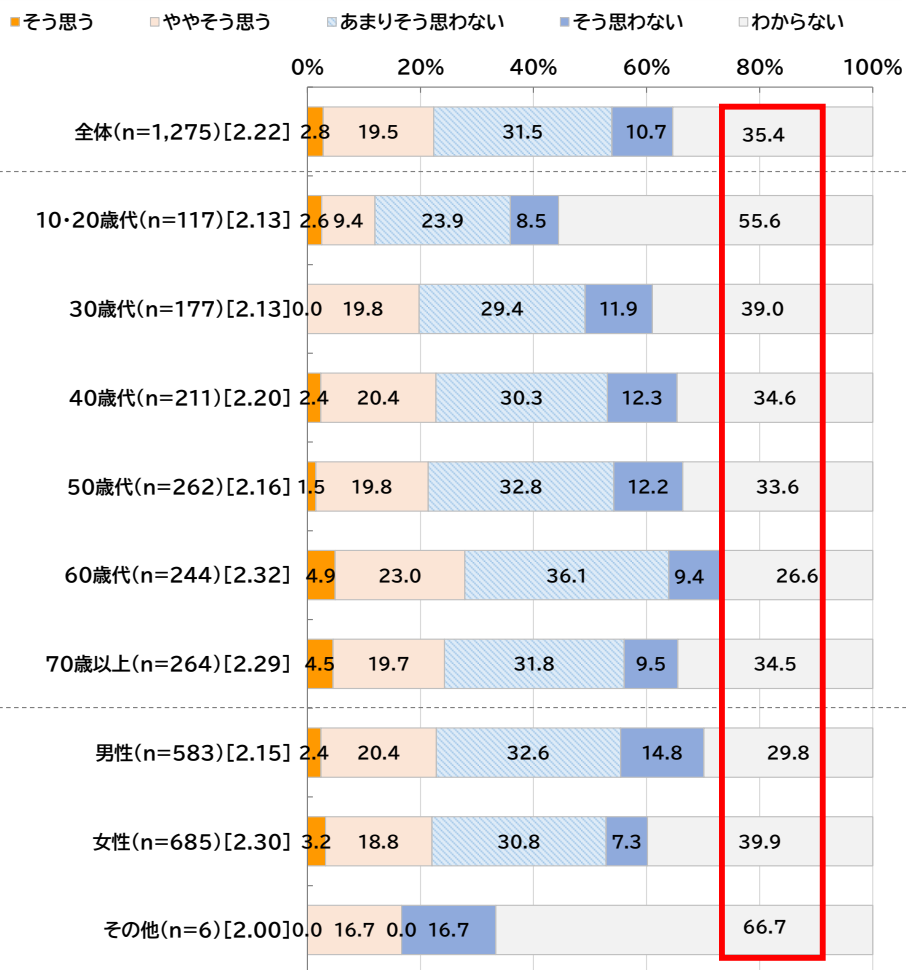


当該分野の傾向:得点の比較



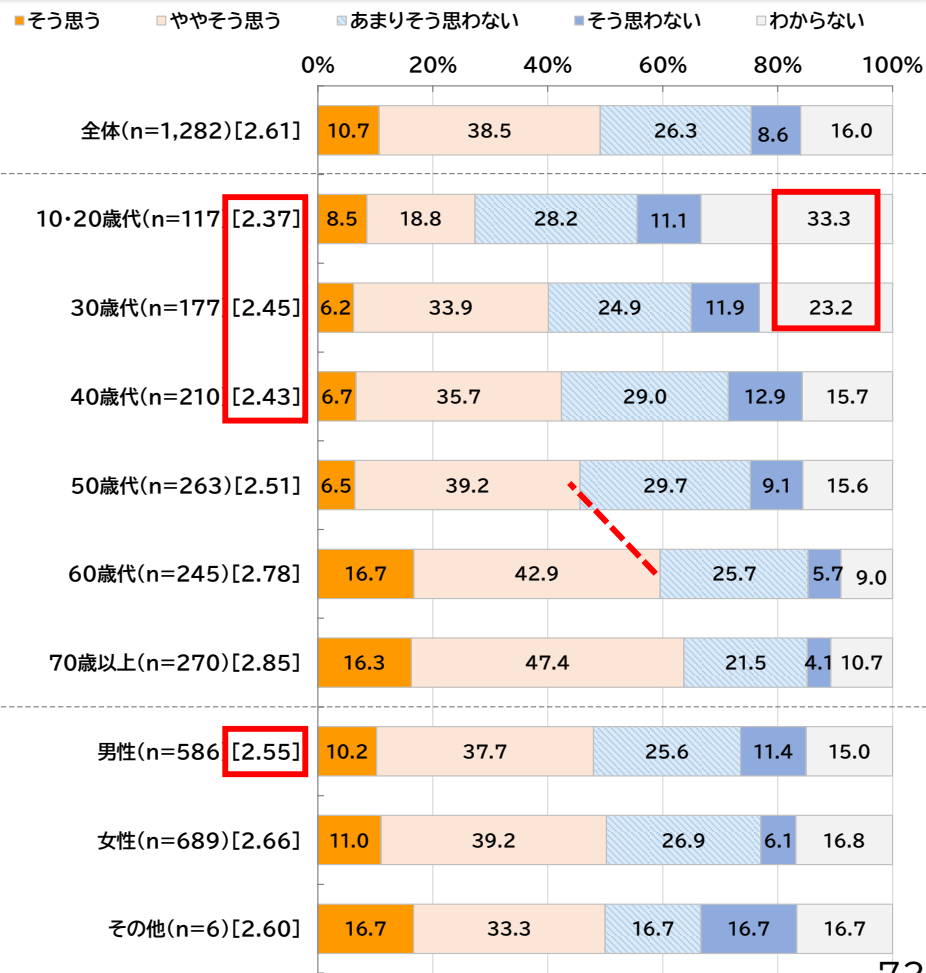
<4-1 温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいる>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以下である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差はないが、年代別では10・20歳代、30歳代が2.13と低い一方、60歳代は2.32と高く、差がみられる。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以上と施策が浸透しておらず、情報発信の強化が必要である。特に10・20歳代は高く、55.6%に上る。



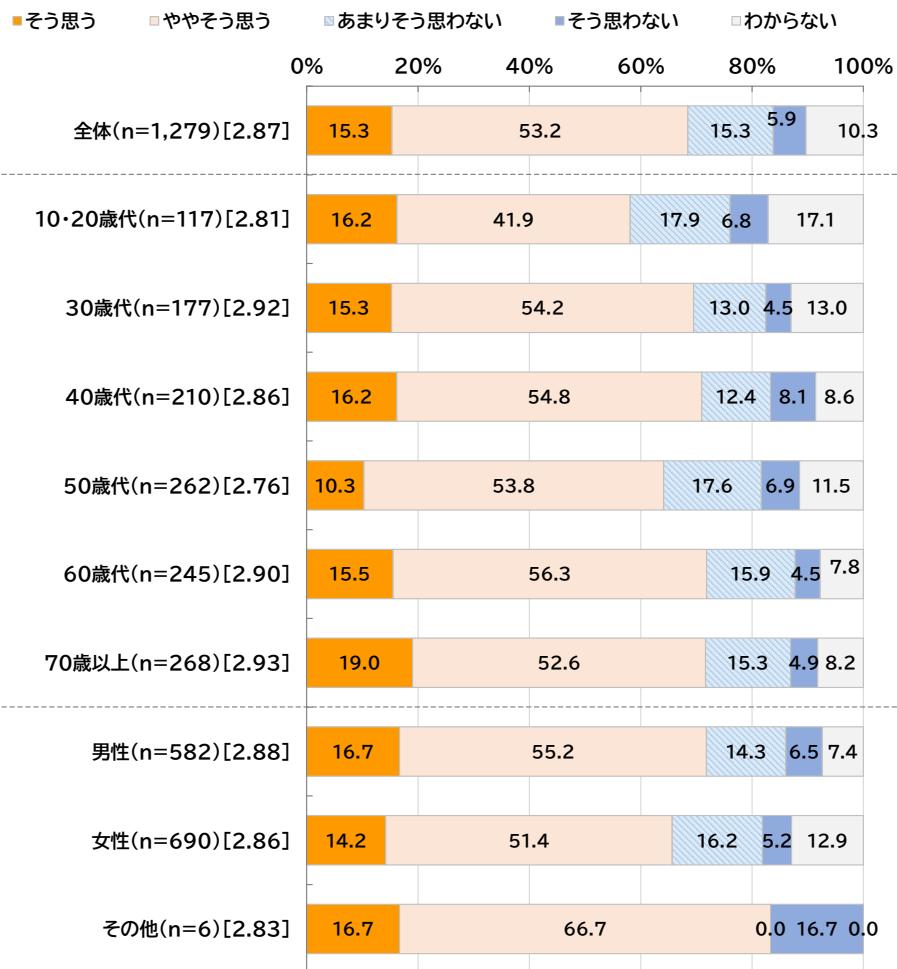
<4-2 ごみの量を減らすための取組みが浸透している>

- 平均点は、10・20歳代から40歳代が中央値2.50以下と評価が低く、60歳代以上から2.70台と高くなる。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるのは、10・20歳代から40歳代で0.15以上評価が低い。一方、60歳代以上は0.15以上評価が高い。性別では男性の方が評価が低い。
- わからないとする割合は、10・20歳代が33.3%、30歳代が23.2%と若年層で高く、施策の情報発信の強化が求められる。



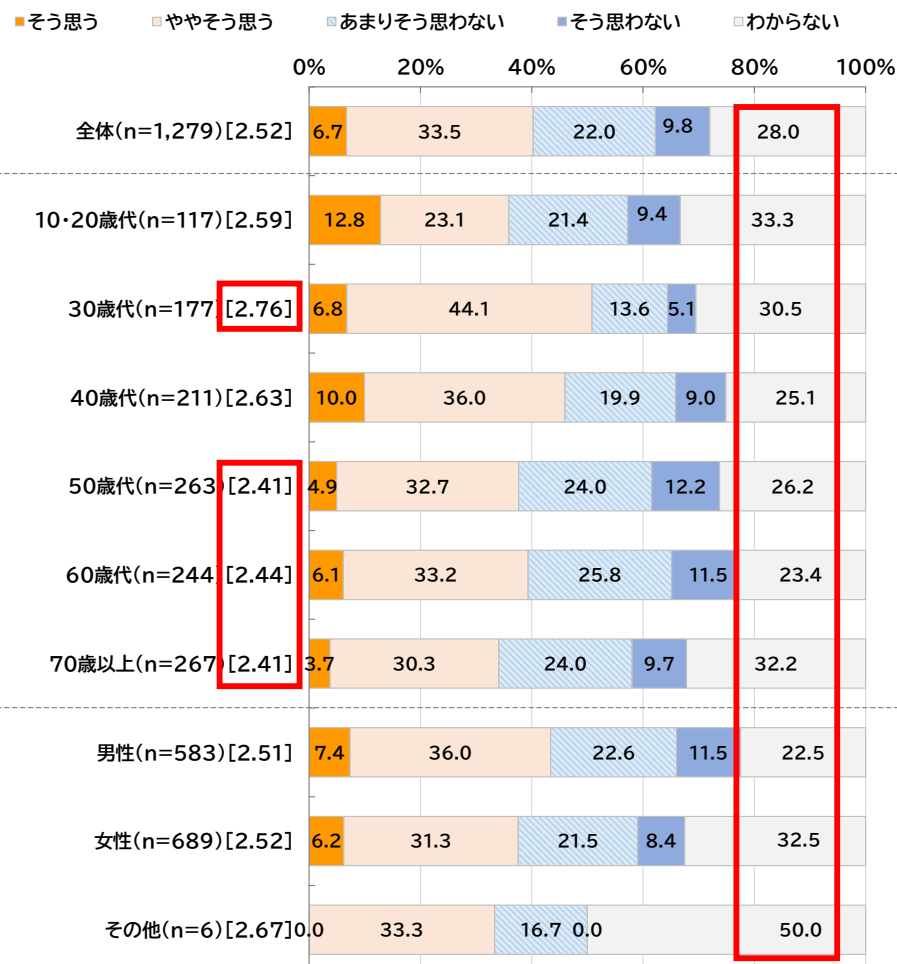
<4-3 自然や環境が守られている>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下と低く、施策が浸透している。



<4-4 森林の整備や保全活動が活発に行われている>

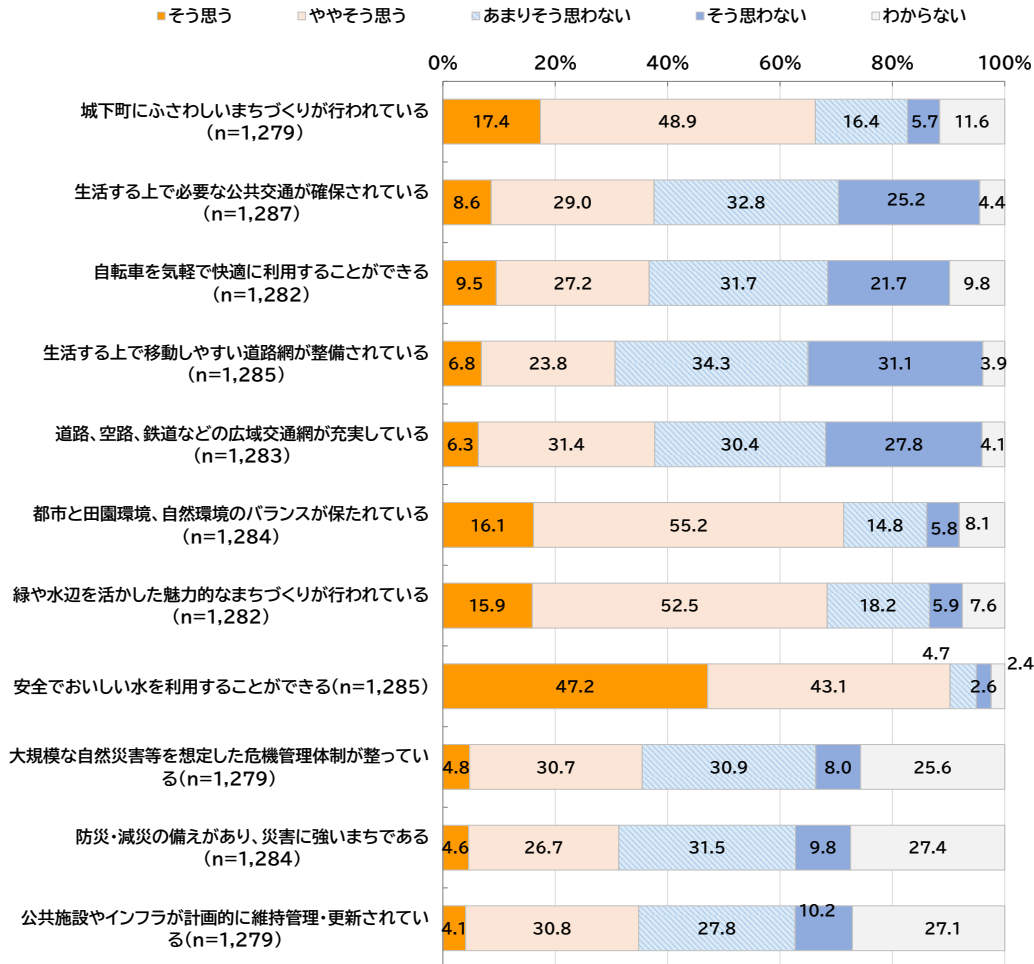
- 平均点を年代別にみると、肯定的評価の割合は30歳代が50.9%と高く、年代が上がるにつれ、低くなっている。
- わからないとする割合は、どの年代でも20.0%を超えている。



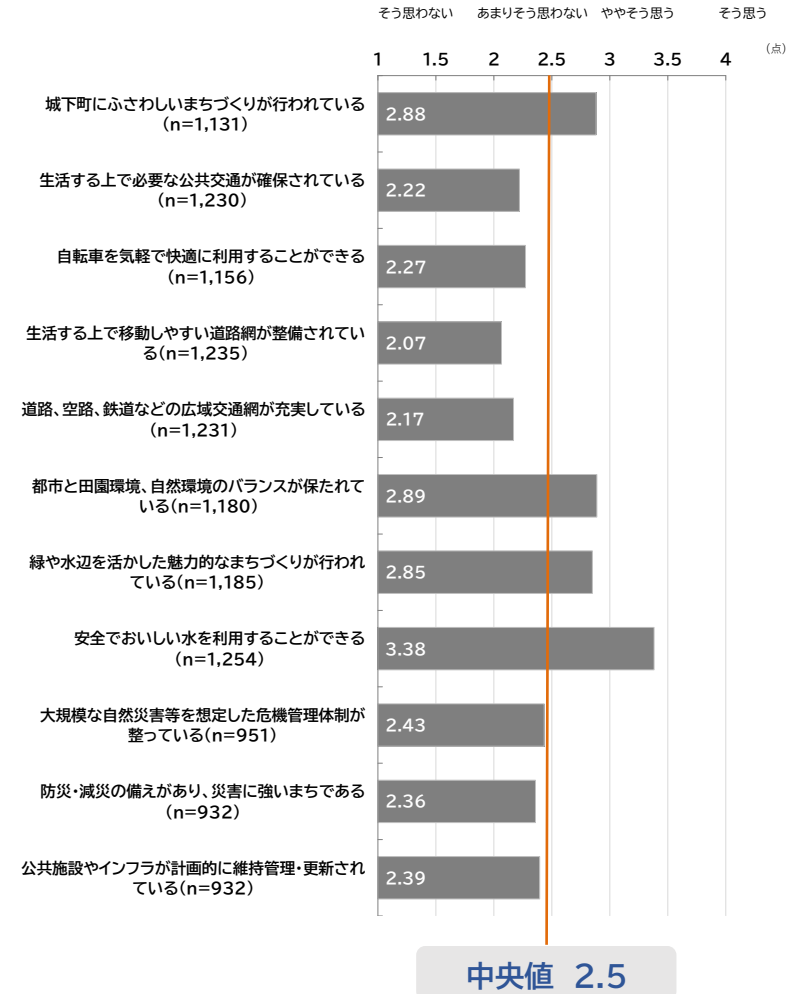
(5)「都市基盤・危機管理」分野の詳細分析

当該分野の施策評価一覧

当該分野の傾向：回答割合

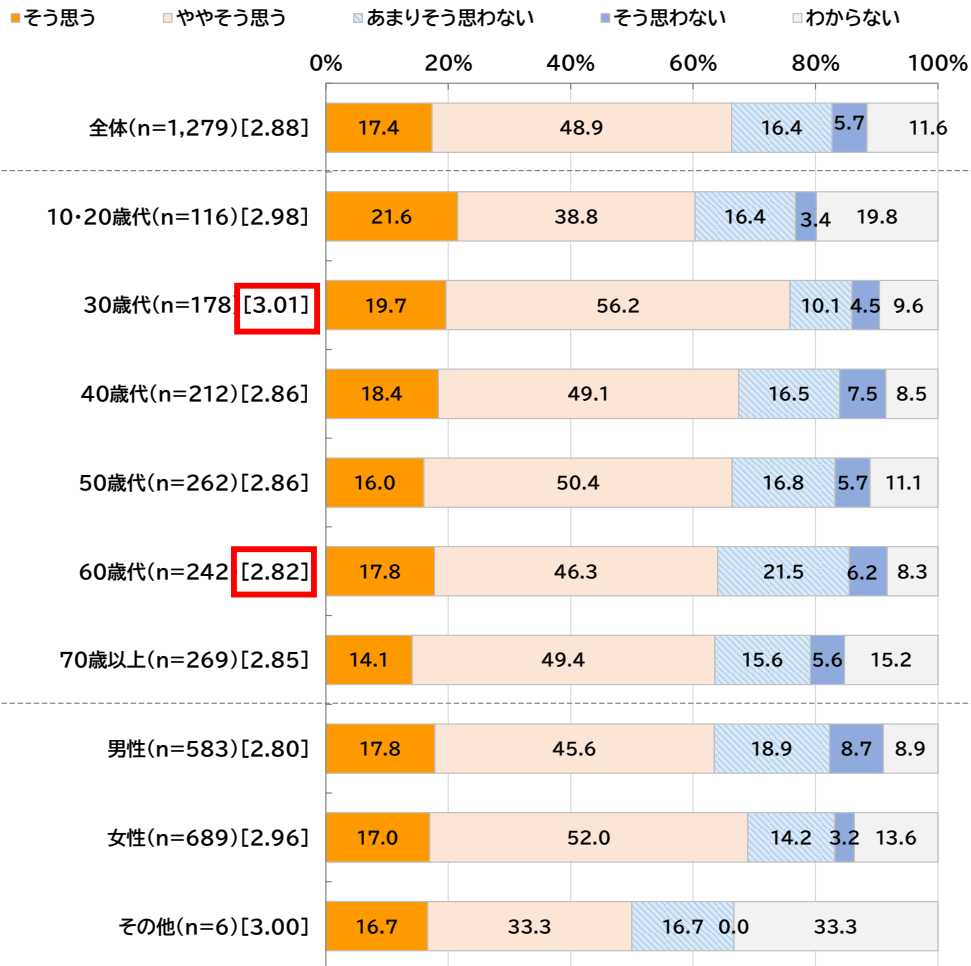


当該分野の傾向：得点の比較



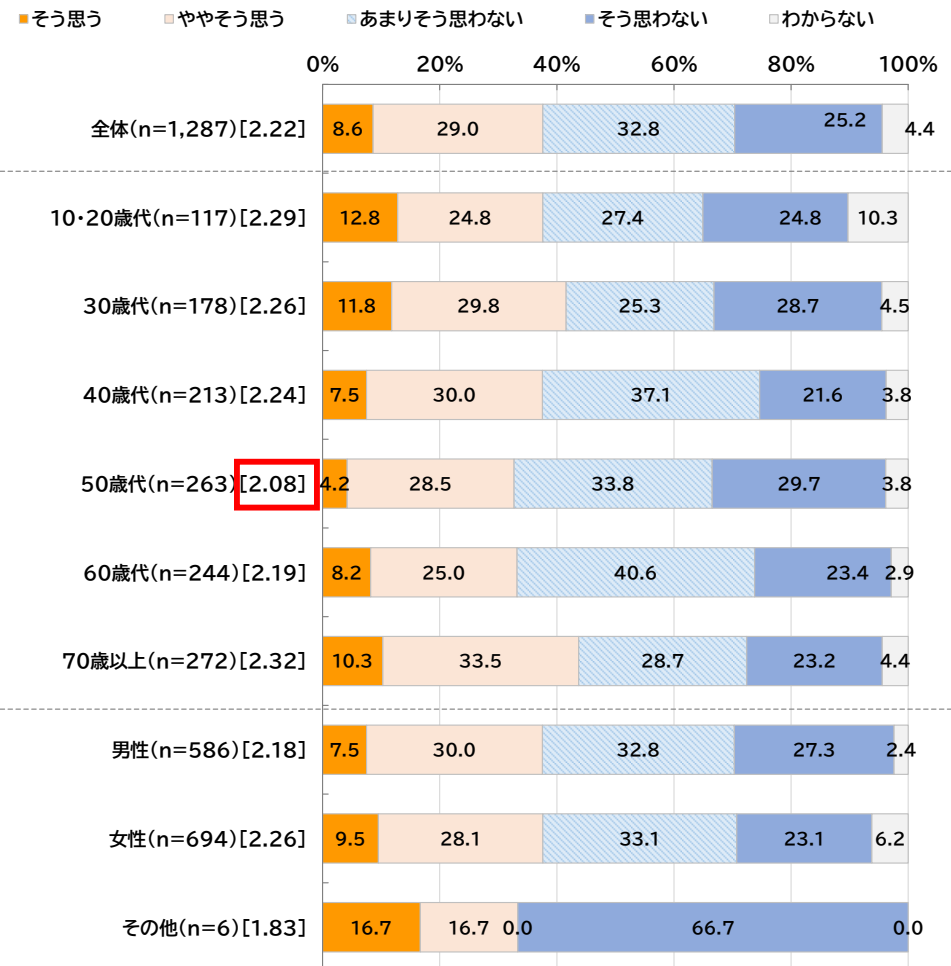
<5-1 城下町にふさわしいまちづくりが行われている>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上であり、評価が高い傾向にある。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差はみられないが、属性内でみると、30歳代が3.01と高く、60歳代が2.82と評価が低い。
- わからないとする割合は、大半の層で2割以下であり、浸透している施策である。



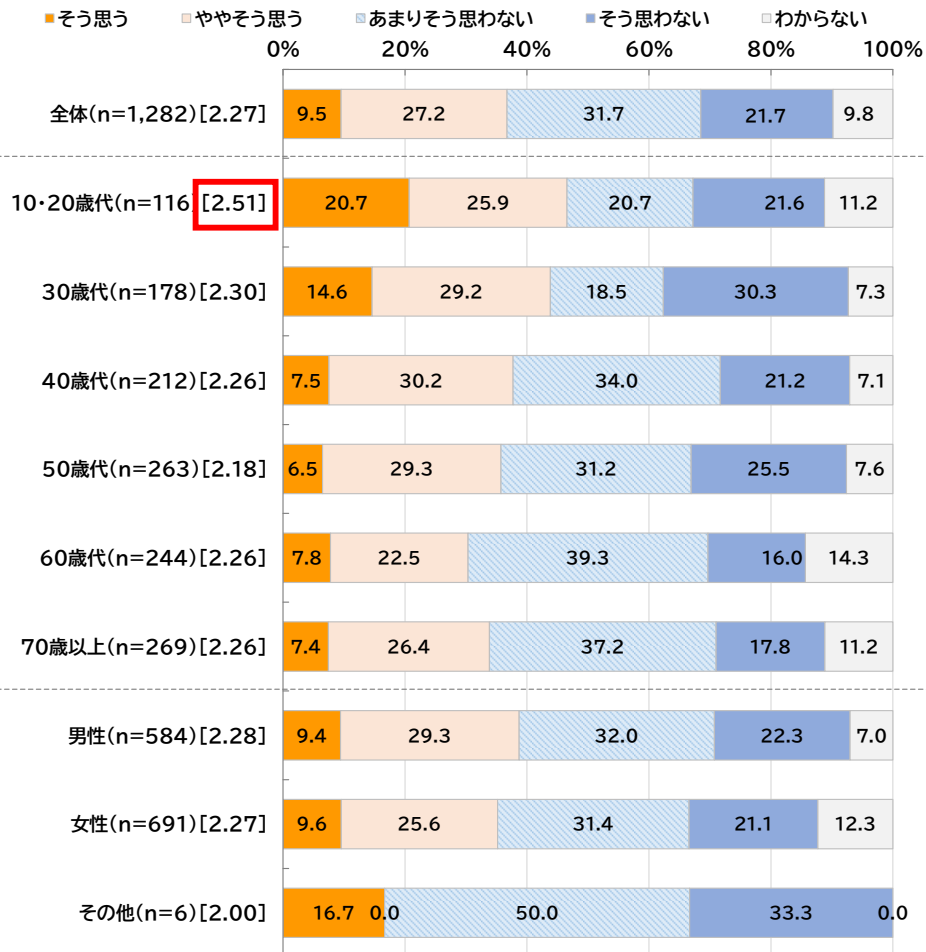
<5-2 生活する上で必要な公共交通が確保されている>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以下であり、評価が低い。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるのは、50歳代で、2.08と評価が低い。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下であり、施策が浸透している。



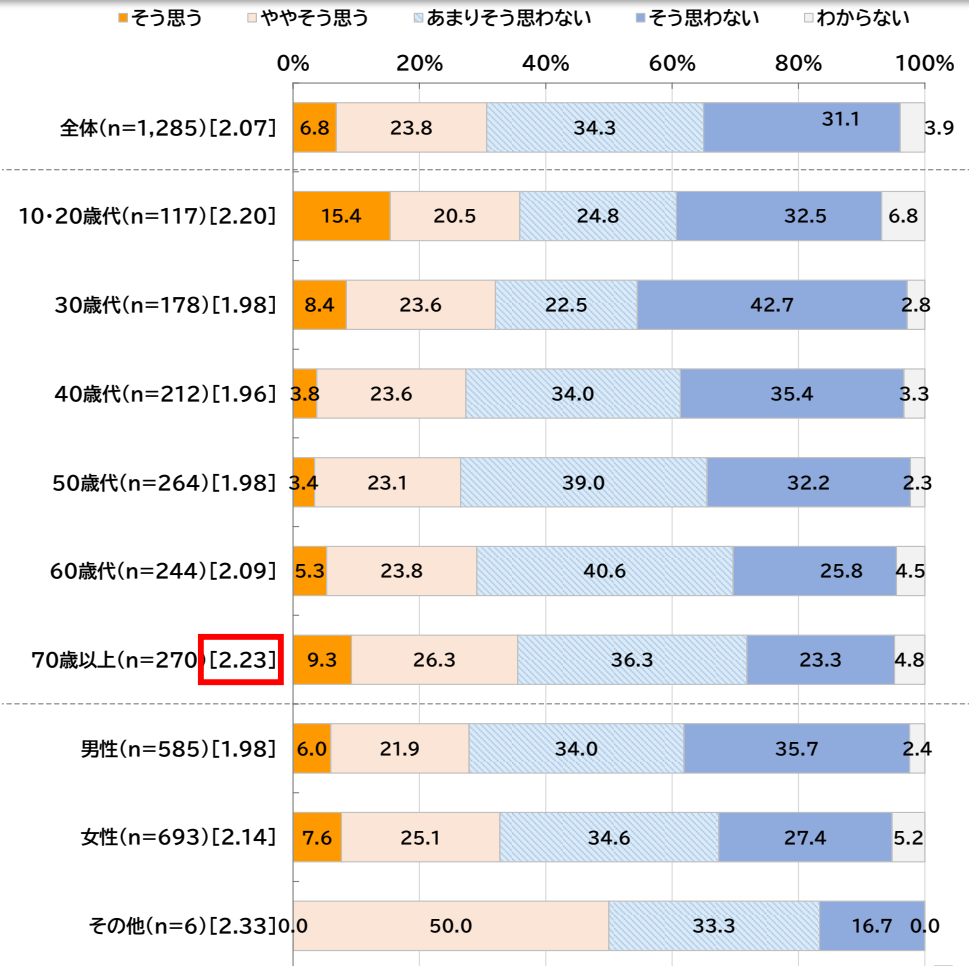
<5-3 自転車を気軽に快適に利用することができる>

- 平均点は、10・20歳代のみ2.51と中央値2.50以上であるが、それ以外の層では下回っている。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるのは、10・20歳代であり、他の年代と比較し、現状評価が高い。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下であり、施策が浸透している。



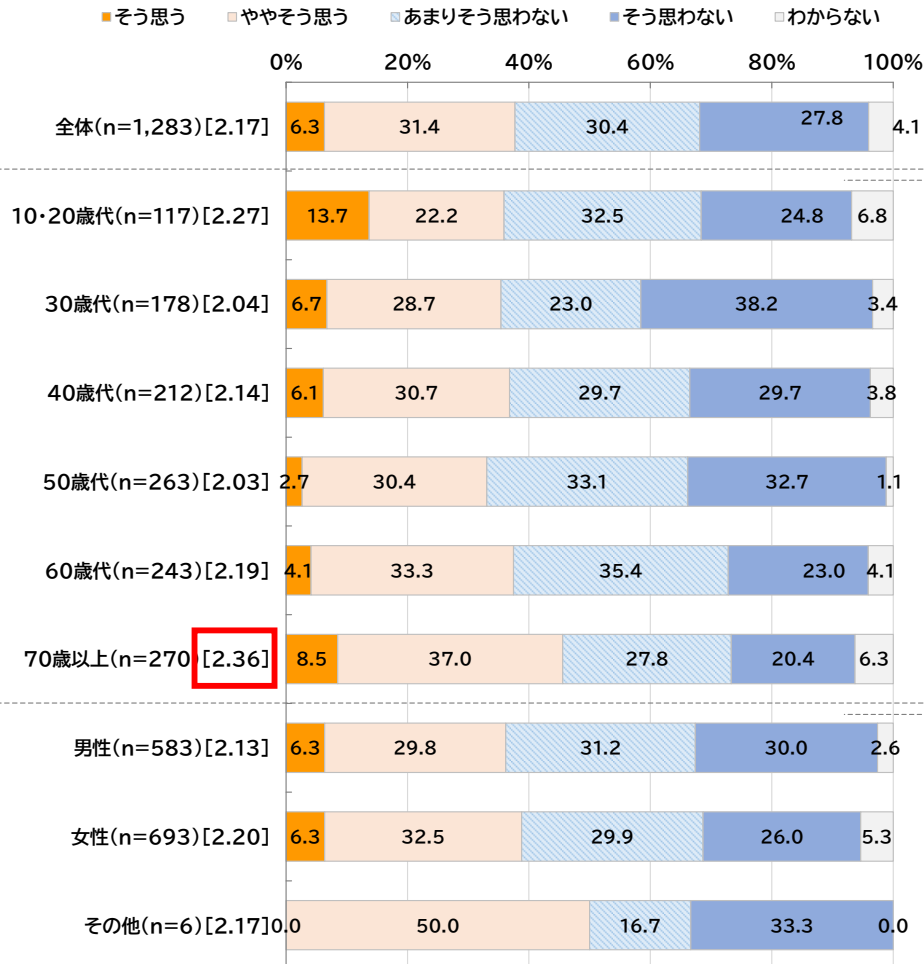
<5-4 生活する上で移動しやすい道路網が整備されている>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以下であり現状評価が低い施策である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるのは、70歳以上で2.23と他の年代と比較し、現状評価が高い。
- わからないとする割合は、すべての層において1割以下であり、非常に浸透している。



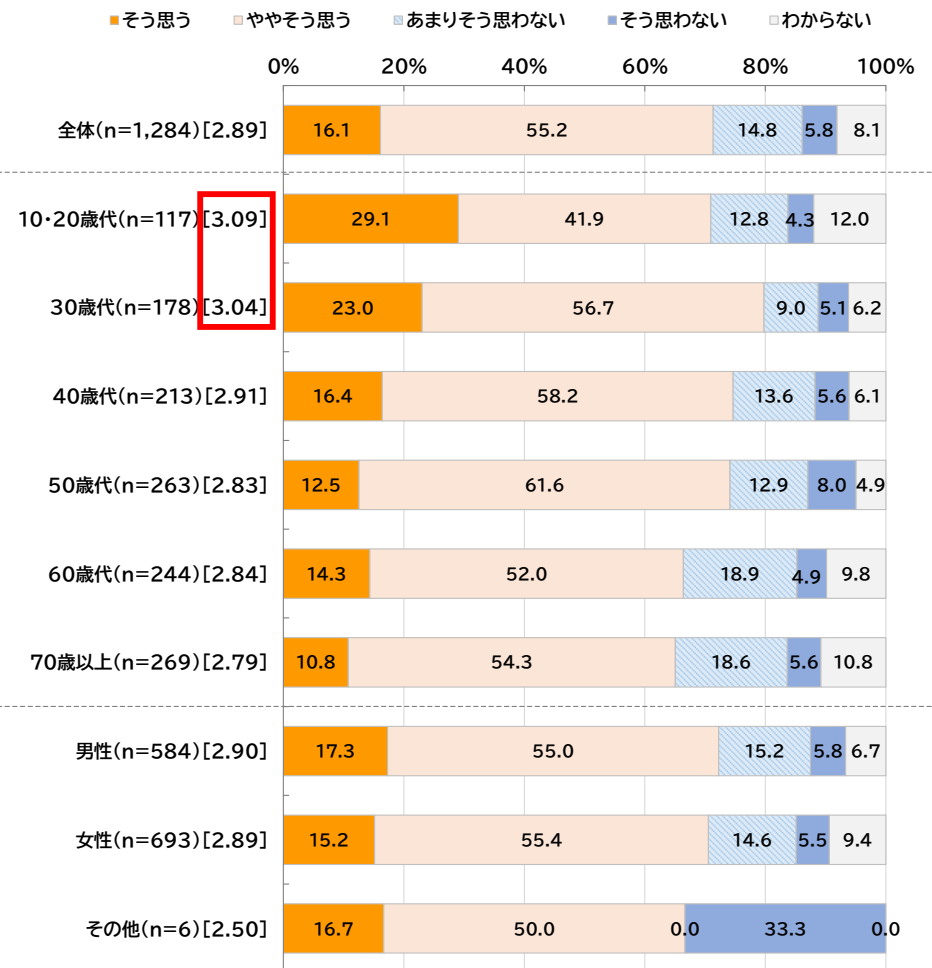
<5-5 道路、空路、鉄道などの広域交通網が充実している>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50を下回っており現状評価が低い施策である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるのは、70歳以上で2.36と他の年代と比較して評価が高い。
- わからないとする割合は、すべての層で1割以下であり、施策は非常に浸透している。



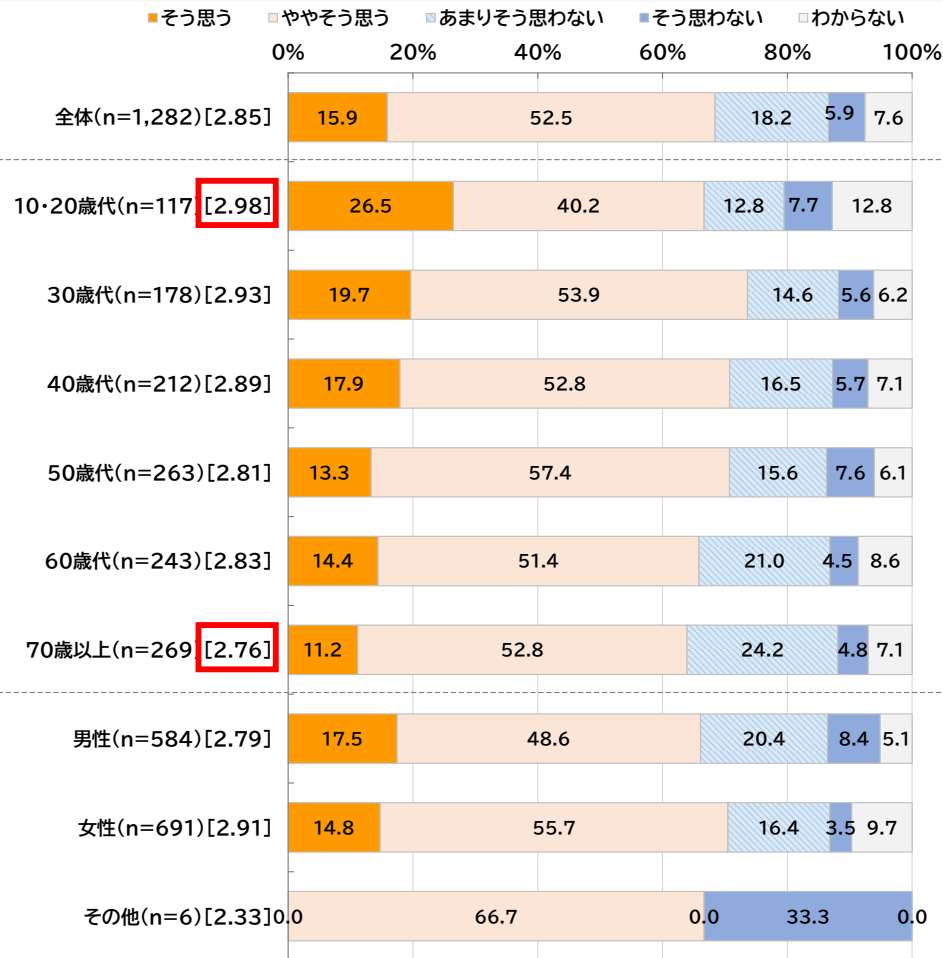
<5-6 都市と田園環境、自然環境のバランスが保たれている>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上と現状評価が高い。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差があるのは、10・20歳代及び30歳代で、3.00以上と他の年代と比較し、現状評価が高くなっている。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下であり、施策が浸透している。



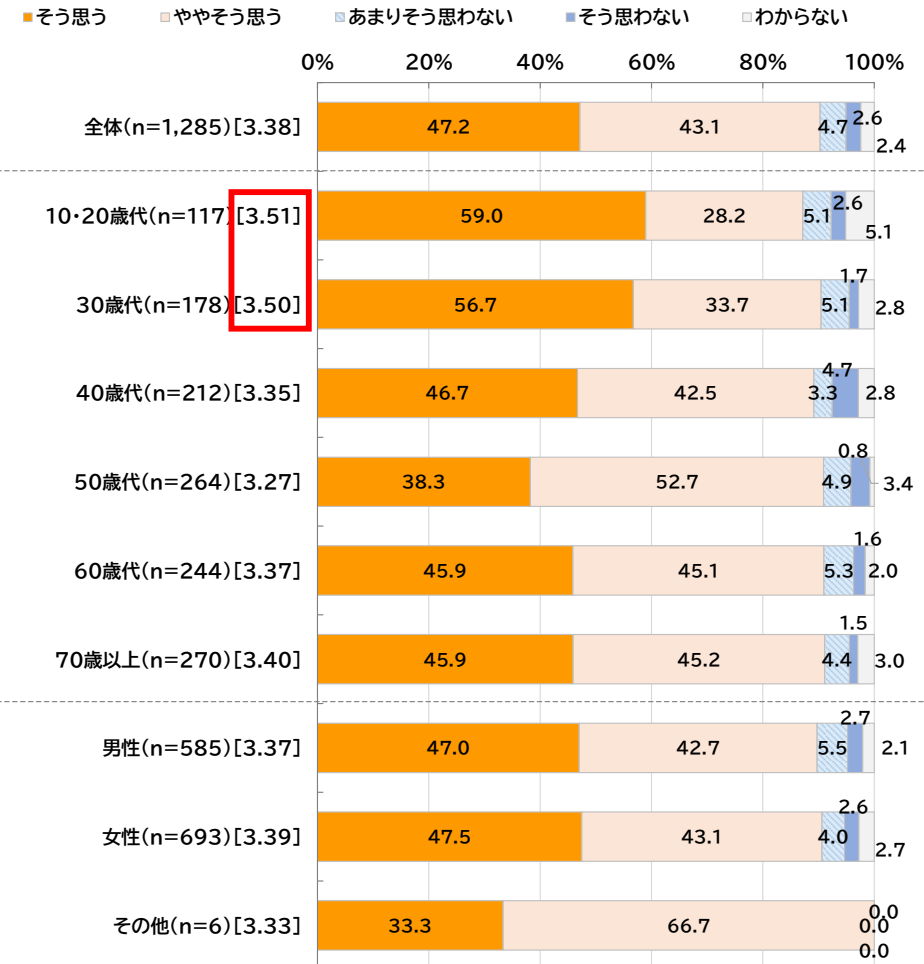
<5-7 緑や水辺を活かした魅力的なまちづくりが行われている>

- 平均点は、大半の層で中央値2.50を上回っている。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはないが、属性内で見ると10・20歳代で2.98と高い一方、70歳以上は2.76と0.2以上の差がある。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下であり、施策が浸透している。



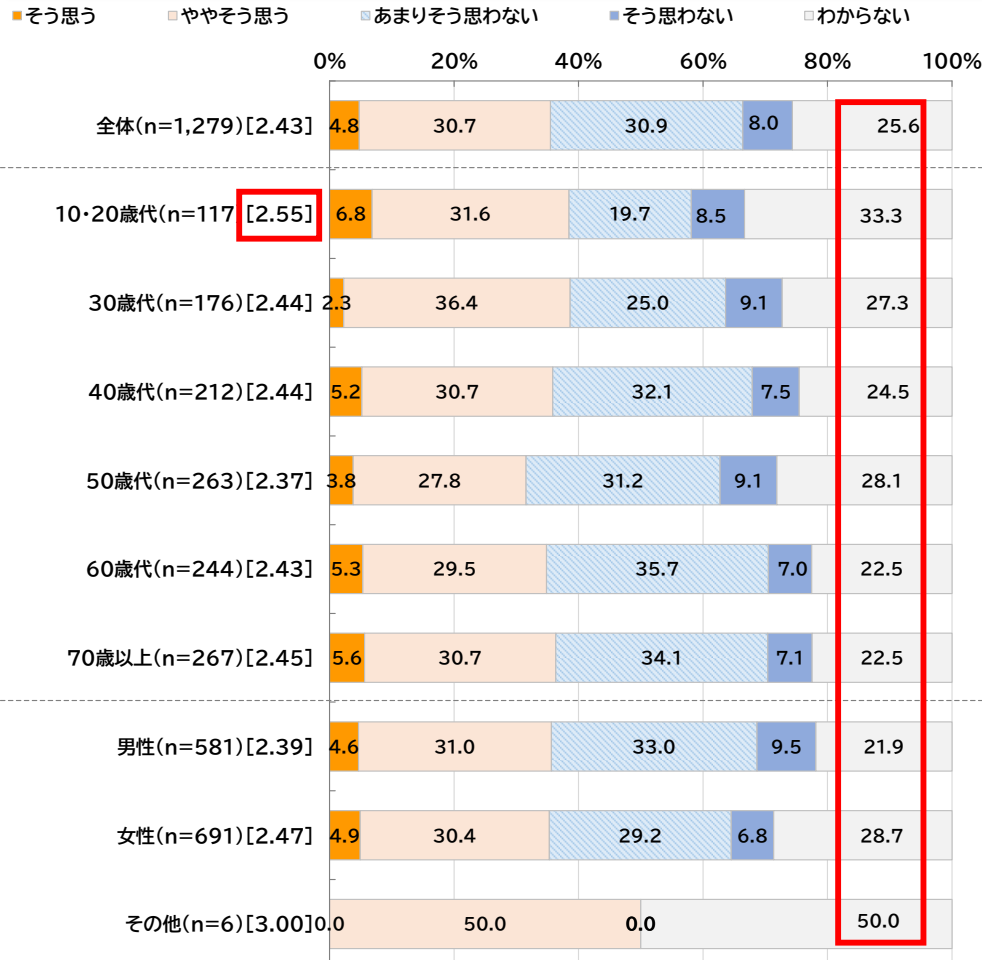
<5-8 安全でおいしい水を利用することができる>

- 平均点は、すべての層で3.00以上であり、非常に高い評価となっている。特に10・20歳代や30歳代の若い世代は3.50以上と評価が高い。
- わからないとする割合は、すべての層で1割以下であり、施策が非常に浸透している。



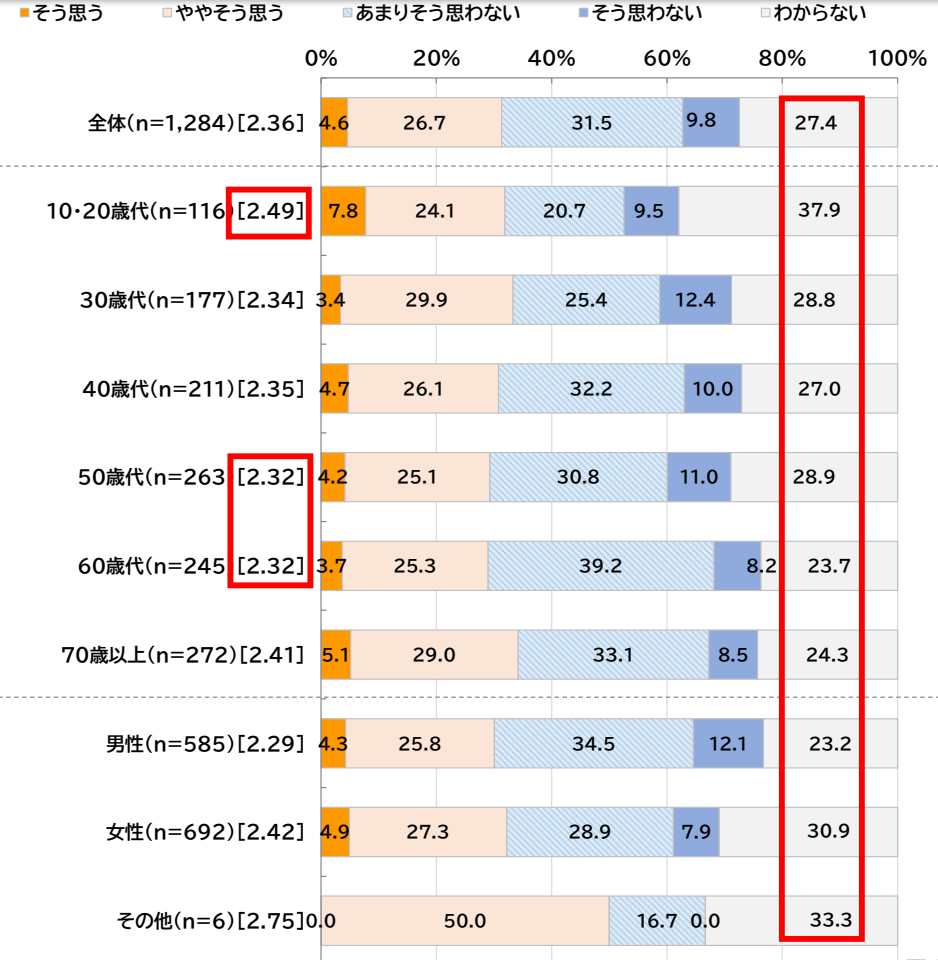
<5-9 大規模な自然災害等を想定した危機管理体制が整っている>

- 平均点は、10・20歳代のみ2.55と中央値2.50以上であるが、それ以外の層は中央値を下回っている。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以上と高く、施策が浸透しておらず、情報発信の強化が必要である。特に10・20歳代は33.3%と高い。



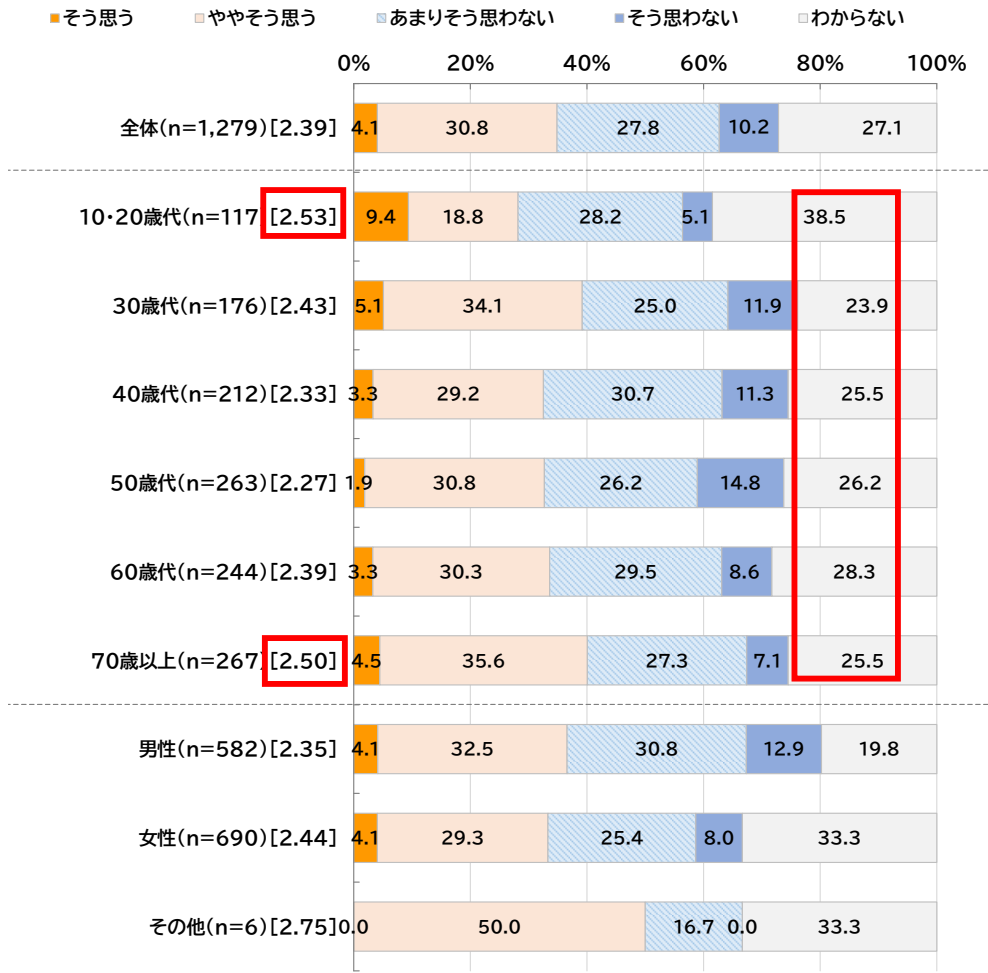
<5-10 防災・減災の備えがあり、災害に強いまちである>

- 平均点は、大半の層で中央値2.50以下であり、現状評価が低い。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはないが、属性内でみると10・20歳代で2.49と高い一方、50・60歳代は2.32と現状評価が低い。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以上と高く、施策が浸透しておらず、情報発信の強化が必要である。特に10・20歳代は37.9%と高い。



<5-11 公共施設やインフラが計画的に維持管理・更新されている>

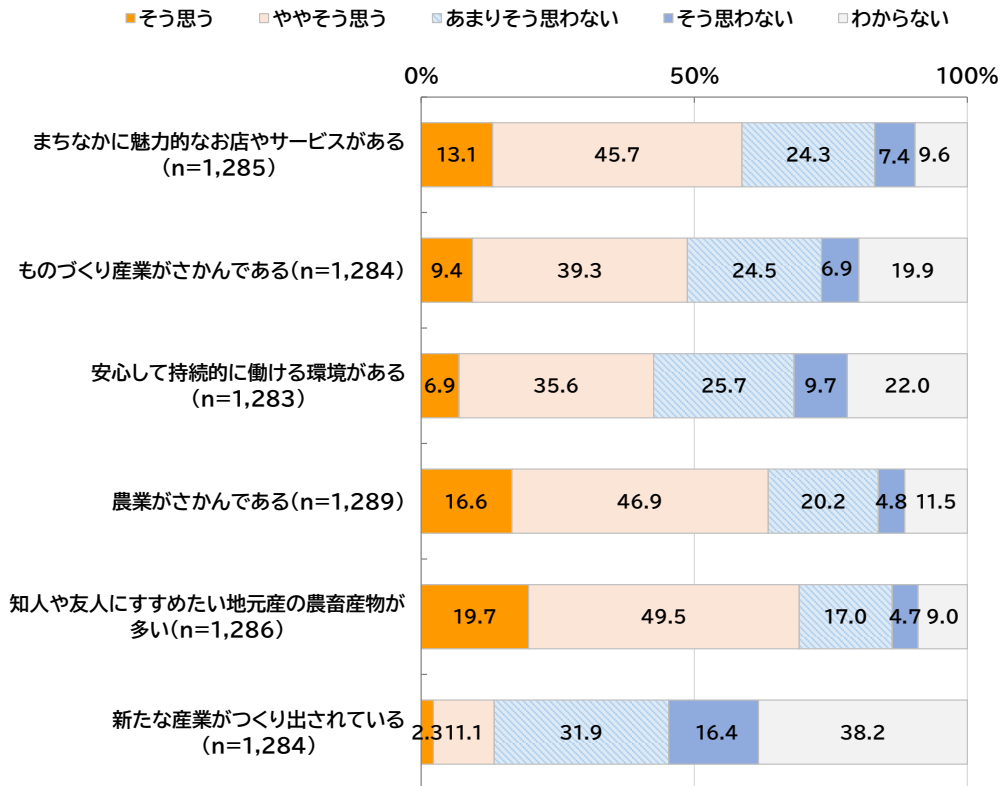
- 平均点は、10・20歳代、70歳以上は中央値2.50以上であるが、それ以外の層は中央値を下回っている。
- わからないとする割合は、10・20歳代が38.5%と高い。他の年代も2割台と高く、情報発信の強化が必要である。



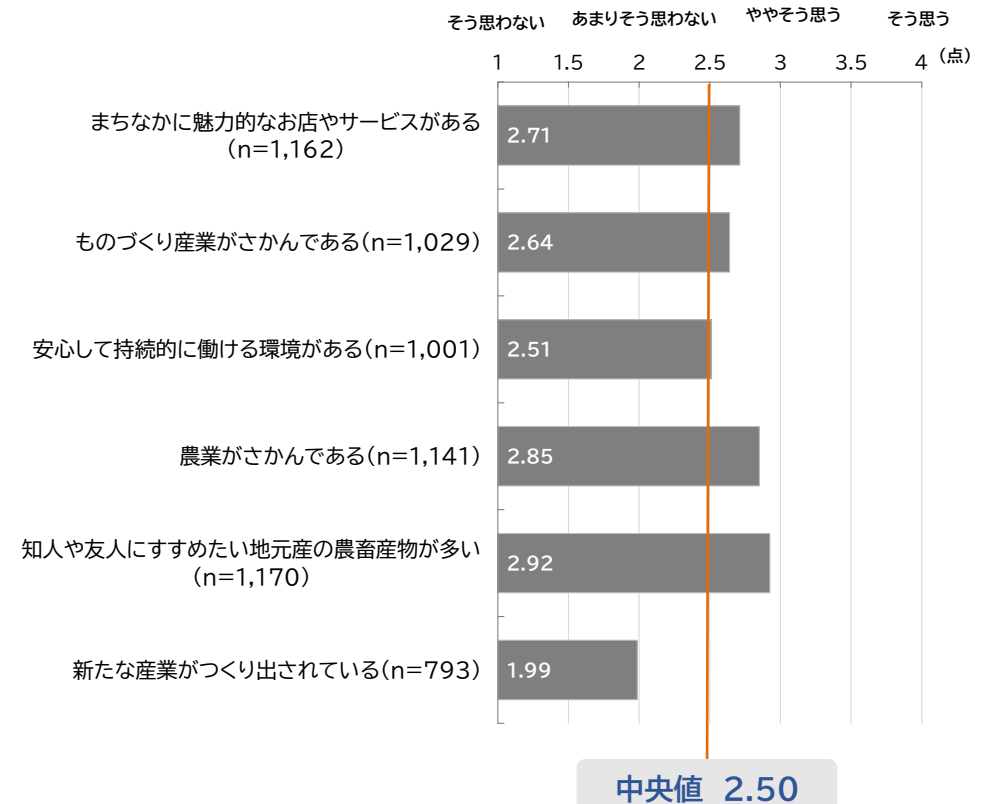
(6)「経済・産業」分野の詳細分析

当該分野の施策評価一覧

当該分野の傾向:回答割合

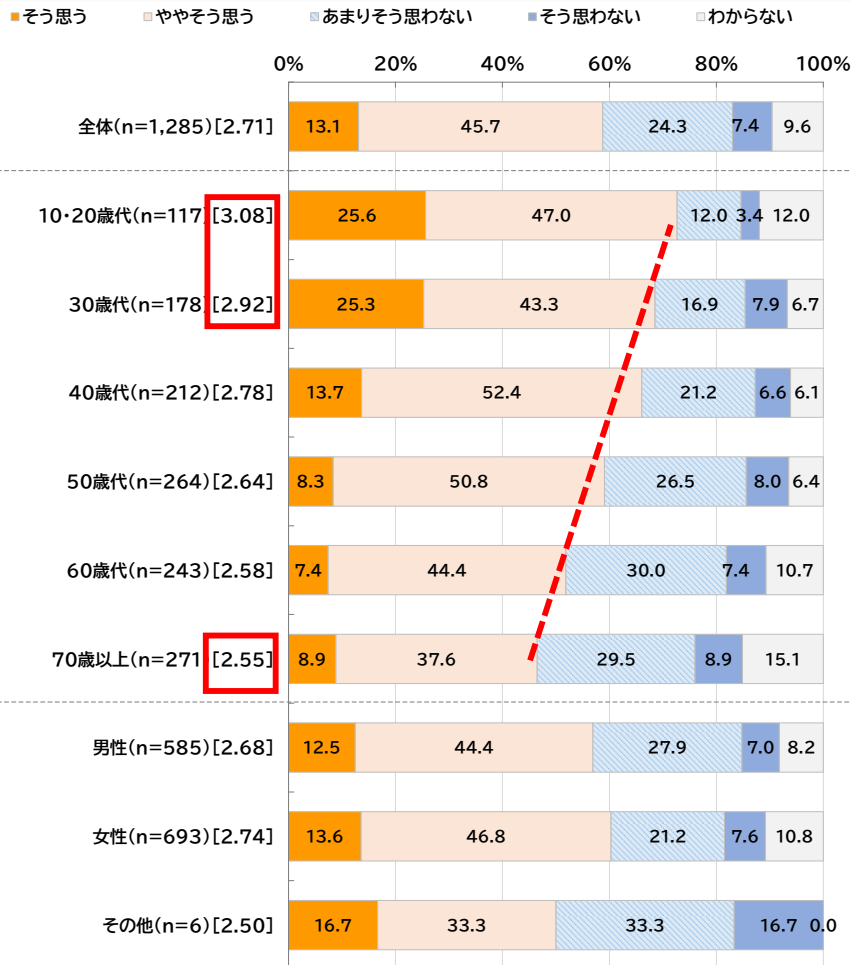


当該分野の傾向:得点の比較



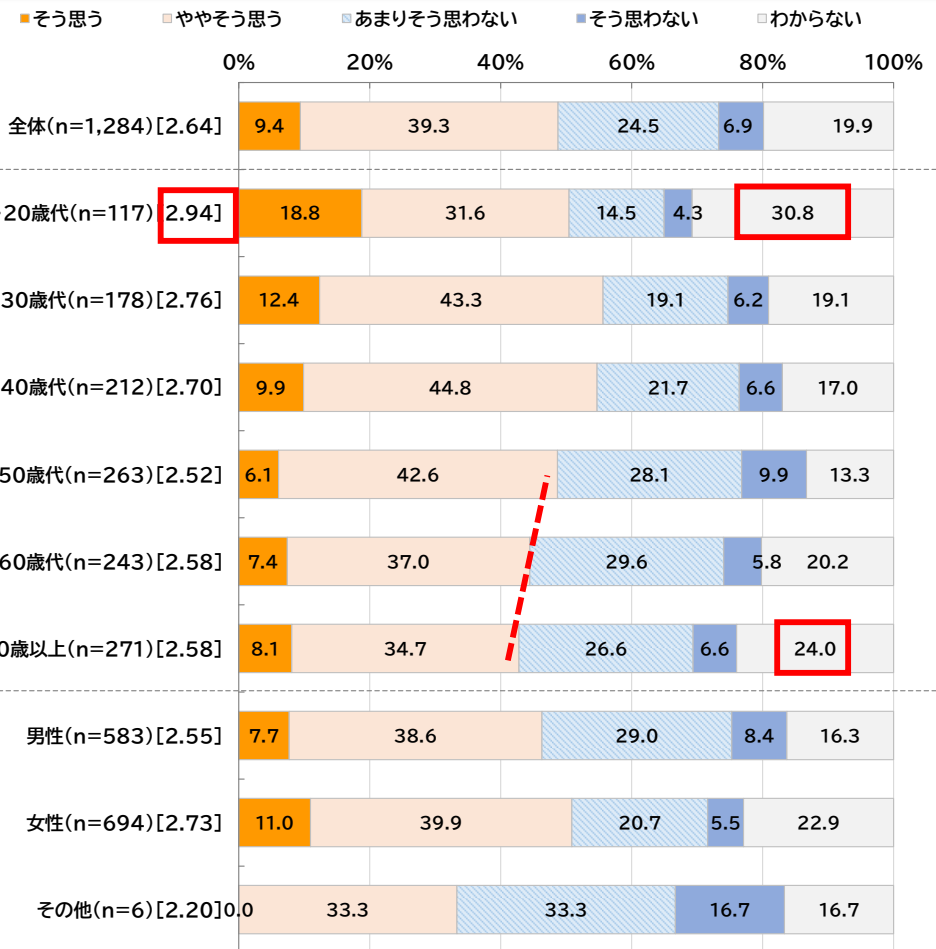
<6-1 まちなかに魅力的なお店やサービスがある>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるのは、10・20歳代で3.08、30歳代で2.92と現状評価が高い。一方、70歳以上は2.55と評価が低い。年代が上がるにつれ、評価が下がる傾向にある。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下であり、施策が浸透している。



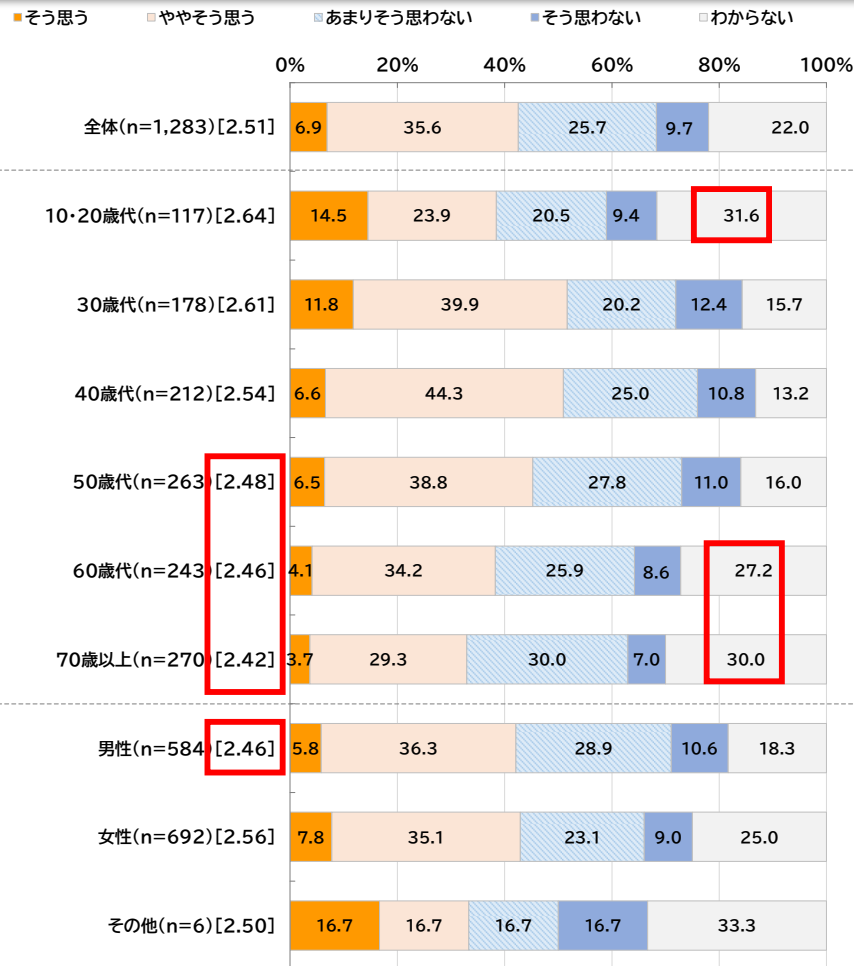
<6-2 ものづくり産業がさかんである>

- 平均点は、の層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるのは、10・20歳代で2.94と評価が高い。なお、50歳代から評価が下がる傾向にある。
- わからないとする割合は、10・20歳代で30.8%、70歳以上で24.0%と高くなっている。



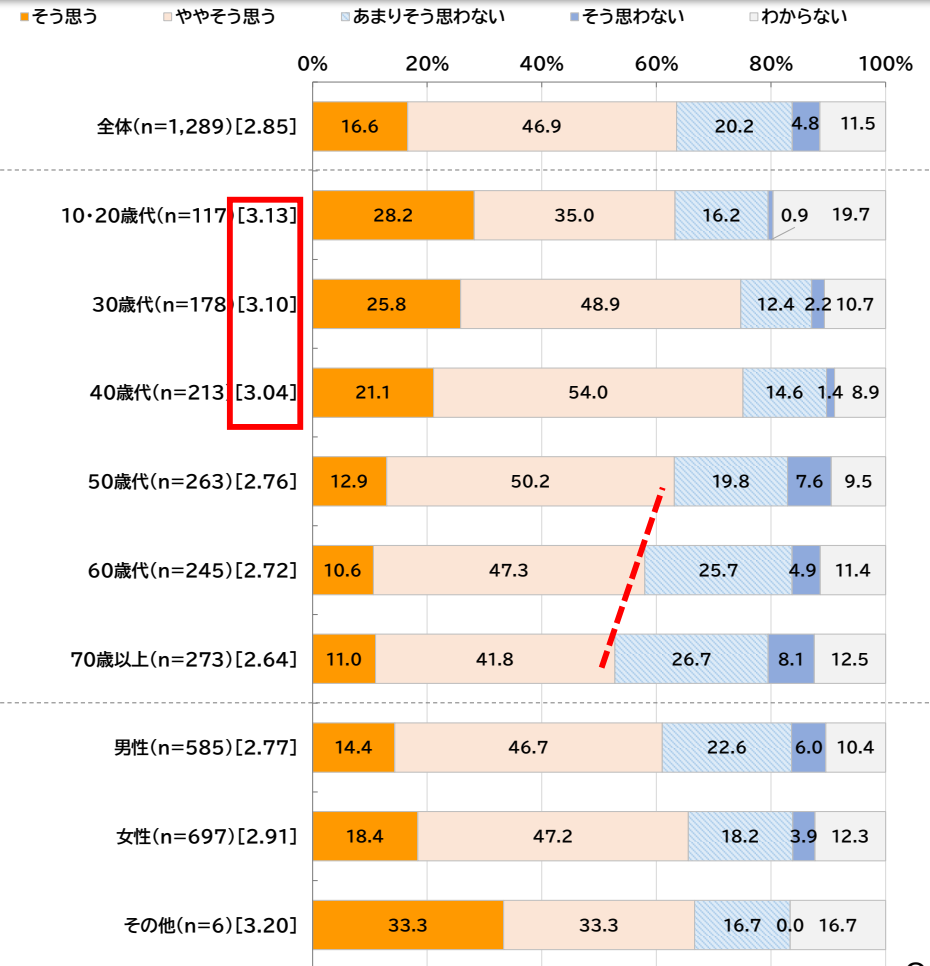
<6-3 安心して持続的に働ける環境がある>

- 平均点は、50歳代以上及び男性で中央値2.50を下回っている。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。
- わからないとする割合は、10・20歳代及びシニア層で高い傾向にある。仕事を選択する若い世代に施策が浸透していないことは特に課題といえる。



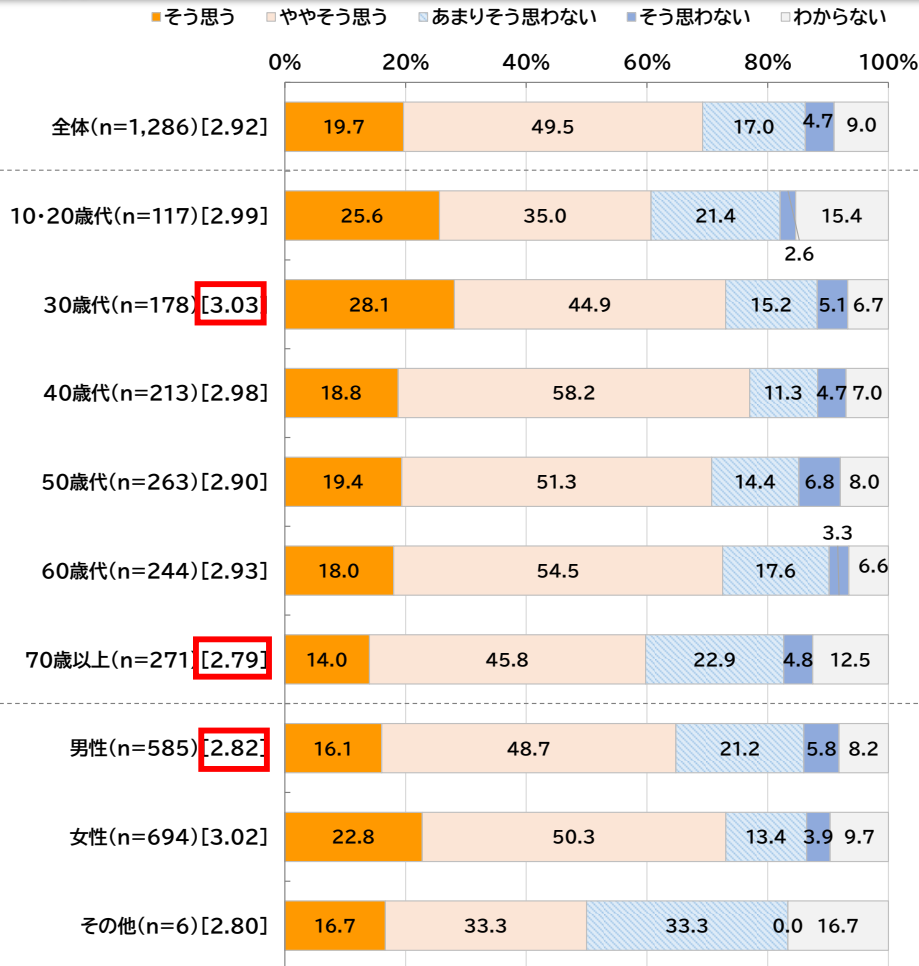
<6-4 農業がさかんである>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるのは、10・20歳代から40歳代で3.00以上と評価が高い一方、50歳以上から評価が下がっている。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下であり施策が浸透している。



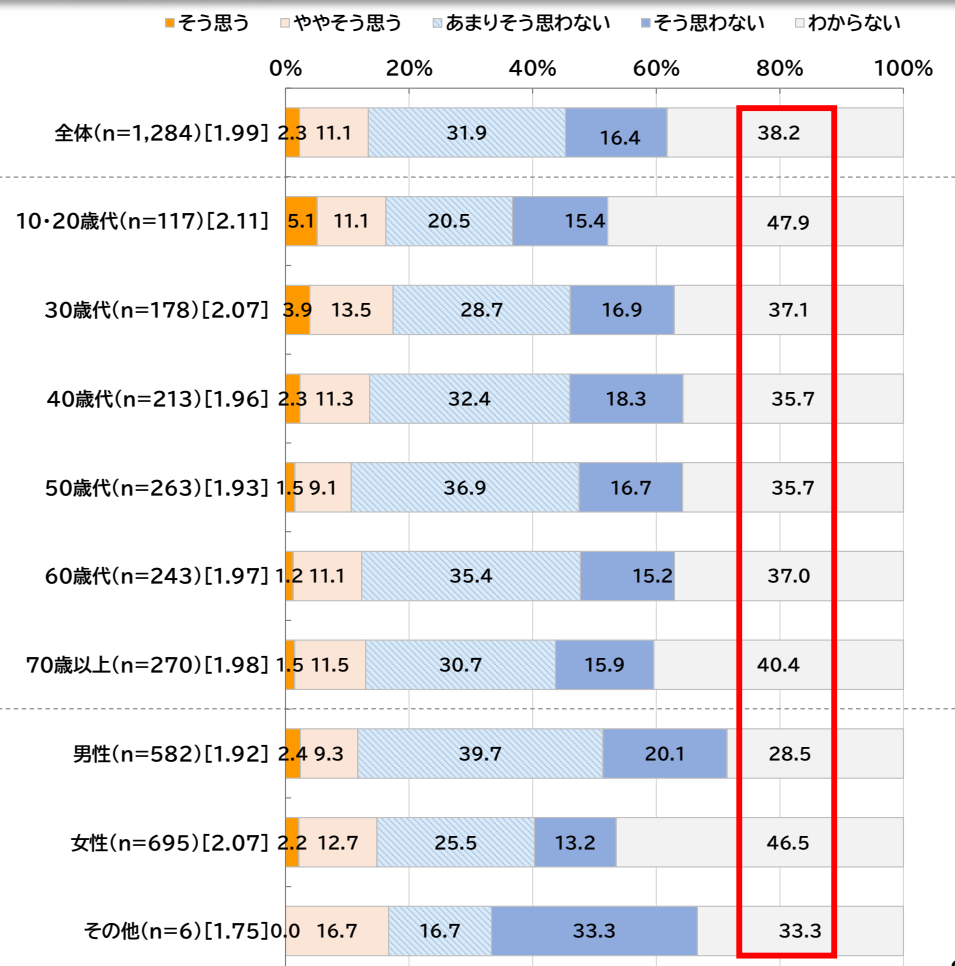
<6-5 知人や友人にすすめたい地元産の農畜産物が多い>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはないが、属性内でみると30歳代が3.03と高い一方、70歳以上で2.79と低い。また、男性の評価が低い傾向にある。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下であり、施策が浸透している。



<6-6 新たな産業が作り出されている>

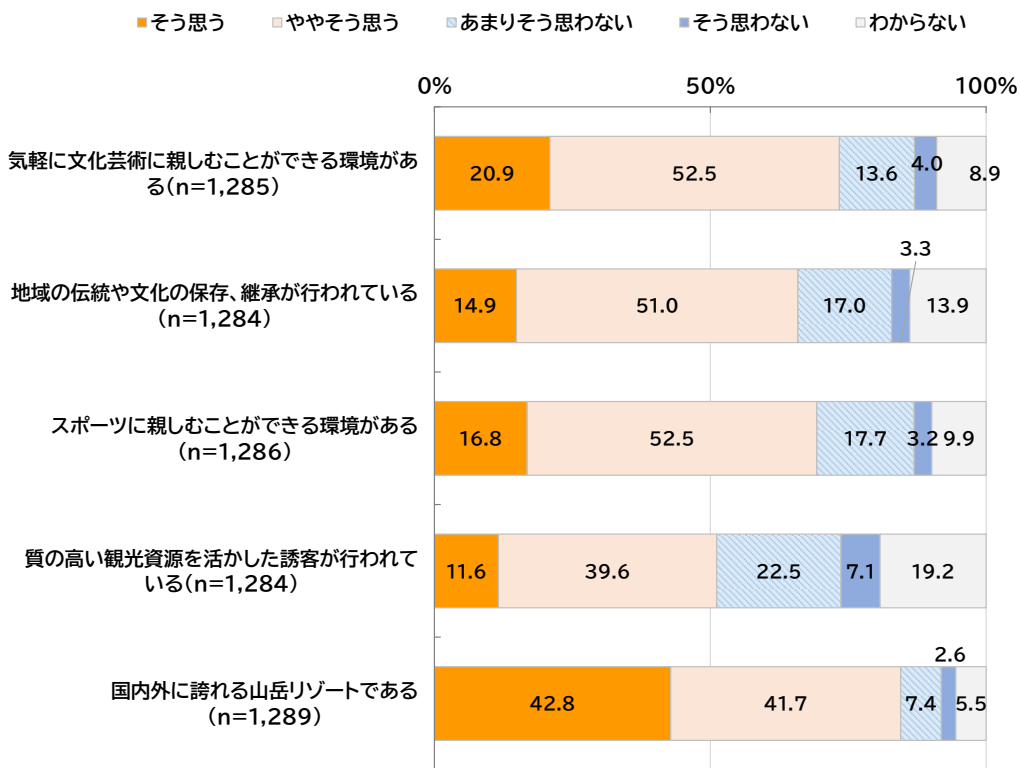
- 平均点は、すべての層で中央値2.50以下であり、評価が低い。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはないが、40歳代以上から2.0以下と評価が下がっている。
- わからないとする割合は、すべての層で3割以上と高く、評価できる者が少なく、情報発信の強化が必要である。特に10・20歳代や女性で5割弱と非常に高い。



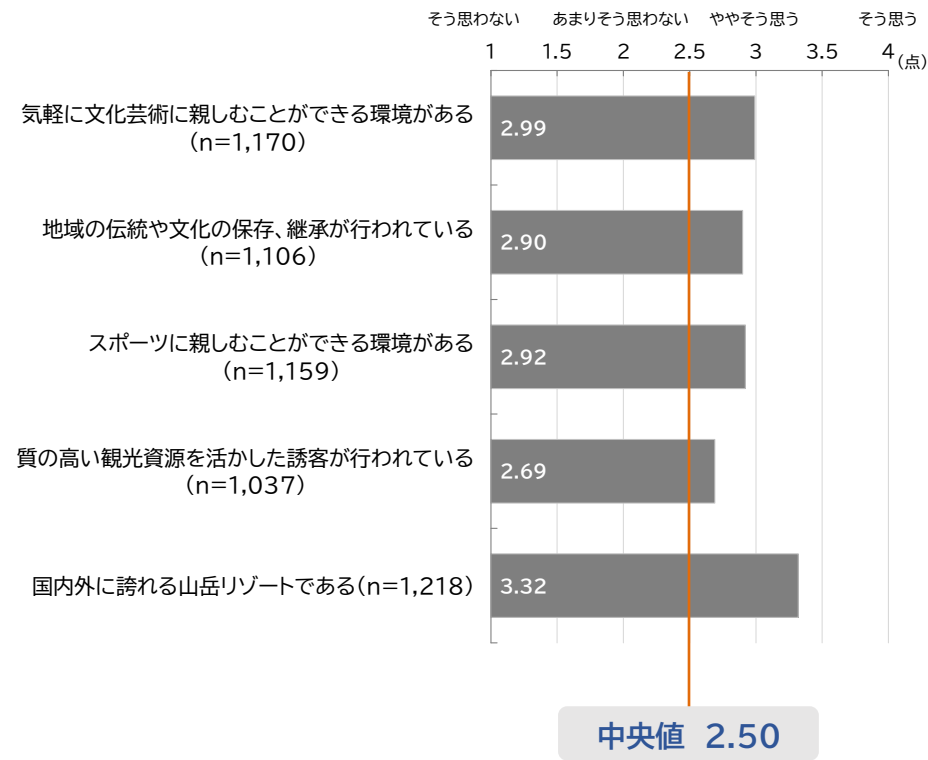
(7)「文化・観光」分野の詳細分析

当該分野の施策評価一覧

当該分野の傾向: 回答割合

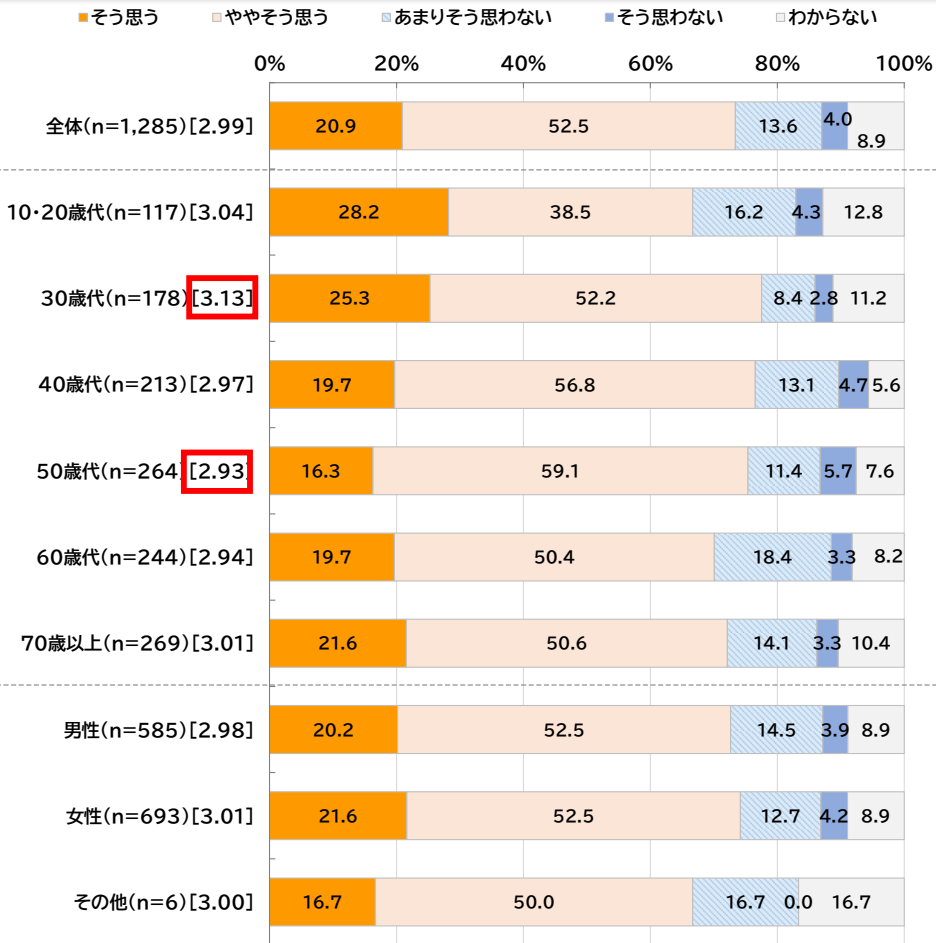


当該分野の傾向: 得点の比較



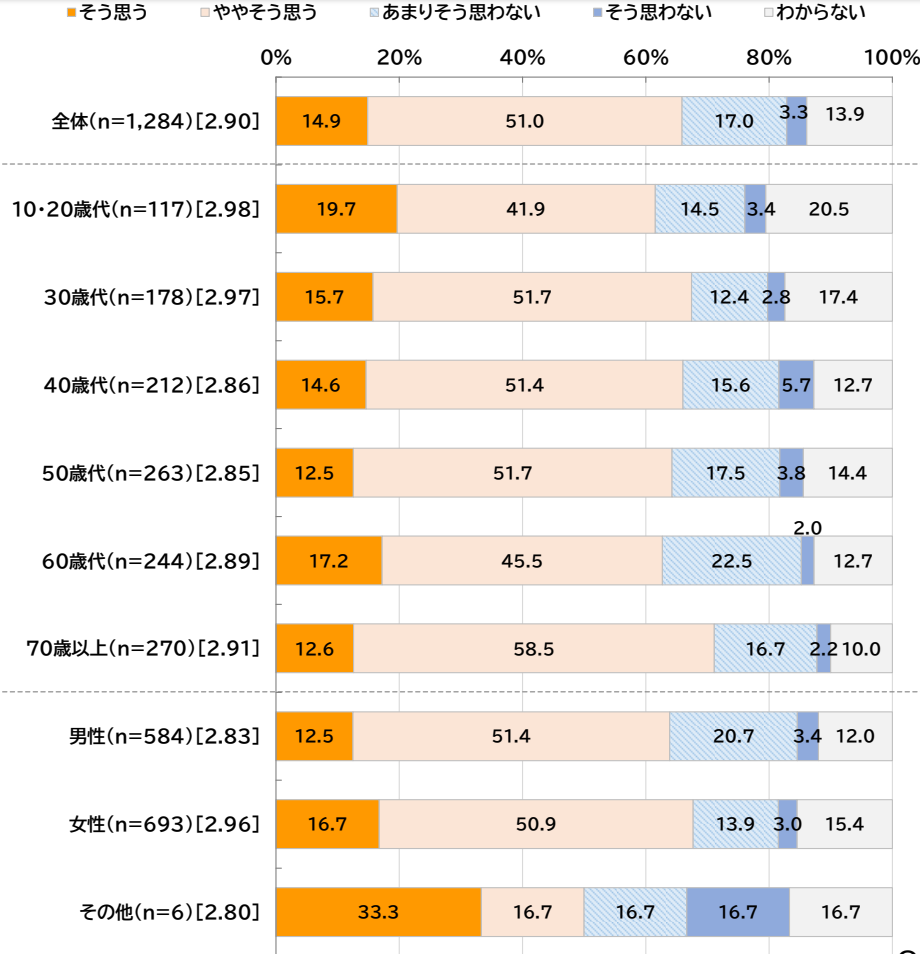
<7-1 気軽に文化芸術に親しむことができる環境がある>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。年代別では、30歳代は3.13と高い一方、50歳代は2.93と低い傾向にある。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下であり施策が浸透している。



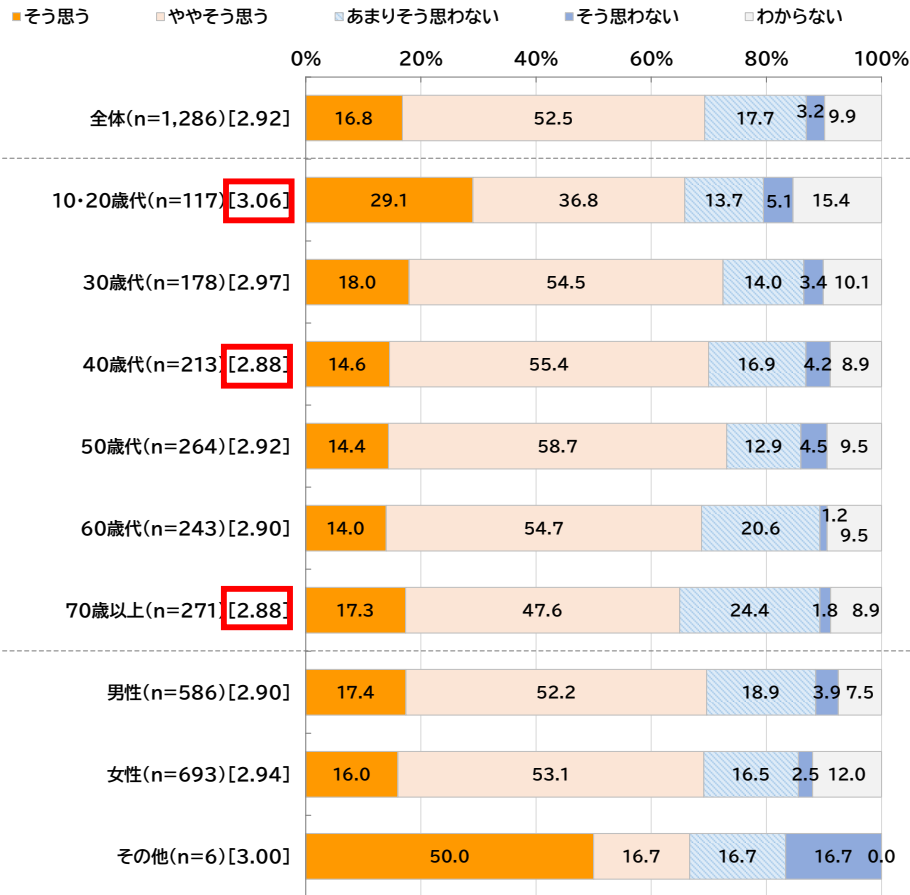
<7-2 地域の伝統や文化の保存、継承が行われている>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。
- わからないとする割合は、10・20歳代は20.5%であるが、それ以外は2割以下である。



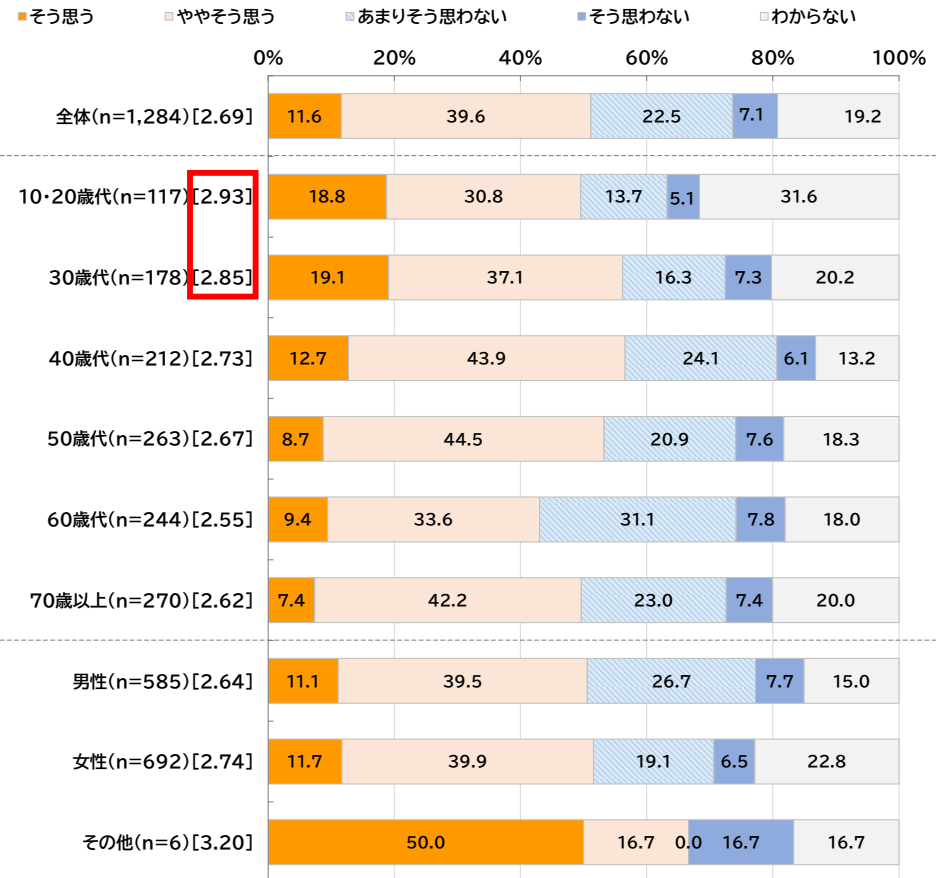
<7-3 スポーツに親しむことができる環境がある>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。年代別でみると、10・20歳代は3.06と高い一方、40歳代、70歳以上は2.88と低く、0.18の差があり、年代において違いがみられる。
- わからないとする割合は、すべての層で2割以下であり施策が浸透している。



<7-4 質の高い観光資源を活かした誘客が行われている>

- 平均点は、すべての層で中央値2.50以上である。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるのは、10・20歳代で2.93、30歳代で2.85であり、評価が高い。若年層への周知には課題がみられるが、施策を把握している若年層には一定の評価を得ている。
- わからないとする割合は10・20歳代が31.6%と高くなっている。



<7-5 国内外に誇れる山岳リゾートである>

- 平均点をみると、大半の層で3.0以上であり、非常に高い評価となっている。全体と属性別の得点を比較し±0.15以上の差がみられるものはない。
- わからないとする割合はすべての層で2割以下であり、施策が浸透している。

